

追悼・岡安政和

「追悼・岡安政和」編集委員会

発刊にあたって

この雑誌が新報の複製白紙印刷の再刊として

その遺志を運動の階級的民主的再生の力に

岡安さんが全金南部地協の八一春闘討論集会の会場で急逝されて一年四ヵ月がたちました。

この間、日本の労働組合運動は、急激に右傾化し、春闘は無惨な連敗を重ねています。

それはまた岡安さんがその生涯をかけて追求して止まなかった「資本・政党から独立し、労働者の要求で団結してたたかう」という、労働運動の原点ともいうべき立場の正しさを証明しています。「去る者日日に疎し」といいますが、岡安さんに限っては、そのたたかひの存在の重さを追想させる日日であります。

岡安さんは定時制の小山台高校で勉学に励み、一方では社会の動き、社会の仕組みに厳しい目を向け、一九五一年、学費値上げ反対闘争の先頭に立って指導性を発揮し、その頭角をあらわしました。一九五二年北辰電機入社、一年後労働組合に加入し、組合大会で多くの先輩をまえに三十分の演説を行い、会場のドギモを抜き、労働組合指導者としてのスタートをきりました。そのごの活動は、年譜にしめしたとおり、働く者の生活と権利を守るため、みずからの労苦と犠牲を惜しまず、労働者の良き相談相手となり、労働者の期待を一身に集めました。

一九七二年、住友資本の組合分裂攻撃にたいしては「資本から独立した労働組合」を守るた

めにあらゆる攻撃の矢面に立ち、全金の旗を守りました。資本の攻撃には厳しく、労働者の悩み・要求にはやさしく真剣に考える岡安さんの姿は敵に恐れられました。岡安さんは全金南部地協議長、全金東京執行委員などの経験のなから、「職場の自由と民主主義を守る中央連絡会議」、「統一戦線促進労働組合懇談会」等の活動に積極的に参加してきました。

岡安さんは自らの信条にもとづき、政治の革新、日本の平和、民主主義の問題をも日常活動の分野として位置づけ、砂川基地反対闘争をはじめ、五〇年代以降の主要な政治闘争のすべてにわたり、北辰の労働者の先頭にたって大きな役割を果たしてきました。

右のような岡安さんの、短かかったけれども凝縮されたといつてよいたかいと成果、人となりのすべてをこの文集で述べることはできませんが、その一端だけでもみなさまに残すことができれば、と思い、私もここに「追悼・岡安政和」を発刊することにいたしました。

労働運動をめぐる情勢はきびしさだけではなく、運動の民主的、階級的構築の波も湧きだっており、その展望も確実に切り開かれています。この追悼集がそのための力ともなれば岡安さんもきつと満足されましょう。御協力戴いたたくさんの方々に厚く御礼申し上げます。

一九八二年六月

目次

一	発刊にあたって	1
二	年譜 構成詩 最後の演説	8
三	グラビア	24
四	弔辞	33
	全金東京地本執行委員長	森野 徳雄 34
	東京地評常任幹事	森本 一雄 36
	全金北辰電機支部副委員長	松本 彦栄 37
	大田区労協議長	石島 卓爾 41
	友人代表	三條 義篤 43
	故岡安政和氏病状並びに経過報告	生井 宇平 47
	葬儀委員長あいさつ	高橋 恒雄 49
	全金南部地協議長	
	全金北辰電機執行委員長代行	
五	追悼	51

信念を寸時も失わぬ人

不屈のたたかひの人

親子二代のつながりの中で

「コンビ」で労働運動を発展させた

労働者の楽天性をもった人

ウルサ方、頑固な美少年だった

大衆の中に生きぬいた故岡安政和君を偲んで

岡安さんを偲ぶ

六 「偲ぶ会」の発言から

名目の墓誌銘をあらためるために

眞実一路の人

ともにたたかった争議団の一員として

岡安書記長と二年組んで

侍大将だった岡安さん

南部の伝統に結ばれて

吉田 資治―52

引間 博愛―54

山崎 良一―56

渋谷 要―58

小池 清雄―60

沢口 静夫―62

高山 勘治―64

高木 督夫―66

森野 徳雄―68

吉田 明―70

小沢 信男―72

青山 純夫―75

榑 利夫―78

八代 栄三―80

67

早く芽生えた岡安さん

石井 博 | 82

住友銀行に坐りこんで動ぜず

小菅 滋 | 84

小数にされてもやめられぬたたかいの同志

森本 一雄 | 86

裁判で勝ってむくいたい

高橋 融 | 88

ひとこと、ふたことでよろこびを共有できたあなたに

一輪の花を捧げます

橋本 利正 | 89

七 岡安さんの論文集

北辰電機における暴力支配の実態と特徴

| 94

民社党の暴力・人権侵害の体質

| 111

八 シナリオ 安さん頭張れ(一部)

岡安さんの作品を読んで

片桐 直樹 | 126

九 遺族の回想

夫、政和の想い出

岡安 靖子 | 142

雑草の記

岡安 謙一 | 155

帰らぬ政和さようなら

岡安たきせ | 164

すてきな夫婦・三枚目の父

三枝 光恵 | 169

十 岡安さんの恋文

一九五四年二月九日

| 174

一九五四年三月十九日

| 175

一九五四年十月四日

| 176

一九五四年十月十五日

| 178

十一 会葬者、御香典名簿

| 181

岡安さん恋文

岡安さん恋文

岡安政和経歴・活動の足跡

一九三四（昭和九）年 三月二十九日、東京浅草にて、四人兄弟の二番目として生まれる。戦時中一時、宮城県作並に疎開

一九五一（昭和二六）年 定時制・小山台高校に通学、学費値上げ闘争に参加

一九五二（昭和二七）年 五月、十八才で北辰電機に臨時工として入社

一九五三（昭和二八）年 労働組合に加入、組合大会で三十分の演説を行い、出席者のどぎもを抜く

一九五七（昭和三二）年 十月、宮崎靖子と結婚

一九五八（昭和三三）年 全金北辰電機支部

岡安委員長

安らかにねむり下さい

この構成詩は一九八一年二月二八日、全通商會館でおこなわれた合同葬で、スライドとともに演じられました。

今年の冬はやけに寒い、どうしてなんだろう。

東京でさえ今年の冬は肌につきささり耳をそぎ取るように寒い。

二月の箱根！

大平台はどうか——！

しずけさが、又、寒さをさそう！

寒さに負けるな、頑張ろう！

今年は追い上げる、きつと勝つ。勝つぞ！

躍

一九六四（昭和三九）年 全金東京地方本部

執行委員、全金南部地協・副議長、全金

北辰支部書記長

一九六五（昭和四〇）年 全金中央委員、全

金東京地本執行委員、全金南部地協・副

議長、全金北辰支部委員長となる

一九六六（昭和四一）年 全金中央委員、全

金東京地本執行委員、全金南部地協・副

議長、全金北辰支部執行委員長

この年、住友から銀行重役（藤井専務）

が送り込まれる

一九六七（昭和四二）年 全金中央委員、全

金東京地本・執行委員、全金南部地協・

副議長、全金北辰支部執行委員長

会社、従業員教育、広報活動強化

総評全国金属労働組合、東京地方本部、北辰
電機支部委員長 岡安政和

昭和9年3月

東京浅草で商店を営む父の4人兄弟の2番目に生まれ、小さい頃から、弱い者がいじめられるのを見ると兄であろうと弟であろうと助けに入る正義感の強い少年でした。

戦争もはげしくなり、浅草を後にして「宮城県作並」に疎開をよぎなくされました。

やがて終戦を迎え、18才の岡安青年は昭和27年あの「血のメーデー」のかえり血をあびた学生服をまとい北辰電機の入社試験を受け、臨時工として採用されました。

仕事につくや、夜は小山台高校に通う、勤労学生でもありました。

全従業員対象の「労働講座」実施

泊り込み新人教育はじまる

一九六八（昭和四三）年 全金中央委員、全

金東京地本執行委員、全金南部地協・議長、全金北辰支部執行委員長

会社、組合活動家の大量配転、青年婦人部のキャンプに参加するな等の、組合行事への干渉強める

一九六九（昭和四四）年 全金北辰支部副執

行委員長

御用秘密組織「マウマウ団」（後に組合分裂を策した御用幹部の集まり）発覚する

一九七〇（昭和四五）年 全金中央委員、全

金東京地本執行委員、全金南部地協・副議長、全金北辰支部執行委員長

御用組織「労友会」全金組織破壊に向け

そんなある時、学費値上げ反対闘争や、学校の運動会で仮装行列をやったことが天皇を侮辱した、として即刻学園追放になり大森高校に移りました。

この頃から岡安青年の革命運動の炎は燃え上って行ったのでしょう。

2年間は臨時工であるがゆえに言いたいことも言えない。「こぶし」をにぎりしめることもたびたび……。

1年の我慢は過ぎ、本工として、労働組合員として登録される日がきました。

「やったぞ！」

「俺は労働組合員だ！」

「言いたいことは言い、要求は堂々と出そう！」

公然化する

一九七一（昭和四六）年 全金中央委員、全金東京地本執行委員、全金南部地協・副議長、全金北辰支部執行委員長
会社・労友長、全金攻撃を強め、分裂に向け行動開始

一九七二（昭和四七）年 全金北辰執行委員
二月、会社・御用幹部、全金第十四回定期大会で、全金規約無視の組織脱退を強行・組合分裂する

三月、支部組織強化臨時大会開催、全金の旗を守る先頭に立つ委員長に選出される。全金南部地協・常幹

六月、不当労働行為として都労委に申し立てていた、団交差別・組合支払介入に対する勝利の救済命令勝取る

初めての組合大会、これまでおさえていた胸のうちをこれとばかり打ち破り、ヤジと怒号のなか、30分の演説をぶち上げ、皆んなのどぎもをぬいたのも20才の頃でした。

「仕事も一生懸命やったが、とにかく組合活動に対する熱意は相当なものだったよ……」

当時の職場の先輩はこう話してくれました。

昭和32年頃、執行委員に当選するや、会社との交渉はもちろん、サークル活動にも積極的に参加し、やがて三役入りをしました。支部書記長、副委員長、委員長とまさに千七百人

七月、産休と病欠の支部組合員六名が、
自宅待機となる

九月、支部支援の門前カンパ活動に対し
遣責処分

一九七三（昭和四八）年 全金中央委員、全

金東京地本執行委員、全金南部地協・常
幹、全金北辰執行委員長

四月、職務・職能給賃金体系導入により
賃金差別拡大

五月、六名の自宅待機者の職場復帰を勝
取る

十月、全金組合員の顔写真、凶悪犯人扱
いで職場に貼り出されるも、第三者機関
（地裁・人権擁護局）への運動で撤去さ
す

十一月、全金北辰支援共闘会議発足

の組合員の先頭にたち、組合運営に当りまし
た。

対外的にも全金中央委員、全金東京地方本部
執行委員、全金南部地協議長等を歴任してき
ました。

「その手は、もう片方の手を呼び
全身をゆりうごかし

ひとびとの手を求めてあえぐ

その手に、手を

結びあい、一還、一還

大きく、大きく、どとうのごとく

勢をますだろう

血なまぐさい

道の歩みをかえさせるために

その手に、手を

加盟に暴力受ける

会社・同盟の入門時、休み時間の暴力吊し上げ連日行われる（二年半に及ぶ）

一九七五（昭和五〇）年 全金東京地本執行委員、全金南部地協・常幹、全金北辰支部執行委員長

責任は会社と同盟

北辰の竹内さん失踪

全金東京地本執行委員、全金南部地協常幹、全金北辰支部執行委員長の竹内さん失踪事件は、昭和五〇年四月に発生した。竹内さんは、全金東京地本執行委員として、全金南部地協常幹として、全金北辰支部執行委員長として、全金連合会に加盟していた。竹内さんの失踪は、全金連合会加盟に暴力受けるという事実を、世に知らしめた。竹内さんの失踪は、全金連合会加盟に暴力受けるという事実を、世に知らしめた。竹内さんの失踪は、全金連合会加盟に暴力受けるという事実を、世に知らしめた。

竹内さんの手紙でも明らか

一月、支部執行委員竹内久君、会社・同盟の暴力に抗議する遺書を残し、失踪する

二月、会社・同盟、卑劣にも妊娠中の婦人組合員を吊し上げる

たく結ばれ、

その仲むつまじさは、親、兄弟もうらやむほどでした。

「北辰電機」と言えば人もうらやむ程の労働条件でした。それも「総評全国金属労働組合」に団結し、着実な闘いを委員長をはじめとして展開していた証明です。

一時金を高額獲得した時は週刊誌でも報道されました。

そんな労働組合を、経営者はほうっておかなかったのです。

組合分裂の策動は昭和40年代に入るや「一部の者」をつかい、ひそかに進行していった。

会社は組合員である下級職制と一部悪質分子を利用し、不当な介入を計り、そして昭和47

五月、組合活動に制限を加える就業規則の改悪行われる

一九七六（昭和五一）年 全金東京地本執行委員、全金南部地協・常幹、全金北辰支部執行委員長

五月、支部組合員（中村・北島・佐藤）の労災認定闘争はじまる

六月、社会的糾弾により二年半に亘った集団吊し上げを中止させる

八月、会社、暴力に代る処分を乱発

十二月、賃金差別是正命令（昭和四六年度分）都労委より出る

一九七七（昭和五二）年 全金東京地本執行委員、全金南部地協・常幹、全金北辰支部委員長

五月、全金北辰守る会発足

年の不幸な組合分裂を迎えたのです。

当時「全金支持派」は役員選挙でもはじき出され、15人中5人と三分の一の数しかなく、岡安さんも三役入りは出きず渉外部長という「かた書き」でした。

岡安さんを先頭にこの5人は、全金中央本部と固く団結し、適切な指導と援助を受け、「全金の規約は個人加盟であり、団体脱退などありえない」と頑とした主張をくり返した。

だが、会社の分裂策動をはね返すことは出来なかったのです。

分裂確定後、「全金支持派」は直ちに全金本部で「臨時大会」を開き、この難関を乗り切

九月、差別撤廃二ヶ年計画を決定

十一月、大量宣伝行動始まる。地域・駅頭ビラ十万枚

一九七八（昭和五三）年 全金南部地協・常

幹、全金北辰支部執行委員長

三月、会社、労災患者の中村順子組合員を解雇

四月、都労委で和解放渉はじまる

六月、永松組合員、大竹人事課員に暴力

ふるわれる

十二月、第二次大量宣伝活動、地域・駅

頭でビラ十万枚

暴力労務課長地方へ左遷

一九七九（昭和五四）年 全金南部地協・常

幹、全金北辰支部執行委員長

二月～十月、和解放渉九回行われる

るにはこの人しか居ないと、岡安さんを委員長に選び、新たな役員体制で「全金の旗」を守ることを決意しました。

多くの地域の仲間や支援の人々に支えを受け、少数になった「全金北辰支部」の闘いは困難ながらも始まったのです。

分裂後の闘いのはじめが「門前カンパ」「自宅待機」問題で、岡安委員長のもとに組合員のねばり強い闘い……。地域の援助で会社にもぶち当り「自宅待機」を打ち破り、少数組合でも闘えば勝てる自信がいたのです。

会社と同盟一部悪質分子はありとあらゆる方法で「全金つぶし」を行ってきました。

それでも動揺しなかった全金北辰支部組合員に向って、なぐる、ける、の暴力……。

幹全金北辰執行委員長

一月、全金北辰支部をはげます新春の集
い行なう

二月八日、全金南部地協春闘討論会（箱
根）にて急逝 四十六才

一千軒の家庭へピラいれを

81年1月29日北辰支援集会での
あいさつ

岡 和 政 和

委員長の岡安です。本日は北辰の集会のため
にそれぞれお忙しいところお集まり頂きま
して、まことにありがとうございます。ま
た、私共八年にわたるたたかひにつきまし
て、これまで御指導、御鞭撻頂きましてあり
がとうございました。実は今、司会者の方か

りつけ、東京地検に「告訴せよ」ときびしく
せまったのも岡安委員長でした。

会社は自ら「東京地方労働委員会」に和解の
調停を申し入れながら、調印直前に横暴な手
口でけってしまったのです。

この怒りを新たな闘いに結びつけようと支援
の輪の拡大、闘いの進め方等、委員長のむね
は闘いの高まりに自信に満ちていたことでし
よう。

分裂後も、全金東京地方本部の役員や全金南
部地協役員、全金多摩川ブロック役員と、全
金の闘いの先頭に立ったのはもちろん、最近
では「統一労組懇談会」大田代表世話人「平
和と民主主義」を守る運動。

急速に進む軍国主義化、司法の反動化と真向

ら三分程度にして下さいという話がありまして、経過と現状について話せよということ、それが三分ということですから、それに添ってやりたいと思います。八年間にわたるたたかいでございませうけれども、最近、先程話しがありましたように、約二年半にわたる労働委員会の和解交渉がありまして、ほぼ九五%以上和解に達する見通しがありましたけれども、先程らい話しがありますように、会社の横暴な、住友銀行の横暴な手口によってこれが決裂させられました。私達は二回にわたる和解交渉の決裂に改めて腹の底から怒りを覚えました。直ちに私たちは、区内の皆さんの御協力を頂きまして、十二月五日には、区内二十二の駅頭での一斉のピラ、あるいは十二月十三日には全都的に住友銀行の支店に

うから体をはって闘った人生……。

ほんとに寒い2月だった。

寒い雪国では「雪かき」仕事で大変だと聞いている

2月28日

全都一斉住友銀行攻めがある。

「寒さに負けるな！」

やればできるぞ！ 去年の12月の一回目は全金北辰はじまって以来の闘いの規模だった。

皆んな一人ひとりが頑張ってきたではないか。もう一回り、二回り、大きくしよう。

でもむりはいけない、永續きしない。都内の駅前にある住友銀行13支店にしよう。春闘をもり込んだ住友攻めだ！

「たのんだよ！」

対する一斉の抗議行動を展開いたしました。

私達は八年間たたかっておりますけれども、一人ひとりの組合員は意気盛んであります。これも皆さんの八年間にわたる、御指導なり、御協力のためのものであらうとがんばっております。

皆さん、北辰の職場は今どういう現状でしょうか。八年前全金が分裂させられました、同盟の組合が支配をしております。この中で会社は八年前、全金を脱退さえすれば、従業員の給料は良くなる。このように宣伝しましたけれども、昨年の年末一時金は、たかだか四十二万余の一時金であります。

多くの同盟の労働者は、これに憤慨を致しました。こんな低い給料ではどうしようもない、俗っぽい言い方ではありますが、町工

春闘もある！

『管理春闘』なんか打ち破ろう！』

この委員長の言葉は、組合員への最後の言葉となつてしまった。

委員長！

安らかにおねわり下さい。

私達は決して「全金の旗」を降ろすわけにはいきません。住友銀行と会社が頭を下げるまで負けられません。

全金の旗があります！

地域の仲間がいます！

支援の輪があります。

まかせて下さい、きっと勝利をもたらすことでしょう。

場並ではないか、これが卒直な声でありま
す。

そして特に同盟の労働者の間に今、でてい
ますのは、ちょうど会社の手によって、八年
前全金が分裂させられましたけれど、あの
時、全金から労働者の気持が離れていった。

それ以上の第二組合から労働者の気持が離れ
ている、こういうことが多く語られていま
す。これが実態であります。私たちは、この
春闘の中で、労働者の一人ひとりの経済的要
求をふんまえながら、今七百から一千名近い
労働者の家庭に向ってピラを入れています。
このような労働者の要求を引っさげた春闘を
たたかい、あわせて、皆さんの御協力を頂く
中で、住友銀行・北辰電機に対する断固とし
た抗議行動を展開したい。そして、私達はた

あなたへ

正義感と責任感の強かったあなた。

「やらなくちゃ」と思ったことはなんでも先
頭に立ってやってきたあなた……。

文芸集の発行、コーラスグループの結成、ほ
ぼ同時に北辰電機に入社し、世の中のこと將
来のことなどたくさん話し合ってきました
ね。

わたしも話したいことは山ほどありました。

二人の娘も大きく成長しました。

私と二人の娘。年老いた母を、いそがしい毎
日のあい間をぬって大きな愛情でつつんでく
れましたね。その一つ一つの愛情が、今、手
に取るようにうかんできます。

今となつては、ほんとに短い間でした……。

とえ時間がかかっても、このような憲法を無視し、労働法を無視するような、職場に自由と民主主義のないこのような北辰を変えさせたい、それが全国の労働者に対するお礼ではないか、そのように考えています。

本日は短時間ではありましたが、今の状況をふんまえて、引き続き私達が、勝利に向けて、皆さんの御協力の程をよろしく御願ひ申し上げます。よろしく御願ひ致します。ありがとうございます。

これからもあなたと手さぐりで探し求めた道
を大切にし、二人の娘、そして孫をしっかり
だきしめて、世の中にほかれる人生を歩んで
行きます。

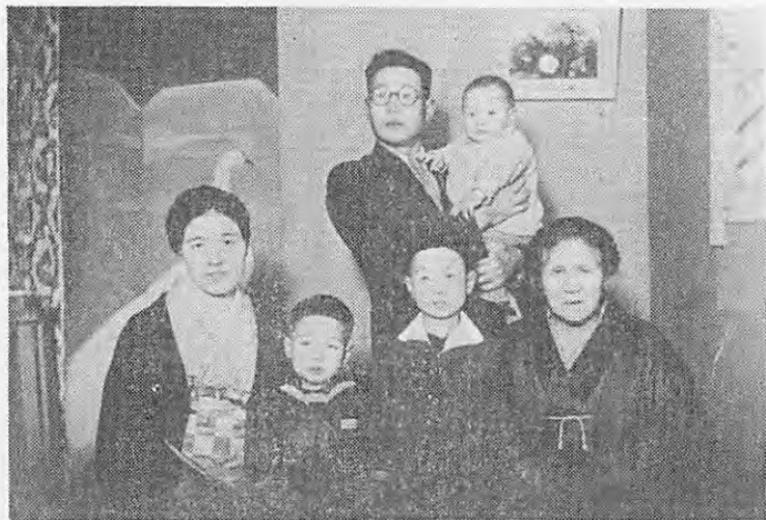
悪をにくみ「世の中の役に立とう！」

「働く者の生活を守り向上させよう！」

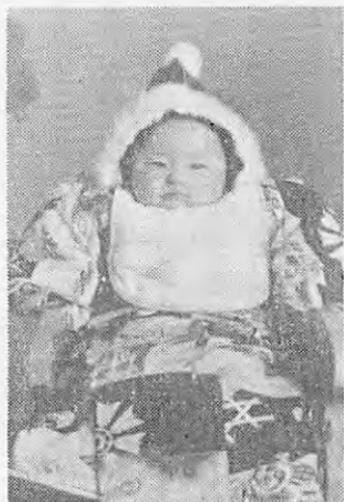
あなたの願ひをかなえるのは大変なことでも、あなたの残した仕事は今、多くの人達の手を受けつがれようとしています。20数年の革命運動、組合運動、ほんとにほんとお疲れさま……。

安らかにおねむり下さい。

一九八一年二月



父にだかれて



一九五三年満一才



一家揃って家の前で

入社式の撮影



昭和27年4月 三ツ峠にて

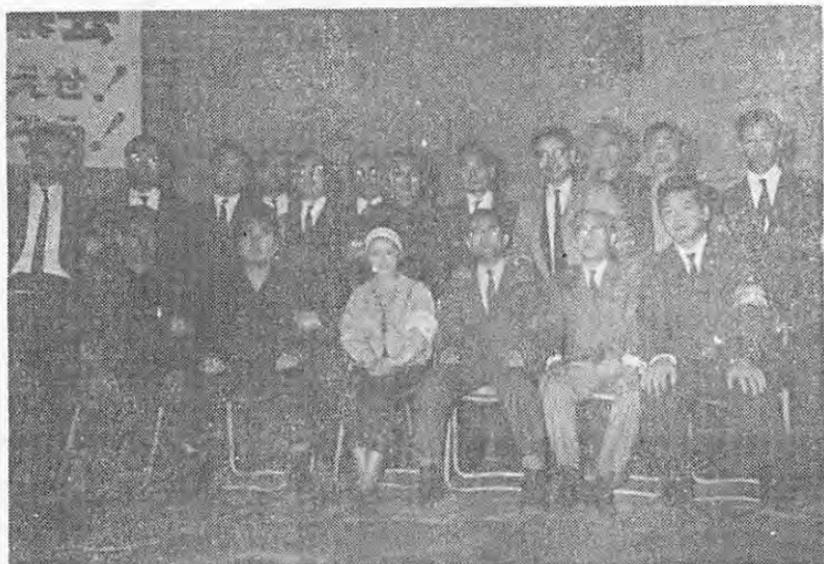
一九五七年十月 熱烈な恋愛でゴールイン



メーデー会場で奥さんと



1957年 結婚しました幸せな2人



めずらしい写真、全金の大幹部のせい揃いです。松尾元委員長 佐竹元委員長 吉田元中執 プリンズ永井委員長 東京計器谷津委員長 山武小林委員長 横河電機 清水 各和精機大浜 現中里副委員長 平沢書記長 八代中執 総評清水組織部長 岡安さんと親しかった東京地評佐藤幹事（故人）らと日色とも丞さんをかこんで。1967年10月18日、日比谷野外音楽堂「ドレイ工場」（劇映画）大集会のシーンの撮影後に撮ったもの。



一九六八年四月二十八日 沖繩への代表派遣、入国許可をとれず。バックの島は沖繩本島



全金第26回全国大会会場前で
村上国治さんと



1971年9月26日 全金第28回大会議長



総行動 住友・北辰を糾弾する



第23回支部総会でのあいさつ

長女の結婚式でわんわん泣いたところ



岡安家、一家そろって



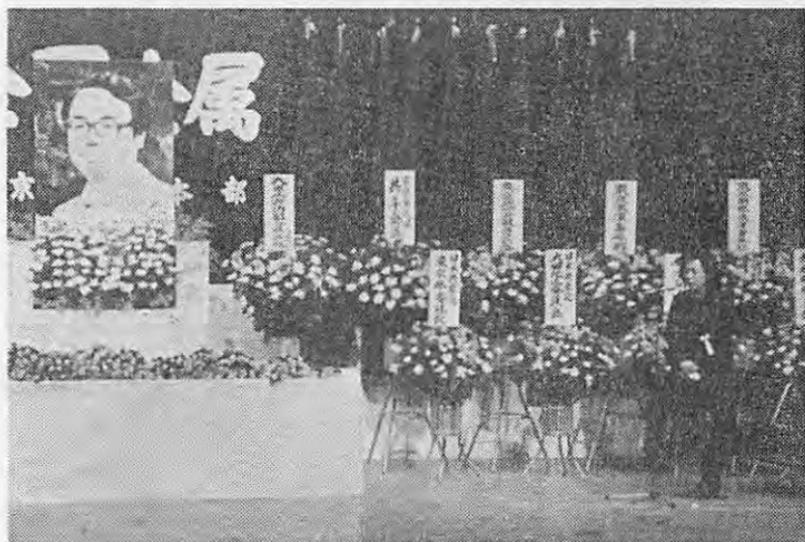


一九八〇年七月十日。支部共闘会議で岡安委員の支部の報告の訴え



1981年1月29日。新春の全金北辰支援集会で岡安委員長の決意表明
(大田区産業会館にて)

一九八一年二月十一日、告別式出棺



あいさつする靖子さん

全国金属労働組合東京地方本部

執行委員長

森野徳雄

岡安君、君が急逝してから早くも三週間がたちました。そうは分かっているのです。でも今だに君の死が実感としてわきません。今にも「やあ今日は！」と声をかけられる様な気がしてならない毎日です。

時がたてばたつほど、惜しい人を亡くしたという思いをよみがえらせる君は、本当に心の温かい人でした。

岡安君、君とは二十年ものつき合いです。なんと多くの議論を交し合ったことでしょう。激しいやりとりも幾度となくありました。議論をする時の君は、いつも真面目そのものでした。ひたすら切り込んできた君のことが、昨日のように思い出されてなりません。

君の一枚看板とも言える「岡安節」を抜きにした大会など考えられない程に、君は全国金属にとって貴重な存在でした。

東京地本執行委員としての九年間の、君の一途とも言えるひたむきな行動は、全国金属の運

動を支え、全国金属の前進に役立ってきました。

私は、今日この場で改めて君に御苦勞様でした。ありがとうございます。

また、君は、日本の軍国主義化に反対し、平和と民主主義を守る闘いの先頭に立って来ました。その点からも君の死は、多くの人から惜まれていきます。そして君は、北辰電機と住友銀行による組合つぶしと人権侵害、賃金、仕事差別などに対する闘いの先頭に立って闘って来ました。

北辰電機支部の委員長として、組合員の期待を一身に集め、この十年間、苦しい闘いを続けて来ました。心安まることのない毎日が、若い君の命を奪ったのでしょうか。そう思う時、私達はもっともっと支援してあげておけば良かったなと後悔しています。

志なかばにして倒れた岡安君、さぞ口惜しかったでしょう。さぞ心残りだったでしょう。しかし、岡安君、心配しないで下さい。

今日、ここには、こんなに多くの仲間が、君の霊を慰め、君の遺志をしっかりと引き継ぐために集いました。

私達は、もう嘆いてばかりはいられません。君の遺志を引き続き闘っている北辰電機支部組合員と、君の遺族を温かく包みこみ、はげまして行きます。このことこそ、君に対する何よりの慰めだと思ふからです。

岡安君、さぞ疲れたことでしょう。心安らかにやすみ下さい。

東京地方労働組合評議会

常任幹事

森 本 一 雄

岡安君、あなたの急逝をなげかずにはおられません。東京地評を代表して、心から哀悼の意を表明します。

全金南部地協の春闘討論会で倒れたあなたは、あなたの生前の活動が全て物語るように北辰労働者のみならず、全金東京地本の執行委員として、広く労働者階級の優れた指導者として、その力をいかに発揮しました。

さかのほれば警職法の闘いに、安保闘争に、憲法改悪阻止の闘いに、総評がとり組んだ日本の平和と民主主義を守る重要な闘いの隊列の先頭に、いつもあなたの姿があり、闘いの発展に大きな役割を果しました。

東京南部の拠点支部の委員長として、労働者の生活向上のために、統一行動発展のために、職場、地域、産別でのあなたの精力的な活動は、私どもはいつも注目していたものでした。

政治の反動が進行する今日、今こそあなたの活躍が必要とされる時はありません。

誠実な労働組合の幹部として、諸闘争に全うされたあなたの死は、労働者階級の大きな損失であります。

岡安君、今、八一春闘が大きく発展しているところです。君の死をのり越え、支部組合員は頑張っています。

職場ファシズムとの闘いも、必ずあなたの遺志を引き継ぎ勝利するでしょう。

全ての職場に自由と民主主義を、この君の悲願は必ず達成されるでしょう。

東京地評も、全力をあげ支援することを、あなたに約束します。

岡安君、御苦勞さん、安心して眠って下さい。東京地評を代表して心から御冥福を祈ります。

全金北辰電機支部

副委員長

松 木 彦 栄

委員長、岡安さん、覚えていますか。この場所を、あなたが幾度ともなく労働者の統一と団結を熱く訴えた電通会館ですよ。

見えますか、聞えますか、あなたと遅くまで論じあった多くの仲間がきてくれていますよ、

酒を酌み交した仲間が、腕を組みデモ行進をした沢山の仲間が来てくれてますよ、分かりますか、岡安さん。

あなたとの余りにも早い悲しい別れに、涙を押しとどめることができません。ありし日のあなたの元気な姿が、涙に浮んでくるのです。あなたは、春闘討論会で倒れるその瞬間まで、あなたの短い惜まれる四十六歳の生涯の全ては、ゆるぎない信念に貫かれた幅広い活動で閉じられました。

そのあなたには、限らない敬意を表し、お別れの言葉を奉げます。

人を愛し、全ての働く者の幸せを願い、日本の平和と民主主義と進歩を求め続け、気高くあなたは、全ての情熱を燃やし続けました。あなたは、昭和二十七年北辰電機に入社以来、書記長、委員長として二〇数年、仲間の生活と権利を守る先頭に立って闘ってきました。

昭和三十四年、長い間、レッドパージの打撃に打ち沈んでいた北辰の労働者を励まし、六五二〇円の世間水準の四倍にあたる賃上げを指導しました。この時から、北辰の労働者は、はじめて労働組合を労働者自身のものとする事が出来ました。

不安定な身分に泣く臨時工を励まし、臨時工制度を撤廃させたのも、あなたの指導のもとでした。自分の組合を持った労働者は、あなたの指導のもとに、高水準の労働条件を維持することが出来、喜びに満ちた毎日を送ることができました。

九年前の不幸な組合分裂の中で、全国金属の旗を守った私達第一組合の委員長として、荒れ狂う企業ファシズムの嵐の中で、私達の先頭に立って、どんなきびしい中でも、人間性をふみにじった屈辱の中でも、胸を張り、少しの動揺も見せず、闘いを指導しました。

ややもすると弱気になる私達に、正義は必ず勝つものだよ、仲間をうらまらず信じて頑張ろうよ。こう励ましてくれたものでした。あなたの不動の姿に、私達は安心してついてきたものでした。そして今、私達の闘いも、勝利の灯りが見えてきたと、共に喜んだのは、つい先日のことでした。

北辰の労働者と労働組合の歴史のページにあなたの名前には空白はありません。いつまでも、消えることはありません。

岡安さん、あなたはまた、全金東京地本の執行委員はじめ、各機関の幹部として、労働者の統一と団結のために精力的に奮闘されました。また、あなたは、数多くの民主団体の重要な役員となり、日本の平和と民主主義を守る闘いに力をそそぎ、大きな功績を残しました。宣伝カーから訴えるあなたの声が、今も聞えてきます。あなたの訴えは、多くの人に、感動を与えたものでした。

しかし、もうその声を、二度と聞くことはできないものです。

岡安さん、高い理想をかかげ、闘いの半ばで倒れたあなたの無念の気持を思う時、私達的心

は痛みます。

あなたが残した余りにも大きな功績に改めてその重みを感じ、責任を感じます。

岡安さん、私達は、あなたから沢山のことを学びました。正義を貫く尊さを、苦しくとも明るく、おおらかに仲間を信じて生きる大切さを。

私達は、あなたの教えをしっかりとしり、力を合せて、あなたが書き残した北辰の労働組合の新しい歴史のページに、必ずあなたの遺志を引き継いだページを重ねます。そしてそのページには、必ず私達の闘いの勝利の記録を刻むことを誓います。

「岡安さん、とうとう勝ちました。喜んで下さい」と、あなたに報告することを誓います。その日を、きっと待っていて下さい。

あなたは、私達の闘いの勝利を願って先頭に立って頑張ってくれました。私達を思い、心痛める毎日、無理に無理を重ねてきました。一時の休む間もなく私達の柱になってくれました。

岡安さん、ありがとうございます。さぞお疲れになったことでしょう。これからは、ゆっくりお休み下さい。御冥福をお祈りします。

あなたの遺志を受け継ぐ組合員の悲しみ痛む心を代表して、心から感謝の手を合わせながら、お別れの言葉とします。岡安さん、委員長、安らかに。

大田区労働組合協議会

議長

石島卓爾

岡安さん

あなたの、あまりにも突然の御逝去の報せに 誰しもが まさかと疑い そのまさかが動かすことのできない事実と知らされた時の私たちの驚きと悲しみは 如何ばかりか、とても筆舌につくすことはできませんでした。そして喜びも苦しみも共にされた御遺族の胸中如何ばかりかとお察し申し上げます。

また、闘いなかばにして委員長を失われた組合員の皆様の苦衷に想いを馳せるとき 万感ここに極まるものがあります。

私たちは 本日、あらためてここに大田区労働組合協議会傘下二万余名の心からの哀悼の意を表わすものであります。

かえり見ますと、あなたが一九五八年に全国金属東京地本北辰電機支部の書記長に就任されて、今日までの二十有余年間というものは、日本労働運動の中でも 六十年日米安保条約反対

闘争を一つの頂点として、高度成長期の高揚期から七十年安保闘争を経て、反動・合理化攻撃が急速に押し進められるなかで、労働運動も次第に受け身にならざるを得ない困難な時代を迎えるに至りました。

あまつさえ、一九七二年の憎むべき分裂攻撃の以後というものは、職場での全国金属所屬組合員に対する暴力攻撃、差別攻撃は常軌を逸するものであり、まさに基本的人権侵害そのものであったといわなければなりません。この様な苛酷な吹き荒れる嵐の中で、全国金属の旗を守ろうと敢然と闘いに立ち上がった組合員の先頭に、常にあなたの姿がありました。

あなたの闘いは、労働者の基本的権利を守る闘いであると同時に、暴力・差別に屈伏して屈辱の中に耐え忍ぶのではなく、否、それと闘うことが、胸を張り人間として生き抜くことを目指す人間の尊厳に立脚した崇高な闘いであることを、私たちは学びとりました。真に人間として生きる道を切り開く闘いの最中に、志半ばにして病魔にその尊い命を奪われ去ってしまったことは、私たちにとって大きな悲しみであり、且つ深い心残りのことでもあります。

委員長という職責は、組合員の厚い信頼に支えられつつも、内面的には常に孤独感にさいなまれる、極めて苛酷な立場でもあります。今にして思えば、あなたの健康をあまりに信じすぎたのではなからうかと、あれこれと去来し、思いめぐらす今日です。周囲の私たちが、もっと細かなところまで配慮をしなければいけなかったと、その事だけが悔まれてなりません。

去る一月二十九日の「北辰電機支部を励ますつどい」のあの夜、あなたは、断固として闘い抜くことを力強く宣言されました。固いスクラムの中で、高らかに歌いあげた「がんばろう」の歌の一節一節が私たちの胸の奥底に深く深く刻みこまれて今、いきいきとよみがえります。

岡安さん、あなたは、私たちのスクラムの中で生きています。

南部労働者の闘いの中で永遠に生き続けるのです。反「合理化」闘争の中で、差別粉砕の闘いの中で、闘争組合の闘いの中で、よみがえるのです。

あなたの御霊の前に、全国金属東京地本北辰電機支部の完全勝利の日まで、大田区労働組合協議会は一体となって闘い抜くことを固く、固く御誓い申し上げて、ここに追悼のことばいたします。さぞやお疲れだったことでしょう。安らかにお休みください。

必ず、必ず、勝ってみせますから。

友人代表

三 條 義 篤

私は、これから岡安さんのお想いでについていくつかの点を述べ、弔辞にかえさせて頂きます。

す。私が岡安さんと最初に会ったのは、一九五三年の頃だったと思います。すでに彼は北辰電機につとめており、共産党員でありました。その第一印象は、本来死者に対しては、美しい言葉で語らなければならないのですが、若いと同時に、ごうへいな印象を受けたのを覚えています。その彼を、労働運動の指導者に育てていったのは誰だったのでしょうか。

母なる労働者階級の闘いであり、労働者階級が育ててきた指導者であったと思います。戦後の日本の労働運動は、ある意味で言えば、大田区からはじまりました。その流れは、糍谷の石井鉄工からはじまった流れと、三菱下丸子から始まった流れとがありました。それは南部工場代表者会議からはじまり、戦闘的な、産別会議の結成へと進んでいったのであります。

しかし、私が岡安さんと会った時は、この戦闘的労働運動は、アメリカ占領軍と日本の独占資本によって、ある意味ではさんたんたるありさまでした。その当時の下丸子の共産党員の数は、五本の指になるかどうかという程度のものでした。

その後の工場の変化は、一九五五年の高度成長政策の中で、大量の若い労働者が労働運動に入ってきて、そして労働運動を活発にすると同時に、訓練されない意味で言えば右傾化の潜在的な基盤が作られていった頃であります。六〇年の安保闘争は、労働運動を大きく成長させましたが、その時、岡安さんは、私との話しの中で、「うちで実は臨時工が首を切られそうになっている、労働組合として首切り反対のストライキをやりたい」と言っていました。そし

てこの闘争に、本工組合として断固として立ち上りました。

彼は書記長として、この闘争を指導したのであります。ところがその時に果して臨時工の首切りで労働組合が断固として闘いに立ち上ったという例は、日本の労働運動の中にいくつあったでしょうか。次に、一九七二年に北辰電機は分裂させられましたけれど、分裂をかけられる前に、北辰電機の中には労友会と言うインフォーマル組織がつくられ、資本は、この人達を使って北辰電機の分裂にのり出しました。その時に資本のやり方は、日経連的時間短縮を持ち出して、労働時間の延長と引き換えに休みを増やすという提起をしたのです。

その時に岡安委員長をはじめとする執行部は、当然の事として労働時間の延長なしの時間短縮を主張しました。ところが、たくさん入って来た労働者の中には、一日の労働時間が延びても各週休日でいいじゃないか、と言う意見があるのをとらえて、この労友会は、組合員の過半数の署名を集め、執行部を孤立させる方向をとった訳です。その後の役員選挙では、岡安さん自身は非常に苦境に立ちました。そして私は、岡安さんと話し合った訳ですけれども、どういう労働者の要求で、どういうふうにすれば役員選挙で勝利出来るかという事でした。この時、岡安さんの話しは、労友会の人達は労働組合で、考え方の違う者とは一緒にやれないと言う事を主張し、執行部の乗っ取りを策していた訳であります。

しかし、労働者はたとえ考え方が違ってても要求を元にして、組合員が民主的に討議するなら

ば、必ず一致させる事が出来ると言う彼の経験を述べました。そしてそれを政策として組合員に訴え、そしてその時の役員選挙では勝利したと記憶しています。

つまり、この中に私は、岡安さんから学んだ大きな点があります。労働者は、たとえイデオロギーが違ったとしても、労働組合の中で十分に民主的に討議し、意思の一致を計るならば、必ず労働者は、労働組合に団結して前進することが出来るという教訓であります。そしてその後、労働組合は、分裂させられましたけれど、その嵐は木を作ったのであります。

現在八十年代の激動する情勢を迎え、革新統一懇の先頭に立つ岡安さんにとっては、思い残すことが多くあると思います。彼自身は、この労働運動の中で、いくつかの重要な点を我々に教えてくれました。一つは、労働運動の中で、絶えず労働者の教育が必要だという事で、組合事務所での学習会を何回となく繰返してきました。一九五〇年の労働運動の右傾化が進行する中で、日本の労働運動が最も欠けていたものとして、反省的に明らかにした点が、この労働者階級に対する、特に労働組合による、組合員教育の問題だったと思います。また、彼は労働運動の活動家であると同時に、仕事の面でも資本の側から攻撃されるすきを与えないという事に つとめてまいりました。私が非専従の役員で区労協の会議などに出るのは大変ではないかという事を聞いた時に、彼は映写機を作っていた訳であります。私は職制から文句言われるような仕事はしていないと、役員であるものは職場においても一人前の仕事が出来なければなら

ないのだと私に教えてくれました。

人にはだれしも欠陥があります。しかも多くの欠陥を持っている場合もあります。しかし彼は、労働者と労働組合運動に忠実であり、一九五二年に入党してから、亡くなられる迄、一貫して共産黨員としての生涯を全うされました。この事は誰しもが成し得る事ではありません。私はここで南部の労働運動、東京の労働運動が生み出した岡安さんの死を深く悼むと共に、心からの哀悼の意を表して、友人としての挨拶を終わらせて頂きます。

故岡安政和氏病状並びに経過報告

全金南部地協議長・生井宇平

岡安君は二月八日に、箱根の大平台で開催されました全金南部地協の春闘討論集会支部代表者会議に参加をされまして、その日の昼から行われました会議の中では、あのいつもの岡安節で、職場の労働者の厳しい暮しを語り、管理春闘を打破る闘いの道を熱っぽくといて、参加をしておりました仲間を励まし、激励しておりました。夕食の時も、ほんのわずかなアルコールで、ほほを染め、両隣りの仲間と親しく話し合い、また、仲間がうたいます歌に野次を飛ばし

て、くつろいでおりました。それから数時間の後に大事が起こるといような事は、全く想像もできない岡安君でした。八時前に夕食会が終わりまして、八時十五分頃部屋に帰って、部屋の同室の人達と一緒に八時五十分頃迄テレビを見て、そしておやすみになりました。その後、同室の仲間と別の部屋でダベッておりました人達が、十二時半頃部屋に帰って来まして、はじめて岡安君の異常に気がついた訳であります。急救隊が一時頃、地元のお医者さんが一時二十分頃、それぞれ到着致しましたが、すでになすすべもなく、そのお医者さんの判断では、たぶん脳出血ではないかというふうな事でしたが、その後の司法解剖によりますと、病名は、「急性脾臓壊死」。推定発病時刻は九時二十分頃であり、推定死亡時刻は、九時三十分頃ではないかと言う診断でございました。執刀した東海医大の先生によりますと、この恐ろしい病気は、予知する事も、予防する事も、治療する事も仲々困難であり、原因もそれ程明確ではないそうですが、精神的疲労がこの病気を誘発すると思われるという事でございました。

思えば、この、特にこの十年間、住友・北辰電機の分裂・暴力・組合潰し・差別・人権侵害、まさに企業ファシズムそのものとの闘いに休まるいとまもなかったその心労が、余りにも早い突然の別れを招いてしまったと思います時、誠に私達は悔恨の念に絶えないのであります。ただ、今は、悲しみにひたっているだけでなく、その悲しみを乗り越えて、志半ばに倒れた岡安君のやり残した事業、北辰闘争の勝利、あるいは平和と民主主義を守る闘い、あるいは、

労働者にとって頼りがいのある労働運動を再構築していく、そういう闘いに向って前進していくことが岡安君に対する、何よりの、はなむけになる、そう思うのであります。

(一九八一年二月二十八日合同葬に於ける挨拶から)

葬儀委員長あいさつ

全金北辰支部執行委員長代行

高橋 恒雄

全金北辰電機支部委員長代行の高橋と申します。本日は大変お忙しい中、たくさんの方々が、故岡安委員長のご合同葬に御参列頂いた事に対し、心からお礼申し上げます。

また、全金支部・遺族を代表致しまして、皆さんの絶大なる御支援に感謝を申し上げます。故岡安委員長は、北辰電機・住友銀行の不当な差別・分裂攻撃このような中で、私達組合員の先頭に立って闘ってまいりました。

そういう中で、故岡安委員長は、八一年春闘を前に倒れました。故岡安委員長の私達の先頭に立って闘ったこの遺志を受け継ぎまして、故岡安委員長の志を受け継ぎながら、全力をあげ勝利迄闘っていきたいと思います。

この合同葬の準備に当りまして、全金東京地本、同南部地協、また、東京地評・大田区労協・東京争議団など、たくさんの皆さんから御支援を頂きました事につきましても、この場をか
りまして感謝とお礼を申し上げます。

私達は、故岡安委員長の霊前に対しまして一日も早くその志をとげて、私達が全面勝利の報
告をしたいと考えております。

私達は全組合員が、一弾となりまして、故岡安委員長の遺志を継ぎまして、勝利の日まで断
固として闘っていきます。

本日寄せられました皆さんの御援助、御協力に対しまして感謝を申し上げますながら、岡安委
員長に対する、生前の皆さんの御厚意に感謝を申し上げ、今後とも引続き、全金北辰支部の闘
いに対しまして、心から皆さんの御援助と御協力をお願い致します。

是非とも、私達の闘いに対しまして、皆さんの力強い御支援をお願いしながら、遺族と北辰
支部を代表してお礼の言葉とかえさせて頂きます。本日はどうもありがとうございます。こ
れをもちまして葬儀委員長としてのあいさつにかえさせて頂きます。

信念を寸時も失わぬ人



吉田資治

私は一九五六年三月に全日本金属労組委員長を、七月に産別会議議長をやめ、一九五七年十月、全日本金属労組副委員長に選出されましたが、その間約一カ年、金属東京支部の書記長として闘争の支援と組織強化のため、精力的に各分会をまわっていました。

その頃金属東京支部の中心勢力であった南部地域の有力分会の一つであった北辰電機分会に岡安君がいました。

君は既に数年の組合活動の経験をつみ、若き指導者の一人に成長しており、私どものよい相談相手となってくれました。

当時資本の攻勢と内部の弱体化によって産別会議のナショナルセンターとしての役割は苦しい立場にたたされていきました。産別をささえる全日本金属労組も苦しい闘いのなかで動揺をくりかえし、一九五三年の第五回大会では「総評を中心に産別金属単一組織として可及的すみやかに総評に加盟する」という方針をきめていました。地域では各分会が努力して組織した労

働者を総評に加盟させる風潮さえ出はじめました。

君はこれらの風潮に強く反対し、統一は下から押し進めるべきで、闘争と団結強化が基礎となるべきだと主張しこれを実践していました。この下からの統一という正しい主張は翌年の金属第六回大会に反映し、前年の大会決議を大幅に修正し、統一は下から、組合の強化拡大をはかると決議しました。

この方針はその翌年一九五五年第七回大会まで維持されましたが、ついに総評全国金属労組との合同に進み、その結果産別会議解散という重大な結末をむかえることになりました。

君はこのような情勢の激動と複雑さのなかで労働組合の正しいあり方や階級的民主的ナショナルセンターの意義について確固とした理解を深めたことと思います。

君は北辰電機分会が組織合同により総評傘下にはいつてからも、その信念を寸時も失わず、労働者の利益と権利の擁護、更に幅広い文化活動や平和運動の先頭に常に立っていました。

一九七二年住友資本による企業ファッシュともいうべき弾圧と分裂工作による組合破壊が強行された時も、君は毅然としてこれと闘い、全金の旗、階級的民主的権利の旗を守りぬきました。

近年これまで一定の役割をはたしていた総評がその成立以来の本質の故に右旋回をはじめ、労働者階級の期待を裏切る傾向をみせはじめました。

このような傾向に反対した労働者の生活と権利を守る真の階級的民主的ナショナルセンターを確立せよという運動が全国的にもりあがってきました。君はこの闘いのなかでたおれたのです。

しかしながら君は金属労働組合の一員として、この激動の歴史のなかで日本の労働者階級の革命的伝統をうけつぎ、闘い、これがかがやかしい未来につなぐ役割を立派にはたしたことを忘れてはなりません。この功績にたいし私は心から敬意を表したいと思います。

一九八二年四月一八日

不屈のたたかいの人



引問博愛

惜しい人を失なったものだ、あらためて思いおこしながら、この文を書いています。私が、岡安さんと顔を合せたのは、恐らくお互に若い時だったと思います。

とくに親しく接するようになったのは、一九七六年の八月、日立武蔵の六人の婦人活動家に加えられた「ガラスのおり」の隔離部屋封じこみの悪らつな攻撃に、六人の不屈のたたかいと

三多摩地域の民主勢力の支援によって勝利したことを記念し、私たちはその十月に中央に、「職場の自由と民主主義を守る中央連絡会議」（職自連）を設立したときからです。

当時、北辰の資本は「工場内に憲法は通用しない」とうそぶき、暴力を横行させていた工場内で、岡安さんは組合の委員長として不屈のたたかいをしておられました。

岡安さんは、争議という概念では納まらない、職場の自由と民主主義のたたかいの意義を正しくつかみ、大企業を社会的に包囲し糾弾するこの職自連の運動に積極的な支持を与えてくれました。

それ以来、毎回の全国交流集會に顔をだされ、またいろいろの意見をだして頂きました。

また、統一労組懇が、七九年十一月、総評が「社公中軸路線」をとったとき「労働者と国民の利益を守るナショナルセンターの全国的討論を」のよびかけをして以来、右翼的潮流に追随するナショナルセンターの動向に厳しい批判を与え、自からも独自行動を展開するようになり、確固たる地位を、日本労働組合運動にしめるようになりました。

岡安さんは、このときもさまざまな見解が生じたなかで、統一労組懇運動に積極的支持協力の態度をとり、自から、全金北辰支部の、地域統一労組懇加盟を決めました。

誠実で階級的でしかもこのように先見性に富んだ岡安さんが急逝されたと聞いたとき、あの若さでと私は無念の思いを噛みしめました。

話しあっていて、あたたかさを感じ、信頼できる労働者、労働組合幹部、岡安さんの逝去を、心から悼むものです。

統一労組懇代表委員として追悼の言葉をここにおくります。

一九八二年四月

親子二代のつながりの中で

山崎良一

岡安さんが突然なくなられて、すでに一年以上経った。しかし岡安さんが目指された闘いの勝利への日々は多くの人々に受けつがれて今日もつづいている。私と岡安さんとのつながりは結局親子二代ということになるのか。

戦後、日本の近代産業の拠点でもあった東京南部の工業地帯の中にあつて下丸子はその一つを中心でもあつた。私は三菱の、そして岡安さんが働く職場の仲間として結ばれた靖子さんは、北辰労組委員長でもあつた故宮崎さんの娘さんでもあつたからである。戦後、労組の結成を先行した三菱下丸子は、北辰労組の結成を援け、三菱が占領軍の直接管理の下で行ったレッ

トパージに反対する闘いでは、北辰労組が三菱労組をはげますデモを組織してくれた。

この闘いの中で、支援のデモ隊が三百余の機動隊に囲まれ、北辰労組の事務所にろう城を予儀なくされ、生理作用を伴う人間の集団として組合事務所があたかも便所のような臭気がたちこめた話等、今でも当時を知る人々の語り草となっている。

時は移り、今日の北辰の支配は当時の清水一族ではなく、住友独占であり、職場では会社と一体となった同盟がその力を及ぼしている。その中で両安さんは全金の旗を掲げ、毎日の暴力にも屈せず、残された数十名の同志と共に資本からの独立、何よりも働く者の自由と権利を守るため闘ってこられた。

告別式の日、両安さんが職場の中では有能な仕事をつづけ、会社にも同盟にもつけ入るすきを与えなかったとの職場の仲間の報告がされた時、活動家の大切な条件を両安さんがもっていたんだと改めて知らされ、有難いと思ったことであった。

それだけに、若くして世を去ったことが残念でならぬ。生身の人間は死と隣り合せて生きている。従って死はいつか必ずくるが、その生きている時、どのようにして生きるかが大切である。両安さんはその生き方を示した一生であることは確かである。

一九八二年四月七日

「コンビ」で労働運動を発展させた

渋谷 要

岡安さんが亡くなってから一年になる。本当に惜しい人を亡くした。いま、存命ならば多くのたたかいで大奮闘していただろう。

岡安さんは、労働組合運動のすぐれた幹部であると同時に共産党の優秀な幹部であった。彼は、実践家でもあり、理論家でもあった。どんな時でも労働者を信じ、労働者の要求やたたかいを学び、働くものの利益のためには身を削っても働く人だった。また、よく勉強し、自分にはきびしい人だった。

私が岡安さんと知り合いになったのは一九六〇（昭和三五）年歴史的な安保闘争の年であり、目的をもって下丸子の三井精機にもぐりこんで、下丸子で活動するようになった時からであった。

以来、ともに労働組合の幹部として、党の活動家として、二十年來を共にたたかってきた。人格好や活動歴、活動基盤が似ているのでよく間違えられた。

岡安さんは北辰で、私は当初は三井で、その後下丸子地域支部運動で、あるいは党の議員として、党の拡大強化と階級的民主的労働組合の構築のため活動した。

お互いに二五、六歳の若かった頃、安保で高揚した職場の中に党と民青の構築で競いあった。若手幹部を育てるためにも、ともに大きな成果をあげた。民青の班も二か所で数十名の人数を得て旗あげした。この時、岡安さんの決定に対する忠実さとがんばり屋の性格、科学的な拡大運動を私は学ばせてもらった。

私が全金下丸子地域支部を旗あげし、一時は百余の工場に千名をこえる労働組合をつくれたのも、岡安さんの陰に陽たの支援があったからだ。当時の全金下丸子ブロックの幹部は企業をこえた地域支部の活動にある種の嫌悪感があった。しかし、どこかの馬の骨かわからない、また共産党のチャキチャキの私の活動をブロックや地協で評価し、紹介してくれ、労働組合の幹部としても押しあげてくれた。やさしい思いやりのある同志だった。

東京地本でも岡安、渋谷のコンビは有名だったと思う。よく亡くなった佐竹五三九氏から岡安、渋谷連合にあうとかなわないといわれた。

私は、選挙の時も、共同の活動の中でも、彼から助けられ教えられた。いま、彼の亡きあと、彼に報いることは、党を大きくし、革新統一戦線を一日も早くつくりあげることだと思ふ。そのことを誓うものである。

労働者の楽天性をもった人

小池清雄

私が岡安さんと知りあったのは、メーデー事件で獄中からでてきて大田区で共産党の活動を開始した時からです。北辰電機で臨時工として入社した岡安さんを紹介され、夜、下丸子と武蔵新田駅の間で連絡をとりあい、会って話をしたのが最初でした。

その後三十年近い間、いっしょに活動してきましたのですが、岡安さんは日本共産党南部地区委員、大田地区委員など、党の地区役員としても重要な役割をはたしてきた同志です。地区委員会の大会議案をつくる時の、現場からの発言をいまでもよく思い出します。地区委員会総会でも、情勢の特徴を現場の労働者の変化とともにいきいきと発言してくれました。

一九六〇年代と七〇年頃、全金北辰電機支部の委員長、書記長時代、私は下丸子地域の責任者、地区委員長の時、岡安さんと大企業の労働組合が、地域の末組織や中小企業の労働組合の闘いの状況をたえず念頭において戦術をくみ闘うべきだ、と相談しあって活動したことをよく思い出します。そうした全金北辰電機支部の活動は、地域の労働者にとって大きなげま

でした。いまでも当時の活動家があつまるとよく話になります。

その後、資本の攻撃―組合分裂がつよまるなかで、どうやって組合員の要求を大事にして団結を守るか、連日深夜まで話しあったことが昨日のことのように目に浮んできます。

そして私は、一九七三年から東京都委員会で活動するようになり、七八年に再度、東京二区選対の責任者で大田区に帰った時、岡安さんは東京二区後援会の副会長として労働者後援会のなかで積極的に役割をはたしてくれました。当時下丸子で一諸に活動した茶谷さんが、「岡安さんも本当に苦勞しましたよ、組合分裂の攻撃のなかで腕時計がゆるくなって、ずり落ちる程やせたんですよ」と話してくれました。本当に人知れず苦勞の連続だったと思います。あらためて岡安さんの労働者の楽天性と労働者への無限の信頼、政治革新への情熱に頭が下がる思いです。

いま、大田区の共産党が衆議院選と都議選で議席を奪還し、いよいよ八三年選挙を目前にして、また労働運動の階級的潮流への期待がたかまりつつある時、そして日本を核戦争の危険から守り、国民の利益をまもるための闘いの前進がつよく求められている時、日本共産党の役割が大きくなっていると思います。

党創立六十周年、第十六回党大会記念「日本共産党躍進大運動」をたたかっています。

必ずあなたが願っていた労働者と国民の要求を実現するため、政治革新に向けて共産党を大

きくし奮闘することを誓います。

岡安同志、安らかにねむって下さい。

一九八二年五月

ウルサ方、頑固な美少年だった

沢口 静夫

今から三〇年程前、私が大田労連（大田区労協の前身）の常任になった頃、岡安さんは北辰電機の組合（当時は産別・全日本金属の分会）の青年部で活動していたと思う。

まだ、二〇歳位だった彼は、「紅顔の美少年？」といったタイプの青年であった。

ところが、この「美少年」、仲々の「ウルサ方」で私も時には意見が対立し、カンカンガクガク彼とやり合ったことも一度や二度ではなかったと思う。

その中で感じたことは、彼が労働運動に対する持論をキチッと持っていたことであり、また持論に対し大変頑固でもあったことある。

朝鮮戦争で、日本の労働運動、民主運動がアメリカ占領軍の直接的弾圧によって大きく後退

を余儀なくされた後、六〇年安保闘争を経て、再び高揚期を迎えるまでの、いわば「冬の時代」當時の全日本金属北辰電機支部は、大田の労働組合運動の前進に先進的役割を果たした。その中で苦勞もなく、鍛えられ、組合の活動家として育った岡安さんは、その後、全金北辰電機支部の委員長として産別、地域の労働運動の第一戦で活躍するようになり、時には「天皇」などと陰口をたたかれる「ワンマン」ぶりを発揮したこともあった。

こうした「ワンマン」ぶりも、常に運動に対する自分の意見を持ち、自分の信念には頑固なまでに忠実であった彼の能力、素質に裏打ちされたものであったればこそ、通用してきたものと思う。

住友資本の激しい分裂攻撃によって全金支部が分裂させられ、少数になってから、全金を職場から排除しよう、連日職場で暴力、村八部的差別が全金組合員一人一人におそいかかったさまざまな攻撃にも耐え、決して資本に屈服しなかった全金支部の委員長として先頭に立ってたかってきた岡安さんの存在は、組合員にとって大きなものであったにちがいないと思う。

その岡安さんも、もういない。

岡安さんの急逝は私たちにとってあまりにもショックであったが、今は、全金北辰電機支部のたたかいを一日も早く勝利させるために努力することが、志半ばで逝った岡安さんの冥福を祈ることだと思う。

大衆の中に生きぬいた 故・岡安政和君を偲んで



高山 勘 治

故岡安和君の追悼集を計画された刊行実行委員の皆さんに敬意を表します。

六〇年後半に資本が組織を最大限に利用した組合つぶしをねらった、集中系列の合理化が強行された当時、私は全金東京の委員長だった。北辰闘争の共闘会議の議長でもあった。東京地本南部の拠点だった北辰電機支部に於ける組合つぶし組合分裂攻撃が行われた。これとのたたかいに対し地本と地域を結んだ共闘会議がつくられた。全金北辰支部は故岡安支部長を中心にしたたたかいにたちあがった。

きびしい攻撃の中にあって組合員をよくまとめ故岡安君の活動は、生き生きとして活力があった。折にふれ彼と私との接しよくも多くなった。よく彼とは議論をかわしたが、サッパリとして常に大衆の中に明るく、とけこんで活動していたすばらしい活動家だった。職場の中での村八分にさらされながら何んら孤立感さえなく、職場労働者の権利拡大に情熱をもやっていた。こうした中で組合員が一人二人と増員されたことについて喜んで話してくれた。彼の努力

に、よかったね……と苦勞をねぎらったが、苦しいたたかいの中で彼の泣きごとの報告はついになかった。その後起こった竹岡組合員の失そう事件には大変なショックを受けられたようでしたが、彼は八方手を回し、心頭をめぐらし、東西狂奔していた姿は同志を思いやることにどんなにか、なやんだことでしょう。また職場の労働条件問題で、太田基準監督署に何回も申し入れに行った。

有給休暇の扱いについて北辰の就業規則の扱いと、労働基準法との関係を係官にするとく追求していた姿は、印象深くのこっている。これは北辰電機に働くすべての組合員の問題であるという追求でもあった。常に職場に運動を置いていた。ついにこの条件を改正することに成功した。あとで彼の私への報告は、門前でピラを入れていると、別組合員の多くから「岡安がんばれよ」と激励してくれるんだ、門前のピラ入れもまた楽しいものだと言ってくれた。

私は彼は多くのかくれた支持者をもっていることを信じていた。他にも暴力事件などいくつも重なったがこれらの対処に休まる時をもつこともなく闘志をもやし続けていた。その後私も中央本部に席を置くことになったが、本部にくると必ずといってよいほど、お互に言葉をかわし合っていた。一九八〇年二月八日、春闘準備の南部幹事会での急死の報に接し信ぜられない思いであった。まだまだ若いし、これからの彼の熟年の運動家を私は期待していた。故岡安君の組合葬でありし日の彼をしのんで献花に悲しみをこめて別れを告げた。

岡安さんを偲ぶ



高木 督夫

わたくしの記憶のなかにいる岡安さんは、いつも微笑を浮かべておだやかに話をしている岡安さんです。「温容」という言葉をそのままもってきてよいような感じでした。仕事がらわたくしは労働運動の指導者や活動家にお会いする機会が多いほうですが、岡安さんほどあたたか人を包みこむような印象をうけた方はありません。もちろん資本のきびしい攻撃に対決して全金北辰の先頭に立ってこられた方ですから、おだやかな表情の下にすさまじい闘志とねばり強さがもえただぎっていたことはわたくしにもよく分かりました。北辰を「守る会」の一員として本来なら岡安さんを激励する立場にあるはずのわたくしが、逆に岡安さんから度々元気づけられた経験は今でも忘れません。全金東京の労働運動は献身的ですぐれた指導者や活動家を数多く生み出していますが、岡安さんのもっとも代表的な一人だったと思います。岡安さんの遺志をついで階級的民主的労働運動の発展に人生をかけていきたいと思っています。

一九八二年二月六日、大田産業会館において「故岡安政和氏を偲ぶ会」を開催いたしました。この会には一三〇名にもおよぶ各界のみなさんの参加をいただき、多数の方から貴重なごあいさつをいただきました。ここに、

そのうちから一〇人の方がたの分を転載させていただきますました。またさいごに、シチズンの仲間からの八一年二月二八日によせられたメッセージをくわえました。文責はすべて編集委員会にあります。

各自の墓誌銘をあらためるために



偲ぶ集い実行委員長
全金東京執行委員長

森 野 徳 雄

早いものでして、岡安さんが亡くなってから、もう一年を経ようとしております。普通、日本では一年たつと一周忌、あるいは三回忌、七回忌というような仏事を催す習慣がございます。がどうも、労働組合の関係はあまり仏様と縁がないようでございますので、一周忌という形で何か行うという事はどうかという声もございます。しかし、岡安さんの生前の活動を、そ

れぞれの皆さんが折にふれ、思いおこして、いわばその追慕やみがたく、一回みんなで会って、岡安さんを偲ぶことはいいいことではないかということで、東京地評、大田区労協、全金東京など、北辰に関係する労働組合やあるいは民主団体の代表の方々にもお集まりいただきまして、偲ぶ会の実行委員会を構成して、ささやかであっても心のもった集いをもつてみたい、こういうことで関係の皆さんのお骨おりを大変いただきまして、本日この会を持つことができました。

それぞれの皆さんの胸の中には、岡安さんの墓誌銘ともいうべき内容が、胸の中にぎざまれておると思います。これを集いを契機にいたしましたして、ややもすると薄れがちになるその墓誌銘を、もう一回はっきり刻んでもらうことは大変いいことではないかと思えますし、岡安さんの遺業であります、労働者が少しでも幸せになるように、北辰のたたかいが早く勝利的な解決をするように、お互いにご欲談の中で確かめあっていただきたいものだと思っておるところであります。

本日は大変お忙しいところを、また寒い中をお集まりいただきましてありがとうございます。みんな岡安さんと親しい間柄の方々ばかりであります。腹藏なく、いろいろご欲談をいただいて有意義な一席を過ごしていただきたいものだと思っておるところであります。

僭越ではありますが、実行委員会を代表いたしまして、ひとこと皆さんのご参会に対して、

お礼を重ねて申しあげて、ご挨拶にいたします。大変ありがとうございます。

真実 一路の人



北辰電機を守る会副会長 吉田 明

吉田でございます。皆さんどうも御苦勞様です。守る会会長にかわりまして、短かい御挨拶を申し上げます。一年たったわけですが、先程からお話ございましたように労働界のこういう時ですから、失った損失がいかに大きいか改めて痛感する次第です。

個人は、金属関係の運動は主として大阪が中心として、東京の方はかなり後になって、中央の書記長として上京してきてからですので、関東の各分会とは、割合なじみが浅かったんですが、今、振り返って見ますと、そういう中で一番足しげく行きましたのは、池貝鉄工と北辰なんです。労働組合の問題で、わからん問題にぶつかって頭をかかえている時に、本部でいつまでもクヨクヨしているよりも、現場に行って職場の人に聞きやあ早いということ、良く遊びに行っただんです。

どうして北辰に、あんな風に行くようになったんだらうかと自分なりに考えてみたのです

が、岡安君は亡くなられたお父さんの事を非常に尊敬すると時おり話されたことがあります。そのお父さんは産別会議の最も戦闘的な組合であった全日本電工の中央執行委員として奮闘された方なんです。宮崎さんです。私も存じております。そういう親子二代、全国金属とそれに先だつ産別会議の頃より奮闘された、そういう輝かしい親子の運動に対する敬愛の気持が一つあったと思います。

もう一つは、私、学校が交通関係の出身です。金属関係の役員をやるには、どうしても知らなければならぬ機械のことはズブの素人ですので、何とか少しは勉強しなければ行くまいと、北辰に行って教えてもらおうという気持も一つあったと思うんです。あそこは、ああいう工場ですから、非常に機密さが要求される所なんです、私がズブの素人だということを知っているものですから、会社も怒らんからこいと、何でも見せてやるからといって丸半日、工場の中を親切に案内してもらって、いろいろおそわったことを思い出します。

同時に、岡安君の若き日を今も思い出しているわけです。もう皆さんご存知のように、あの真の一路といえますか、誠実そのもののような彼の性格と、彼の指導をうけた当時役員の方の暖かい態度、確か清水さんとかいう御婦人の方がいらっしやっただと思えますが、北辰の私達に対する暖かい配慮、こういうことをふくめて、若き日の彼のああいう、本当に誠実なかれを忘れることができません。

先程、森野さんや生井さんからお話でしたが、労働運動も、断固として許すことができないような右翼的潮流がはびこっております。しかし戦闘的な歴史をもつ日本の労働者階級は、必ずこれを克服して、戦闘力を回復し、日本の労働組合をまともな道に乗せる時が必ずくると、その時は決して遠い先のことではないだろうと私は確信しています。その確信を申し上げて、ここにいらっしゃる皆さん、お体いくつあっても足りない方ばかりでしょうが、健康に留意されて、岡安さんの分を含めてご奮闘いただくことを改めてお願いして、亡き彼を偲ぶ挨拶の言葉にかえたいと思います。

(元全国金属中執、元全日本金属書記長)

ともにたたかった争

議団の一員として



中須製作所 小 沢 信 夫

昭和三二年、大田区労協が発足した中で、北辰電機が副議長、私達が常任幹事という形でした。それ以来、下丸子地区において、北辰が春闘なり一時金でとったものを下丸子がおいかけてゆく、北辰が先頭になって私達をもちあげてくれたというのが事実です。そして昭和四〇年

に、中須が倒産し、更生会社になったわけですが、その時の共闘会議の議長が、今の北辰委員長である高橋さんです。

北辰が資本によって分裂させられ、私達も共闘会議の中で、一緒になって北辰の門前で、同盟のあばれるやつらと大いにけんかをした。

大手町の住友銀行と一緒に交渉に行ったこともあります。その時岡安さんの雄弁といいますが、むこうを説得する話術は相当なものであったと思います。また、私のところが五二年に自己破産し、東京争議団共闘に入った。北辰もその副議長ということで共に闘ってまいりました。

ある時、大田で東京総行動の支援要請を、北辰と中須の両名の名前が大田区の区労協関係、全金関係に要請文を出しました。それについて全金の本部から、それはうまくない、全金は全金だといって来たことがあります。その時、岡安委員長が、いやそうではない、とにかく大田で共闘を組む、東京争議団の中で同じ闘うものですが、どうしてそういうへだたりをつけるのだ、オレにまかせろということで、ある東京総行動の一日、東海銀行に対して全金の大田の部隊を全部まわしてくれたことがあります。

分裂前の岡安委員長というのは、私達はチョッと顔を見るだけで、仲々話しもできなかったが、分裂後、よく東京争議団の三役会議なり、また道であった時などよくお話ししました。本

当にあかるい、とにかく理論家でした。

今、東京争議団共闘は以前浜田精機、ベトリカメラを中心とした倒産部隊でしたが、五五年に、私達も含めて解決していく中で、差別争議が中心になりました。東京争議団のスローガンである一日も早い解決に向って進もうということで、北辰また日航の皆さん等々が中心になって今後のたたかいをすすめていただきたい、と思う次第です。

中須も五五年に解決しまして、新会社発足して一年四ヶ月、仲々経営は楽ではありません。労働組合の盛り上がりだという事でユーズーからも大分敬遠され、仕事を拾ってくるという毎日でしたが、一年たつてつづれなかった、そろそろ仕事もだそうかという所も増えてきました。また、中須本来の仕事である冷凍機器を新しく第一号をだし、すでに八台の引き合いが来ております。

私達はとにかく、労働組合が解決して、いわゆる企業をやって行く、これは絶対につづしてはいけないと思っています。

今回は、ご挨拶をさせていただきまして、ありがとうございます。

(全国一般中須製作所の再建闘争を指示されいまは新社取締役)

岡安書記長と二年組んで



全金北辰電機
支部元委員長 青山純夫

北辰の関係で、この会になかなかでられないんです。でるとにらまれるから。私はまあ辞めましたから、堂々とでられますからできてきたわけです。私も、もう北辰の最後の一年間は管理職だったんですが、子会社にとばされてしまいました。

私も組合を二年位やりましたが、話すのが下手なんです。こういう時は、いつも岡安君がぼくの代りにしゃべってくれたんです。所が今日はいないんで、残念ながら私がしゃべるわけです。岡安君と私とは、正確にいうと二七年前、昭和三〇年北辰に入りました。入ったころは、北辰というのは、今のような労使協調ではないのですが、年配の係長クラスが牛耳っていたような組合だったんです。これではいかんということ、私がゴソゴソ動いていたら、岡安君と偶然に会いました、その頃からのつきあいとなりました。

私が最初に執行委員になったのは、昭和三三年、その頃は警職法のストライキ等がありまして、首になるのを覚悟でやったわけです。今から考えれば、お笑いなんです。その時に激励

しながらずいぶん心配してくれたのはやはり彼でした。次に私が執行委員をしたのは、昭和三七、八年の時です。この時は、いわゆる会社側が功を奏しましてね、右と左にわけるのはいけないんですが、執行委員会でも大体半々、チョット左が強かった。私がシャッポをぬぎましたので、左の方がチョット強かったという感じですね。

その時にひとつ話があるんです。もちろん最後は選挙でまゐるのですが、書記長を誰にするかという話が出たんです。私が、とにかく学卒者は頼りにならないからダメだよといったら私も学卒者ですが、したら、すごい攻撃を受けましてね、その頃から学卒者の組合執行委員が大分でてきたわけです。その連中は皆えらくなくなっていますけれど、その時に一日位もめたわけです。最終的には岡安君が、また書記長をやってくれまして、私はもうしゃべる時にはしゃべらないで、頼むよというとながら全部しゃべってくれたわけです。私はえらそうな顔をして、腕かなんか組んで、後ですわっていたんです。

それから、その翌年、岡安君と私とが組んではまずいということで、私は管理職になったわけです。管理職になったら、偶然なんです、岡安君は私の部下でありまして、今ここにおります松本彦栄君（現副委員長）とか、会社から見れば非常に悪い連中が私の部下には沢山おりました、それでもその頃はまだ北辰は自由な空気があったわけで、日中友好協会なんかありません、私は管理職になっても中国へ代表団で行けたわけです。

その頃、実際には私は何もやらないで、岡安君とか松本君とか、そういう連中が一生懸命やっています、本当は岡安君が行くべきなのを、私にゆずってくれて、北辰の代表として私が行ってきたわけです。それから、変な話ですが、課長になるとみんな部下の考課をつけるんですね。私も考課をつけたんですが、組合活動をやっている連中というのは点数がチョットへるわけですね。残業してくれといっても、できませんよと帰っちゃうわけですね。客観的にわけてもチョット落ちるわけですね。ところが岡安君は全然そういうことに対して文句を言わないわけですね。ところが変な話ですが、松本君は私に大分文句を言ったんです。私が冗談半分に、なんだお前、活動をやるやつが考課が良いというのはおかしいんじゃないかといったんですよ。ところが岡安君は全然そういうことに無関心ですね。

それから、管理職と職場でやる会議でも、松本君とかそういう連中は私をずいぶんつきあがるわけですね。岡安君は、まあ、あいつに言ってもしょうがないと思ったのかどうか、私に文句ひとつ言ったことがないですね。やさしい人でしたよ。そういうことで、四七年に、さっき言われたように、そういう事件がありまして、しかしそれは、一〇年も前から管理職連中というか、人事政策が全て、全金つぶしでやっていたわけですから、私なんかもそれは知っているわけですね。

分裂した時に、私もけしからん管理職だということで、清水にとばされたわけです。岡安君

なんかが、苦しんだことは、私は目では見てないんです。清水で、皆の情報をもたらしたりしていたわけですね。清水では、全金守る会を作ったり、そういうことしかできなかったんです。岡安君には、帰ってきた時にチョット会った位で、彼がまだ元気にいるような印象なんです。亡くなったけれど、全金の連中はがっかりしないでがんばってください。ここに居る皆さん、どうか苦戦している北辰の連中を、今後とも応援してやって下さい。お願いします。

侍大将だった岡安さん



日本共産党衆議院議員 榎

利夫

挨拶させていただきましてありがとうございます。早いもので、もう一年もたったかという気持ですが、しばしば、私、区内を歩くせいで岡安さんの家の近くを通るんです。その上池上のそばを通る度に、なにかこう岡安さんの面かけが頭にうかんでまいりまして、そのつど、私、いつも思っていることがひとつあるんです。それは、岡安さんというのは、いうならば、侍大将の風格をもった労働運動の活動家だったなあということなんです。

チョット古い例え話でありますけれど、最近いわゆる右傾化傾向の中で、この侍大将らしい

労働運動家がどうも少なくなってきたように思うんです。卒直に申しあげまして。

つまり敵に後を見せる、ベタベタくつついている、ところが現場の労働者に対しては、大変高圧的で強圧的で暴力までふるう、そういう事情が一部にあるだけに、あの、ある面向こう気が強くて、どこまでも妥協しないで闘っている、そして、仲間に対しては非常に暖かいあの岡安さんの侍大将らしいこの面影というものの値打と申しますか、そういうものを特に痛感しているわけです。

このあいだの総評大会で、どうも盛りあがらなかったという新聞報道がありましたけれど、そうであるだけに、春闘もすでに始まっておりますけれど、あの不屈の岡安さんの面影をお互いにめざしたような、本当に労働者が胸をはって歩けるような世の中、働けばそれだけ暮らしの向上に跳ね返ってくるような、そういう社会、ひとつひとつの課題に全力でぶつかっていくあの闘魂に学びながらがんばってまいりたいと思う次第です。

どうか皆さん方の労働者らしい愛情を、岡安さんの家族の方にも寄せつづけていただいて、お互いに友誼がこれからも深まりますことを心から祈念して、挨拶にかえさせていただきませう。ありがとうございます。

南部の伝統に結ばれて



全国金属中央執行委員 八代 栄 三

大変明かるい、健康そのものの岡安さんが去年、急逝されたと聞きまして、大変ショックを受けた一人です。早いものでもう一年たちましたが、今日この会に参加しまして、何年ぶりかでお目にかかった仲間の人達もおります。実行委員会の皆さんが中心になって、この偲ぶ会で、そういう方々とお目にかかれたのも、やはり岡安さんの引き合せではないかと思いましたが、岡安さんが二七年に北辰に入社されたことを略歴で目にしましたけれど、私は翌年の昭和二八年まで、当時は関東金属ですが、南部の常任として仕事をしており、ちょうど入れかわりに、当時の森野さんと南部を担当していましたが、私が中央の方へ行き、更に隣りの神奈川県で、神奈川県地本本部づくりの為に二年ほど仕事をして、また中央にもどった、こういう渡り鳥をしている間に、南部も、なんといっても金属労働者の中心の伝統をもつ南部の労働運動を、それなりに築きあげた、大きな役割を果たした一人が亡くなった岡安さんではないかと、理解しております。

岡安さんとは、そういう関係で、行き違いになったこともあって、日常不断のおつきあいほどのこともなかったわけですけど、彼の檜舞台とすれば、全国金属の中央委員会で、非常に理路整然とした、主張は主張として論陣を展開されたでしょう。

また個人的には、もう二〇年ほど前になりますが、昭和三七、三八年頃だったと思います。が大変暖かい、桜を記憶してますから、春四月だったと思いますが、洗足池で二、三歳の伴をボートに乗せて遊んでおった所、岡安さんが奥さんとお嬢さんつれて散策をされている時にバッテリーお目にかかって、まさに春闘の忙がしい中での、わずかな憩いのひとときの中で語りあった事を記憶しております。深いおつきあいはございませんでしたが、全国金属を何とか筋金のしっかりしたものとして、職場や地域で、金属労働者の共感を得る為の組織をしっかりとものにしたいという点では、どこか共通の、お互いの受けとめがあったんではないか、これは私だけの一人合点ではないというふうに今でも思っております。いずれにしても先程から、いろんな方からお話がありますように、今日、日本の労働運動をどうあるべきかという大変重要な問題が問われている時です。それなりに岡安さんの遺志を私自身も受けとめながら、皆さんと共に、これからも運動の前進を期して行きたい、これが岡安さんに応える道ではなからうかと思えます。特に大変苦難な現場で闘われておる北辰電機の支部の皆さんが、くじけずに、今日の集いを契機として、更に奮起一番、ご健闘されんことを期待致しまして所感にかえ

たいと思います。

早く芽生えた岡安さん



小山台高校同期生 石井 博

私が同期生というのと違うんじゃないかという人がいる。年齢が大分ちがう。確かにかれの方が若いんです。私は昼間はプリンスライターの下請けの工場でライターを作っていました。夜ヒマなので高校ぐらい行かなきゃいけないというわけで行った所が小山台高校なんです。だから私は、学生時代の頃、全然関係なかったんです。所が彼は早く芽生えまして、だから結婚も早いわけなんですけれど、すでに学生の自治会運動に精力を全部集中していたわけです。私が覚えているのは、この経歴の所にも書いてありますが、定時制高校の運動会の仮装行列のことです。その仮装行列に彼が天皇になりました、天皇がかぶっているような帽子をかぶりまして、象徴という看板つけまして、いわゆる軍国主義のなれの果てという形で、一番最後は傷痍軍人が身障者の形になって、そういう仮装行列を彼が指揮してやったんです。それが為に、私は知りませんでした、学校でレッドパージをくったんです。そういう事は明らかにしない方

が良いかもしれませんが、小山台高校は卒業しなかったようです。他の高校に転校させられたということなんです。高校の時から私達の民主主義の主張を、そのまま貫いて貫き通して、ずっときてたんです。私は高校の時は、彼を知りませんでした。彼も私を知りませんでした。その後、私は大田区役所に三四年十二月に入りました。いろいろありましたけれど、大田区職労で執行委員になりました、政治共闘部長というのをやりました。たまたま区労協の関係で彼に会ったんです。彼は童顔が消えないんですね。高校時代の彼と変わっておりません。従ってすぐわかったんです。あなたは運動会が得意ですね。小山台時代の運動会の時、天皇になって象徴の看板を掲げた人じゃありませんかといったら、そうだというわけで、十年ぶりに男の関係を更に強めるということができたわけですが、春闘討論集会で急逝されたということで、非常に残念でありますけれど、私はやっぱり彼の遺志をついで行きたい。私は目ざめ遅く、晩婚でして、労働運動も晩婚でありますけれど、岡安さんは孫がいるということですから、私の方はまだ子どもがマゴマゴしてやってやっと高校に入るところで、いろんな意味で遅いわけでありませうけれど、遅い力をいかして、大きく末長く岡安さんの遺志を継いで、今労働運動だけでなく政党も右傾化して大変な状況になっていますが、私たちは今こそ、この正しいたたかい、私たちの当然のたたかいはやっていかなければならないとしみじみ感じております。共にがんばって行きましょう。

住友銀行に坐りこんで動ぜず



大田区議会議員 小 菅 滋

ここへきまして久しぶりに岡安節を聞きました。本当になつかしい思いでございます。写真にありますように、岡安さんというのは俗な言葉でいいますと、いい男ですね。姿もいいが、気持ちも良い男です。こういう洋服を着るのは、私なんか着たら全然似合わないんですけれど、岡安さんが着ると本当に引き立つんですね。私は、思い出を一つお話したいと思えます。東京総行動というのは今もやられていますね。合理化攻撃をかけられている組合が、背景資本を逆にわれわれの方から攻撃して行くという戦術、東京地評の森本君、勝君がここにいますけれど、私は非常に大きな評価をしているわけです。それは、先程中須の小沢さんからもお話がありましたように、中須が解決できたそのひとつは、総行動の成果が大いにあると思うんです。何回目でございましたかね、住友銀行に行きました。岡安委員長を先頭に、私も当時区労協の議長でございましたから、私と、東京地評から村上さん。ところが、むこうが窓口でシャットアウトして入れてくれないんです。そこでエレベーターの前に二人で坐り込んだんです。

ぞったい動かないぞということで三人で坐り込みましたら、むこうも驚いて、お客さんが沢山出入りするものですから、最終的にやむなく話し合いに應ずるという一幕がありました。その時、私とか村上さんは非常に悲壮な気持でやっていたんですが、感心したのは、岡安委員長なんです。そういうことを一諾にしているも、いつも笑顔が顔から消えないんですね。常にそういう物に動じない態度でたたかいを指導したと思うんです。だからこそ、あれだけの大きな分裂攻撃をかけられ、苦しめたたたかいの中でも、少数といえども北辰の皆さんが、岡安委員長のもとに団結して、今日までのたたかいを継続していると思います。後を引き継いだ高橋君、区労協の中では私も一諾にずっとやってまいりました。是非、岡安委員長の遺志をどこまでも生かして、日本労働運動の為に、高橋委員長のもとに、このたたかいが本当に勝利し、労働者が解放されるまで、皆さん方のたたかいを続けてもらいたいと思いますし、私もどの場所にあっても一緒に行動して行きたいと考えております。がんばりましょう。

少数にされてもやめられぬたたかいの同志



東京地方労働組
合評議会幹事

森 本 一 雄

紹介いただきました東京地評の森本でございます。私は一昨年の一〇月に、東京地評に全通東京からまいりまして、ちょうどきたばかりの時に、この場で全金北辰支部の支援集会が開催されました。先程、詩の朗読の前段に、岡安委員長のご挨拶のテープがまわっておりましてけれど、その場で、初めて私は岡安さんに会いました。そういう意味では、岡安さんを偲んでという事では、あまり多くを語れないわけでありませうけれど、私は全金北辰支部の仲間の皆さんが、南部の労働運動の中で、過去の輝かしい歴史あり、あるいはまた、今日労働者が労働者らしく生きるため、たたかい続けられていることに、大変興味あるといえますか、ともにたかおうという気が湧いてくるわけでありませう。ちょうど先程の映画の中にもありましたけれど、昭和四七年、北辰の分裂当時には、私は全通の西支部地方支部で、専従の役員をやっていたわけでありませうけれど、当時もやはり、全通にも総評にも大変なマル生攻撃、組織攻撃がかけられた状態であります。四六〇四七年、都内には八五いくつの普通郵便局がある中で、当時

とすれば、品川、中野しか第二組合がなかったのが、この二年間で、郵政当局のマル生攻撃の中で、全支部ほとんどに第二組合を作られるというような非常にきびしい合理化攻撃、マル生攻撃がかけられました。このマル生攻撃は、北辰の皆さんと同じように、昇進昇格の差別、こういったものを中心しながら、組合活動家処分なり、強制配置転換なりといったものが中心であります。私は今日、労働運動の中で、反合理化闘争をたたかわなければならぬと、いつもよく言うわけであります。これをやれば、当局側から大変な攻撃がかけられる。そしてまたマル生攻撃がかけられる、これに抵抗してたたかわないような労働組合は、日本の労働運動に必要ないだらうと思えます。またマル生攻撃をかけられて、果敢にたたかう労働組合こそ、将来の労働運動を背負う労働組合であると思えます。少数になったとはいえ、われわれは負けるわけにはいかないし、放棄するわけにはまいりません。北辰の仲間の皆さん。大変きびしいだらうと思えますけれど、現高橋委員長のもとに団結を更に強化され、この南部の中、東京の中で、労働運動を果敢にたたかいぬき、引張っていただきたいということをお願いして、挨拶にかえる次第です。

裁判で勝ってむくいたい



弁護士 高橋 融

岡安さんのおつきあいは、十数年になるかと思いますが、昨年の急逝にあいまして、本当に申し上げる言葉もなかったわけですが、今日、年譜を見せていただきますと、昭和二十年当時、戦争の当時作並に疎開されていたということを見ました。

私は、当時作並の山奥の山形県側の仙山峠をこえた所におりました。あーそんなことは知らなかったなあ……そんなお話をするヒマはなかったなあ……ということを思います。

十数年のおつきあいの中で、岡安さんの人となりは良くわかったつもりです。本当にいろんなことがありました。私たち弁護士というのは言ってみれば野戦病院みたいなもので、まあ、けがをした方々、いろんな事件というものを一つ一つ胞帯を巻いて何とかして行く、できれば、そのエネルギーを闘争の方に向けていくということでございましたけれど、なかなか思うように行きません。数えてみますと、裁判やいろんなものがあつたと思います。成果の上があったものもあれば、成果の上がないものもあります。

私たちこれからもがんばって行きたいと思えます。岡安さんの意志をついで行くことは一つ一つの裁判の中で本当に勝って行くことだと思えますし、それが、運動の成果になるような形で実を結ぶように努力することだと思えます。

ご家族の方々のことを思うと、この一年というのはいろんなことがあったんだろうと思います。これからも、何かがあったらどうぞご相談下さい。それから、労働組合の皆さんも何かと岡安さんのこの考え方、楽天的な笑顔を秘めた闘志を引きついではありませんか。

ひとこと、ふたことで

よろこびを共有できたあなたに

一輪の花を捧げます

全金シチズン時計支部

橋 木 利 正

岡安さん、あの日午後一時をまわって帰宅した私を、あまりにも突然のあなたの訃報が待っていました。ただ言葉なく信じられないままに、たたかいのなかばで倒れたあなたの無念さを

思いました。

今私たちの前に、生活の破壊と、ファシズムの危険が迫りつつあるとき、そして労働運動も、また政治の分野でも、残念ながら大きく後退をしているとき、たえず私たちの先頭に立つてたたかってこられたあなたと別れなければなりません。

思えば、北辰電機の分裂攻撃にはじまる長い年月、苦しみに満ちたそのたたかいかいの中でも、あなたは、けっして明るさを失いませんでした。そうしたあなたの姿をみて、はげまされ、確信をもって、たたかう決意をかためた者は、どれほどの多くを数えることでしょう。

私もまたその一人でした。それなのに、もうあなたは、腕を組み、語り、笑いあうことができませぬ。

岡安さん、あなたの思いがけない訃報に接して、きょうまでのあなたと親しく話す機会のなかったことを悔んでいます。会うのは、きまって会議や大会の時でしたから、二言みこと言葉を交すのが精一杯でした。でも、同じよろこび、同じ苦しみ、同じ悲しみ、同じ怒りを抱く私たちは、いまは、それだけでいいと思っていますのです。

それがたとえ、わずかの言葉であっても、私たちには充分に、お互いの気持ちをあたたかく通い合せることができました。

そのうちに、お互いのたたかひの日々をふり返って話し合うことのできる日がくるだろう、

私はそう考えていました。しかし、あなたは、自分の声で、自分の言葉で、あなたのためだけに、人生を語ってくれることもなく、突然に、しかもあまりにも若く逝ってしまわれました。

あなたが生命をもってたたかい、実現しようと努力された社会——わずかの休息もない日々の中で、それだからこそ、燃えあがる炎となって胸を満たしつづけた社会を、もう自分の目でみることでできないあなたが無念さをかみしめながら、私は明日にむかって歩みつづけます。あなたが一日も早く実現することを望んだ日本の夜明け——春はやがて、この冬の時代を切り開いて必ず訪ずれるでしょう。そのとき、おそらく日本の大地は、咲き乱れる花におおわれるにちがいありません。その日がきたら、私はあなたの分まで花を手折って街にとびだし、新しい私たちの国の誕生を祝うでしょう。

岡安さん、いま、あなたの墓前に、一輪の花をささげます。

やがて訪ずれる春にむかって、あなたがふみしめた、たしかな道をひきつづき歩きつづける「誓い」です。

岡安さん、ほんとうに長い間、ご苦労さまでした。どうぞ安らかにねむり下さい。

以下に岡安さんの論文二点を紹介します。「北辰電機における暴力支配の実態と特徴」は一九七五年三・四月合併号「金属労働資料」（全国金属労働組合）所載、「民社党の暴力・人権侵害の体質」は一九七六年一二月号「労働運動」（新日本出版社）です。他にも五点ほど「労働運動」、「学習の友」に論文や座談会あるいは書評がありますが、紙数の都合で割愛いたしました。

北辰電機における暴力支配の実態と特徴

はじめに

全国金属北辰電機支部は、第二次大戦後、当時、日本の労働運動の中核となった産別会議が結成されて以来参加し、首都東京の南部労働運動の中心として、ながい伝統をもつ戦闘的な組合であった。

全国の製造業労働者のうちでも相対的に高い労働条件をかちとり、他の労働組合の目標とな

っていた。また労働者階級が、真に国の主人公となる国政革新のたたかいの中核となる労働戦線の統一をめざして奮闘し、地域における労働組合運動の階級的前進にとって積極的役割を果たしてきた。

このような、ながい伝統をもつ戦闘的な組合が、なぜ、少数組合に分裂させられ、現在暴力によって、職場から排除される攻撃をかけられる事態になったのであろうか。ふたたび全金北辰電機支部が、南部の労働運動の中心的拠点として、また産業別闘争の前進に積極的役割を果たしうる労働組合として復活しえるために、また真に資本とたたかっている階級的・民主的労働組合が、資本の組織攻撃にさらされている今日、北辰における攻撃の背景、性格、本質を現在の段階で検討することは、効果的なたたかいを組織するために必要であると考ええる。

一、住友独占による分裂攻撃

住友独占が北辰資本に対する支配を強化していく過程のなかで、全金北辰支部に対する攻撃は強められてきている。いうまでもなく、一九五五年以降、日本独占資本は、国家独占資本主義の機構をテコにして急速な高度成長をとげてきた。この高度成長の中心となったのは、鉄鋼、石油化学、自動車、電機などの重化学工業部門であり、重化学工業部門における高度成長は猛烈な勢いで技術革新、オートメーション化を軸に進められてきた。

日本独占資本の高度成長は、オートメーション計器（工業用計器）の開発と生産抜きには存在しなかったものであり、オートメーション計器界は、高度成長のひとつの中心として急速な成長を遂げてきた。このオートメーション計器界は、巨大独占よりも、中堅的な専門メーカーで行なわれてきた。横河電機、北辰電機、山武ハネウエルなどである。

北辰における高度成長（蓄積）をみてみよう。

一九四九年再建された北辰は、当時一、二〇〇万円の資本金であったが、一九七一年には約三〇億円と増大して、約二五〇倍になっている。高度成長のはじまる一九五五年には約二億四、〇〇〇万円であったから約一二・五倍に増大したことになる。

北辰の主力工場は、本社が東京下丸子工場で、他に奈良工場があり、全金北辰電機支部より組合員約一、六〇〇名の大量脱退した一九七二年以降、新潟北辰、長野北辰、岩手北辰などの子会社（いずれも三、〇〇〇万円前後の出資）が続々地方に設立され、更に現在、三重北辰、福島北辰が設立中であり、その他関係子会社一〇以上をもち、一九七四年三月の時点で、新工場、子会社用地として、鹿島、千葉、富山、長野、新潟などに約四万六、〇〇〇平方メートルの土地を所有するまでになっているといわれる。今後も「日本列島改造」に乗って地方への進出を狙っている。また外資との合併会社、M・S・A北辰、日本マグナボック航海機器を設立している。会社はこれらの関係子会社、下請を含めた「オール北辰」を呼号し、有数のオート

メーシヨンメーカーに成長している。

この間、一九六七年以降、住友銀行、住友商事、住友信託銀行などの住友独占の支配が強化され、その系列化を強めてきており、人事面でも現在住友銀行から副社長、常務取締役として役員派遣をしてきている。

このように企業規模が拡張されていくなかで、高利潤を追及する資本の要求は、労働組合の徹底した御用化であり、生産性向上運動にしたがう労働者づくりであった。資本の側からする思想教育（徹底した企業主義と反共教育を中心とした教育）を職場の労働者に対して、就業時間内や、泊り込みで、職場別、階層別、下級職制のグループ別など多大な時間と莫大な労力を費しておこなった。

組織的には、組合とは別のところで、当初は非公然に全金支部を攻撃するための組織として「労友会」を一九六七年に再編、組織し、組合内部から分裂策動をおしすすめた。

下級職制である監督職（組合員でもある）を四、五名に一名の割に急増させ、支配機構を強化するとともに、賃金査定の特権を与えることで権力を持たせ、同時に賃金査定による差別の拡大をはかっていった。

一方、会社の社内報である「北辰ジャーナル」では頻繁に反共的労使協調思想を宣伝し、全金の活動家を「企業破壊分子」として、労使あげて「企業破壊分子」と断固対決することを呼

びかけ、管理職らには、労使協調をうたうキャンペーンを社内報にくりかえし掲載し、また社内掲示板などで宣伝していった。

このように組織破壊は、①政策的には新しい装いをこらした「企業主義と生産性向上運動」と「企業破壊分子、闘争上主義」など「反共、反全金」を結合させたものを思想動員の柱に置き、②これにもとづく教育・研修で武装させ、大量宣伝をかける。③組織的には下級職制を大量にふやし、彼らには昇格・格下げと賃金査定のアメとムチによって組織破壊の先兵とさせたことなどが特徴として挙げられる。

しかも、この全面的攻撃と対決してたたかうべき全金支部は、委員長、書記長のポストを全金派が占めていたとはいえ、一九六八年、六九年の役選では、会社派が九対六で多数を占め、支部としての有効な反撃が組織できなかった。

このような困難な状態が続いたなかで、七〇年の役選では、全金派は具体的な職場別、階層別の要求とそのたたかいの方向を政策としてうちだし、会社と対決する姿勢で選挙にのぞみ、八対七と勢力を逆転させることができたのである。

住友と会社は、これに危機感を深め、前述の攻撃を更に強化し、七一年春闘では、三年間のスト禁止、職能給の導入など六項目を賃上げの条件として提示し、組合内部で策動を続ける会社派幹部を使って、組合の内外からゆさぶりをかけ、春闘を意識的に長期化させ、多くの労働

者に全金は闘争至上主義であるとかり返えし宣伝し、春闘を挫折させた。

この春闘直後の役選で、会社派が安定多数を握るとともに、秋には会社は、約三〇〇名にも増やした監督職者（組合員でもある）を「北隆会」に組織し、全金より脱退することを組織的に呼びかけるなどして、会社の思想動員を大衆的な規模で実践させてきた。

しかも、全金北辰電機支部への組織破壊のねらいは、北辰だけを狙ったものでなく、北辰での組織破壊を通じ、東京南部での労働運動の階級的前進、統一戦線の前進を分断させ、産業界統一闘争をすすめ、労働運動の右翼的再編成に反対する全国金属を孤立、分断させる遠大なねらいがあったことを明らかにしなければならない。

このことは、この時期が、軍国主義、帝国主義復活強化の新しい段階をめざす独占資本の階級的民主的労働組合に対する全面的攻撃の一環として、住友資本による全金住友重機、全金日特金属、全造船機械浦賀重工などに分裂攻撃が相ついでかけられた時期であったことが証明している。

全金北辰電機支部への組織破壊はけっして、一企業での攻撃ではなく、日本の独占資本の要求であり、住友独占、会社、日本生産性本部、同盟など一体となった大規模な攻撃であった。

こうして一九七二年三月には全金からの大量脱退に至ったのである。

約六〇名の労働者は、①いかなる攻撃のもとでも職場に階級的・民主的労働組合のトリデを

確立する。これがなければ、活動家が一人一人分断され、反撃の主体的部隊そのものが破壊される。②産業別単一組織である全金の組織を存続させることは組合員としての当然の使命である、という立場から少数になったとはいえ、全金支部を守り抜いたのである。

二、分裂後における同盟育成と全金孤立化

分裂後、脱退していった約一、六〇〇名が同盟に加盟し、他方会社は、生産性向上、HAI運動、各種の社内教育、研修などの運動を展開し、第二組合である同盟は、会社と一体になって「合理化」と生産性向上運動をすすめ、労資一体となった「生産性の船」に労働者を派遣させている。労資一体となった労使協議会、生産性教育が頻繁に行なわれ、労使協議会には、「生産性委員会」「能力開発委員会」が常設され、第二組合委員長は、労組生産性会議関東地区常任委員になっている。

こうして、会社は第二組合を、北辰における労務管理政策の先兵として育成し、全金と第二組合とを意識的に敵対化させていった。

会社と第二組合幹部は、職場の多くの労働者を全金と意識的に対決させていくために、徹底的な企業主義、企業意識をあらゆる機会をとらえて、（例えば、会社側からの反共的社内研修・教育、社内報、組合の側からする研修、宣伝、労使一体となった生産性向上運動などで）注入

し、企業を守るといふ一体感をうえつけ、全金が「企業破壊分子」であることを執拗に強調してきた。

企業意識、企業主義は単に言葉のうえだけではなく実際に行動させていくなかで、つまり全金と対決させることによって、強化させていくところに力点を置いた。

たとえば、全金組合員に対して、職場の親睦会、歓送迎会、各種サークルからの排除、労使共催のスポーツ大会からの排除、職場で出されるお茶を与えない、話をしないなど、全金組合員を職場から孤立させることを狙うと同時に、この孤立化攻撃を職場の個々の労働者にやらせて、個々の労働者が、全金と対決させていくことによって、反全金行動を積極的に行なうようになっていった。この行動に加わらない労働者や全金組合員と親しくする労働者がいても、会社からは警戒される、配転させられる、賃金査定は下るといった不安から、この孤立化攻撃に加担せざるを得なくしていった。

この孤立化攻撃と並んで、全金組合員に対しては、昇給、昇格の差別更には全金組合員の顔写真と氏名をポスター大の紙にはって、そのポスターに「日共分派」と書いて、職場の掲示板数十カ所に掲示し、会社を退職すると、退職した組合員の顔写真に赤線で×点をつけるといった指名手配なみの顔写真ポスターの掲示を続ける、あるいは病氣回復後や産休明け後の全金組合員に対しては、自宅待機を命ずるなど見せしめによって全金の立場を支持している職場の労

働者を、全金から離反させる攻撃を展開していった。

三、最近の暴力支配の現状とその特徴

こうして「分裂」後二年間に前記の攻撃が加えられてきたが、一九七四年春闘時に、会社構内ビラを配布していた全金組合員に対して、同盟の幹部に暴行を受け傷害を蒙る事件が発生した。

その後、夏期一時金闘争においては、全金が昼休み時間中に開いた集会で、人事課員が集会でマイクを持って演説している全金の委員長に対して体当たりをしたり、マイクを実力で奪おうとする事態が発生し、会社は一方的に集会を禁止したり、処分をもつてのぞむと威嚇した。この集会の妨害の状態を写真撮影しようとした全金組合員に対して、解雇をちらつかせた。

このような状況のなかで、会社の監督職の組織である北隆会の会報で、北辰の管理・監督職は、「企業破壊分子である全金組合員に対して、『目には目を』『歯には歯を』といった態度でそれにふさわしい差別（評価）を与え、一日も早く職場から追放しなければならぬ、そのために、全金の組合員に対しては『対岸の火事』といった態度をとることは許されない」といった趣旨の会報を発行した。

こうして、年末一時金闘争に入ってしまった。全金は、「分裂」後も一貫して、組合の主張、

要求を伝えるピラを会社構内で配布してたたかっていた。

一月上旬、会社構内で出勤時にピラ配布中の全金組合員から、会社の人事課長がそのピラを奪って破り、地面にたたきつけ、それを拾え、業務命令であるといった不法行為が始まり、それ以来、連日のピラ配布に対して、会社の管理職、監督職および同盟の一部組合員数十人が一体となって、ピラ配布している全金組合員を押す、こずく、蹴る、ピラを奪うといった集団による暴力事件が連日発生した。

一月二六日の出勤時に、このような集団暴力事件の実態を調査するために、会社の正門付近で地域の労働組合の代表および全金北辰の代理人である弁護士が路上でこれらの暴力を八ミリカメラで撮影しようとしたところ、会社の管理職、監督職その他一部同盟組合員数十名が、集団で会社構内に拉致し、押す、蹴る、こずき廻すなどの暴行を加えたりえ、所持していた八ミリカメラを強奪し、全治一週間もの傷害を負わせるに至った。

その後、連日、職場では全金組合員に対して、出勤時には管理職、監督職、同盟の一部組合員が一体となって、入門を妨害、拒否する。会社構内に入れた後では暴行を加える。職場では多数で全金組合員を取り囲んで、こづく、押す、蹴るなどの暴行を加えて吊し上げる。昼休み、午後三時の休憩時間においても吊し上げによって、食事もできない、休憩もとれないといった暴力が続けられ、退社時刻にも吊し上げが行なわれ、自由に帰れず、監禁されたりした。

帰りの電車のなかで暴行を受ける者もいた。これら各種の暴行によって、傷害を受ける者もでた。

会社は全金組合に対する集団暴行に、多数の労働者を参加させるために、会社の管理職が朝会（朝礼）に労働者を集めて「企業破壊分子」である全金組合員を追放するための行動に一人ひとりが参加すべきことを呼びかけたり、その他、文書で個々の労働者に行動に加わるよう呼びかけている。

会社の総務部長は、東京地方労働委員会において、証人として「全金組合員は一日も早く職場からいなくなつて欲しい」と、公然と聞き直っている。

これらの暴力による全金組合の職場からの追放行動は、一時おさまつたかにみえたが、今年に入って、再び激しくなり、遂に、全金組合員の一人が会社に対する抗議の意思を表した遺書を残して、行方不明になるといった不幸な事態まで生まれている。

これについて、会社は暴力支配を反省するどころか、「原因は家庭の不和か、全金の活動についていけなかつたのだろう」とすりかえ、家族と約束した、本人の退職を「保留にする」とさえ一方的に破り、退職金を供託する暴挙に出て、家族を憤激させている。

四、暴力支配のねらいと背景

日本で有数のオートメーションメーカーであり、従業員総数約二、三〇〇名を擁する会社でこのような暴力による組合攻撃が行なわれているが、そのねらいはなにか。また、なぜ暴力による攻撃となっているのか。

第一に、すでに述べたとおり、全金組合員に対する職場での各種親善行事はもちろん、お茶を飲むときさえ「のけ者」にするという人権侵害や昇給、昇格の差別攻撃にもかかわらず、全金支部を潰すことはできず、むしろ多くの労働者が会社の攻撃の意図を見抜き、会社ベッタリの同盟へ批判を強め、少数ながらもあらゆる会社の差別、圧迫にまげずに労働者の権利と生活、真の利益のためにたたかう全金支部への期待、支持が強まってきた。

このことは昨年六名の労働者が同盟から全金に復帰してきたことが証明している。

会社は、これに危機を感じ、差別や人権侵害だけではだめだと暴力で支部を破壊する方針に出たのである。

第二に、これまでの日本経済の高度成長がいきづまり、民間の設備投資の動向に左右されるオートメーション計器もこれまでの成長はむずかしくなってきた。このもとで高利潤追及をさらに強め、しかも「分裂」後地方に数多くつくった子会社（全額出資）の設備償却を短期間に

やるため、職場の専制支配、ファッショ支配を必要としてきた。

職場では、全金組合員に対する暴力について、多くの良心的な労働者が、その暴力が行われている状況をみていても、それを止めることもできず、また、第三者に公に話すこともできない。なかには家族にもそれらの暴力が職場でふるわれていることも話せない者もいる。暴力を止めさせたり、それらの事実を公にすると、自らが危なくなり、会社より呼び出しを受けるといった、まさに恐怖支配が行われている。

また、職能給が導入されているため、自分の賃金が、他人の賃金と比較してどうなのかまったくわからず、他の企業における賃金と比較する資料すらも同盟から提供されないのがわからない。多くの労働者が、これらの職場の労働条件に関連することを職場の歓送迎会、忘年会などの席上で話題にすることもできない。

これを話題にすると、会社と癒着した一部の同盟幹部などのスパイの通報によって、後で会社より呼び出しを受けて、注意されるといったファッショ支配を強めているので、しらけてしまふ雰囲気や職場のなかで生まれている。会社は、全金組合員を暴力で職場から追放し、全金の組織を壊滅することによって、職場において労働者が自由に話し、それぞれの要求を組織することを不可能にしは著しく困難な状態に置くことをねらった反民主主義的なファッショ支配の確立をめざしている。

第三に、暴力による組合攻撃は、一見するにたいへん荒っぽい攻撃であるという印象を受けるが、北辰における攻撃は緻密で系統的に進められてきた。会社は、職場の労働者に対して、徹底した企業主義と反共思想を基礎にすえた教育を長い年月をかけて系統的に進め、多くの労働者を反共労使協調思想で塗りかため、全金は「企業破壊分子」であるといった思想を徹底的にたたきこんでいった。

この教育で訓練を受けた労働者を全金の組合員と意識的に対決させていくといったやり方を採った。

会社は、企業規模を急速に拡張しているなかで、「全金が、この成長している企業を破壊する分子である」といった意識は職場に浸透していき、とくに下級職制の一部や「分裂」以後会社に入った若い労働者のなかに、全金の組合員を職場から追放しなければならぬといった意識がつけられてきた。

第四に、会社と同盟が一体となって進めている職場の暴力支配、ファッシュョ支配は、大阪の片岡運輸における労働組合幹部殺害事件、サンスイにおける組合幹部に対する麻薬事件のどちあけ、ヒロセ電機における暴力事件などと本質的に同一であり、労働組合の破壊、労働者に対するファッシュョ的支配をねらったものである。

第五に、このような暴力による組合破壊、ファッシュョ支配に対する全金支部の活動に弱点は

なかつたのか。

「分裂」後、たたかって勝利した「自宅待機反対闘争」は、病氣回復後や産休あけの全金組合員を「自宅待機」という名目で出勤させず、実質的に首切りにつながる攻撃であったが、これを少数の組合といえ、全員（六名）復職させ、勝利し、いくつかの教訓を残した。

それは、①われわれの要求は道理にかなったものであり、北辰に働くすべての人びとに共通する要求であった。②ピラなど徹底して同盟労働者のなかに宣伝し、問題を拡げ、会社の不当性をバクロした。③十分な準備のもと、必要なとき断固ストライキを数次おこない、同盟労働者にアップールできた。④大田労基署、品川労政事務所など第三者機関を有効に活用した。

このような教訓をもった「自宅待機」闘争をたたかったが、支部活動は、少数組合の基本的活動としての一致する要求を見出し、いくなかで、支持者を拡大し、敵を孤立させ、味方をふやしていくという基本的運動がどれだけ前進したのか。このことが会社の暴力支配、ファッシュ・支配との関連でどうだったのか。

会社は、「自宅待機」闘争から彼らの教訓をつかみ、全金支部や組合員が、広範な労働者と結びつき、ピラなどで真実を知らせることをどんな手段をもっても妨害することに切りかえてきた。一方では、支部の組合活動の既得権をつぎつぎ奪っていった。構内のカンパ活動、構内での集会、デモ、ピラ配りなどである。

広範な労働者への宣伝方法として、支部がとったのは、構内におけるビラ配布活動が中心であった。

これに対し、会社は管理職、監督職、同盟幹部などによって徹底した監視体制をとり、ビラを受けるとる労働者がいれば、後で上司から呼び出されるといったファッシュ支配をとった。このため職場の労働者はビラを受けとれない状況であった。やがて、このビラ配布活動に対して、会社は、一部の管理職、監督職、同盟幹部、暴力分子を動員して、ビラを配っている労働者を集団で取り囲み、ビラを奪いとる。押す、こずく、蹴るといった暴力が始まった。

その後、会社は上司の指示で、多くの労働者を全金組合員のビラ配布活動に対する暴力行動に意識的に動員するようになった。

このような状況のもとではビラまきの権利、自由を断固確保していくといった権利闘争はつぎのような結果をもたらしたのではないだろうか。

①会社から暴力行動に動員させられ全金とのたたかいの前線に立たされた多くの労働者と全金組合員が対立することによって、職場から全金が孤立していったこと、②この暴力行為に会社は、上司の指示によって動員してビラ配布活動を圧殺するだけでなく、この行動に参加するか否かということによって、会社の暴力支配に協力するか否かを個々の労働者に踏み絵を迫らせていったこと、③職場の労働者にファッシュ支配の監視のもとで、ビラ配布することが個々

の労働者に、ピラを受けるか、受けとらないかによって、全金側から、逆に踏み絵として迫ったことになっていたこと。

したがって、支部活動の重要な柱の一つである宣伝活動についていえば、会社のファッシュ支配にみあった宣伝方法、活動が根本的に改善されなかったところに弱点があった。

方針としては、従来の構内のピラまきを続行しながら、職場で労働者が、安心して受けとり易い方法で渡すとか、家庭に届けるなどの改善策を出していたが、攻撃に機敏に対処する改善が十分できないまま、会社の暴力支配におされ、広範な労働者への宣伝は分断され、結びつきが弱められた。

逆に、会社、同盟は支部の宣伝活動をファッシュ支配で妨害し、一方的なデマ宣伝が連日、洪水のように職場に流され、くりかえされ、それがすべて、「全金は企業破壊分子だ。断固対決し、職場から追放せよ」というもので、職場での暴力支配、専制支配の条件をいっそう容易にしている。

全金北辰電機支部五十数名は、いかなる迫害があろうとも、暴力で組合を破壊し、職場にファッシュ支配をもちこみ、民主主義を否定することは断じて許さない決意であり、全金東京地本、南部地協、大田区労協など約五十団体で結成している「北辰電機の暴力的組合弾圧に反対し、民主主義を守る共闘会議」に結集しているすべての労働組合、政党、民主団体と固くスク

ラムを組んで、たたかい抜いていくことを表明し、全国の金属労働者のみなさんの指導と支持を訴えるものである。

民社党の暴力・人権侵害の体質

全金北辰電機、国会での民社塚本発言に抗議する

恥知らずな民社党塚本発言

九月三〇日、衆議院予算委員会での総括質問のなかで、共産党の正森成二議員は、労働者に民社党一党支持しめつけをおこなっている同盟傘下の労組幹部が支配する職場で、白昼公然と暴力行為、人権じゅうりんがくりかえされてきた北辰電機などにおける憲法、労働基準法無視、人権侵害の実態をとりあげ、政府にその是正をせまりました。

ところが、これにたいして民社党書記長塚本三郎議員は、翌一〇月一日の同委員会では共産党の戦前の治安維持法等被告事件を「リンチ殺人事件」として反共攻撃を展開するとともに、北辰電機の問題をとりあげ、①北辰電機で全金組合員にたいして暴力がふるわれた事実はない、

②船尾弁護士などへの集団暴力事件（昭和四九年一月二六日発生）については、「いざこざ」があったが、むしろ全金側の会社構内への「乱入」によってひき起こされたものである。

③職場で話し合ったり、なぜそんなことをするんだというだけで、全金側は、暴力だ、吊し上げだと告訴しているが、とんでもない——などと弁明しています。

そのうえ、塚本書記長は全金組合員にたいして「企業破壊者」などという悪ばまで投げつけ、まさに被害者を加害者に仕立てあげる悪辣で醜い手口を浮き彫りにしました。

しかし、事実はどうであったか。

第一に、全金支部組合員、竹内久君が、職場で集団暴行、吊し上げがおこなわれていた昨年一月、「住友、会社に対して、暴力集団に対して、吊し上げに来た人に対し、僕の抗議の意味も含めて、この道を選びました」という「遺書」を残したまま消息不明となり、今日に至るも全く生死不明です。

この事実を、塚本議員はでたらめというのか。

第二に、船尾弁護士などへの集団暴行事件は、全金支部の構内でのビラ配布を實力で妨害している会社職制や同盟幹部の不法行為を調査するために、全金南部地協、大田区労協傘下の各労組や支部の顧問弁護士らが現地調査にきたのをとらえ、この弁護士を公道から会社構内に引きずりこみ、「弁護士がなんだ」などとののしりながら右手部および左下腿打撲の傷害を加

え、ハミリカメラ、腕章を強奪したものです。塚本発言はこの暴行事件の被害者を加害者に仕立て上げようとするものであり、断じて許せるものではありません。塚本民社党書記長は国会での弁明のなかでは、この暴力行為を「いざこざ」と表現していますが、集団暴行には「若干会社の役員もはいつていたようでありませぬ」とのべ、この暴力事件が会社職制と同盟幹部らが一体となってひきおこされたものであったことを自ら認めざるをえませんでした。

第三に、国会の塚本発言に関連して一〇月五日、参議院予算委員会での共産党内藤功議員の質問にたいし、政府側答弁として、①警察庁三井警備局長は七件の告訴を受理して送検していると発言し、②法務省安原刑事局長は「暴力をふるわれたということは客観的に認められる」と答弁しました。しかし、「だれが犯人であるかが特定しがたいということで五七名の被告訴人のうち四七名分は嫌疑不十分ということで不起訴にした」と報告しています。

政府当局も暴力があったことを証明しています。

第四に、実に二年近くも連日の集団暴力をつづけた同盟幹部、暴力分子が、職場内部からの批判、世論による社会的糾弾の前に、会社の意向を受けて、全金同盟北辰電機労組（以下、同盟北辰）は中央委員会、代議員大会を緊急に開き、「七月一日を期し、職場における日共分派にたいしてはいっさいこれを相手にせず」「内面強化の方途を工夫しつつ、より高次のステップを踏み出す」ことを決定し、ついに暴力による全金攻撃を「中止」したいきさつがありま

す。

この暴力中止の「機関決定」こそ、彼らの組織的な指示にもとづく暴力行為が存在したことを示すものです。

民社党こそ、自由と民主主義の敵対者

民社党が「運命共同体」と呼んでいる同盟系の反共的労働組合——同盟北辰幹部と民社党との「共同体」ぶりをみることにしよう。

同盟北辰には、民社党窓口担当というポストがあり、その任務には書記長があたっています。

執行委員はほとんどが民社党員といわれ、労組の運動方針には「民社党の勢力拡大」の柱が設けられてあり、入党運動で組合員の五パーセントを党員にする目標をかかげています。

また、同盟北辰が発行するピラには毎回、民社党のマークと「民社党が伸びれば日本はよくなる」と刷りこんであり、あたかも「民社党のニュース」かと思うほどです。

さらに、地元の東京第二区から衆議院議員選挙に立候補を予定している大内啓伍氏（民社党教宣局長）のためには、選挙活動に組合員を大動員し、弁当代として組合費が大量に使われています。そして、組合の新人組合員研修には、この民社党大内氏が講師として出席し、反共教

育を徹底してやるありさまです。

また、民社党春日委員長は、共産党の正森議員の国会追及以後の一〇月十五日、同盟北辰定期大会に自ら出席し、北辰幹部を激励しています。このことは、いかに民社党が反共の尖兵として同盟北辰を重視しているかを物語っています。

文字通り、民社党と「運命共同体」の同盟北辰幹部は、職場でなにをやったのか。

すでに、共産党の『赤旗』、社会党の『社会新報』や当支部発行のパンフレット『憲法は門の外』などで詳しく報道、紹介されていますが、彼らは実に二年間近くも連日にわたって憲法無視、基本的人権侵害の集団吊し上げ、暴力行為の限りをつくしてきたのです。民社党に自由と民主主義を語る資格はありません。民社党のいう「自由と民主主義の擁護者」の看板がいかに欺瞞に満ちたものか、それは「竹内久君事件」をはじめ北辰の暴力支配の実態が端的に示しています。

民社党の「自由と民主主義の擁護者」の実態は、暴力支配にとどまりません。昨年五月、会社はファッショ的労務管理の総仕上げともいふべき就業規則の改悪を強行するにあたって、民社党員が牛耳っている同盟北辰は会社に追従し、全面的に賛同する暴挙に出ました。その就業規則の内容は、

①会社の名誉を傷つけ、信用を損うような言動をしてはならない、として全金支部の駅頭ビ

ラや家庭配布のビラの制限をねらう。

② 会社構内における集会、ビラ配布など全ての組合活動を許可制とする。

③ 休憩時間もふくめ、いっさいの政治活動の禁止。

④ 会社指定医師の診断を義務づけ、配転、労災、復職を会社ベースで処理。

⑤ 有給休暇の許可制。

というもので、憲法や労働基準法を無視した不法、不当なものです。

「会社にはいるときは、憲法や民主主義は門の外に置いてはいれ。そんなにはしければ門を出てから拾って帰れ」

——これが会社、同盟北辰幹部、民社党の共通した言葉となっているのです。

さらに、特徴的なことは、同盟北辰幹部が専制支配をすすめるにあたって、「労使の信頼関係の発展」「共産主義思想との闘い」「民社党の強化と労組の社会的責任の追及」を推進する担い手を育成することを、文字どおり「三六五日運動」として展開し、反共思想によって労働者をかりたてることを中心課題にすえていることです。

「塚本発言」にただちに反撃、抗議行動広がる

塚本発言は、竹内久君を「自殺行」にまでおいやった全金組合員にたいする集団暴力行為の

事実を否定し、逆に国政の最高機関である国会の場を利用して、北辰電機や同盟北辰幹部、暴
力分子、民社党員の行為を正当化しようとする「政治的もくろみ」であり、国会を冒瀆する許
し難いものです。

全金北辰電機支部はただちに、①民社党にたいし、即刻「発言」のとり消しと謝罪を要求す
る電報を打つとともに、衆院議員会館に塚本議員を訪ね、「発言」の事実誤認の指摘と訂正を
嚴重に申し入れました。②一〇月七日朝には、北辰電機の労働者が通勤で下車する東急・目蒲
線下丸子駅前で、「北辰電機、同盟北辰、民社党のデマくずれる」「北辰で暴力はあった——
安原刑事局長、国会で認める」のビラを配布し、暴力肯定の民社党をきびしく批判しました。
③ひきつづいて同ビラを北辰電機がある下丸子を中心に約一万二〇〇〇枚を全戸に配布し、地
域住民に真実を訴えました。④また同時に三重県で開かれていた全国金属第三八回全国大会
に、大会として抗議するよう支部として要請しました。

一方、同盟北辰の組合員からも、「塚本発言」の翌々日には、「この目でみた、暴力はあっ
た」として暴力を告発する投書が三通も寄せられました。

一〇月一三日に開かれた全国金属東京地方本部執行委員会（高山勘治委員長、約五万名）は
支部の要請をうけて、民社党への抗議を決め、あわせて傘下の各支部が抗議にたちあがるよう
地本として要請することにしました。

東京の大田区労働組合協議会（小菅議長、約二万五〇〇〇名）、目黒地区労働組合協議会（橋本議長、約一万一〇〇〇名）でも定期大会などで抗議を決め、加盟組合にも要請しています。

また職場段階でも、全金日本理化支部、同日産プリンス支部、同日黒地域支部、全国一般中須製作所労組などがぞくぞくと抗議を決めています。

決議採択にふれて、大田区労協香田一栄事務局長は「暴力行為の実態調査をした区労協にも同盟幹部は門外に出てきて暴力を働いた。塚本質問をテレビでみていたが、まったく事実に戻すことを恥知らずにもいつてのけた。新しい装いをもったファッショをみた感じでした。暴力の事実を否定したこの発言は区労協としても重大視している。大会決議をもって近く民社党、北辰電機経営者に抗議する」と語っています。

処分乱発による新たな職場支配

暴力支配を中止せざるをえなくなった会社は、最近、全金組合員にたいして「就業規則違反」「ミス・ロス絶滅運動に反した」などの口実で、次つぎと不当処分を乱発してきています。

①三時休みの暴力現場を社外より撮影しようとしたのをとらえ、就業規則違反だとして、西

村組合員に出勤停止一日。福井組合員にけん責処分。

②暴力、吊し上げにたいして上司に抗議したのをとらえ、日向組合員に出勤停止三日。黒川組合員にけん責処分。

③ハンダ付けのしかたに関して上司の指示にしたがわなかったとして、川又組合員にけん責処分。

④会社の指定する医者に行かず欠勤をつづけたからと、中村組合員に出勤停止七日間。

⑤休み時間に、会社警備員に暴力をふるったというデッチあげをして、日向組合員に出勤停止七日間。

⑥嘘をつき、会社、個人の名誉を傷つけ、反抗的態度をとったとして、西村組合員に出勤停止二日。大河内、山崎両組合員にけん責処分。

これらのでたらめな処分は、直接の暴力による支配にかえて、「運命共同体」で結ばれた民社党と同盟幹部によるより巧妙な不当な専制支配をねらったものです。それは、全金組合員には、暴行、悪ば、中傷の限りをつくしても、同盟北辰幹部、職制、暴力分子、民社党員が一人も処分されていない事実一つをとってもわかるというものです。

同時に、「処分、処分」で全金支部に打撃を与えらるとともに、これら「就業規則違反」「ミス・ロス絶滅運動」（生産性向上運動の一環）による不当処分は、賃金や仕事などに不満をも

つ職場の全ての労働者を、全金組合員と同様に抑えつけ、専制的支配を貫徹して「労働強化」「低賃金」を押しつけようとするものであることは明らかです。

全金支部は、会社のファッショ的支配のねらいを、職場の多くの労働者に訴えるとともに、一〇月一六日、東京都労働委員会にたいし、不当労働行為による救済申し立てを、全国金属中央本部、東京地方本部、支部の三者によって提出しました。この提訴を通じ、徹底してその不当性、反労働者性を暴露、追及し、撤回をたたかい抜くこととしています。

抑えきれない切実な要求

暴力、吊し上げが中止されていらい、全金組合員と同盟傘下の労働者とを隔離していた壁が大きくとり除かれ、話し合いの機会が増えるにしたがって、職場に要求が山積しているのを今さらのように感じました。

とくに賃金についての要求は切実です。今春闘で同盟北辰の幹部は、賃上げだけでなく夏、冬の一時金まで年間協定で妥結してしまいました。妥結金額で計算すると、平均の労働者で昭和五〇年度と五一年度の年間総収入がほとんど同額となり、物価上昇分をふくめると実質賃金は大幅低下となり、妥結提案に約四〇〇名（二五割）の同盟組合員が反対する（過去の最高反対数は二〇〇人）という大きな批判が出ました。

来年も年間協定を行なうという同盟執行部の方針にたいし、一〇月に入って開かれた代議員大会では、「年間協定をやめよ」とする修正動議が出されました。採択の結果、賛成と保留で三七職場、反対四二職場と否決されたものの、執行部、会社に大きな衝撃を与えました。

全金支部は、こうした広範な職場労働者の要求を反映し、秋季・年末闘争で次の要求項目を一〇月一二日に会社に提出しました。

- 一、今年末には、一時金の他に、生活補填、臨時手当として一律五万円を支払うこと。
- 一、永年勤続者への祝金を復活すること。
- 一、増働をまとめて代休扱いとしないこと。フレックスタイムおよび増働の代休扱い未消化分は増働料を支払うこと。

一、昼休みの一棟と一一棟周辺の立入、スポーツ禁止を撤廃し、従来通り自由にすること。

一、休憩時に利用するため、構内各所にベンチ、灰皿を設置すること。

一、六棟化学処理のロッカー室を広くすること。

一、安全規律委員会は喫煙、お茶等々の職場規律を一方的に決めないこと。

一、A棟西側、B棟東側の二カ所に公衆電話ボックスを増設すること。

これらの要求に、同盟組合員から、ただちに「俺たちの分も要求してくれただのか」「全金はよく調べて、とりあげた」と励まし声が寄せられています。とくに、生活補填一律五万円要

求は、「会社が出そうと思えば出せる金額だ」と歓迎しています。

一方、会社は急遽、職制を通じて朝会で「全金は交渉能力がない」「会社も苦しい、お互いにかまんしよう」などと宣伝しています。これは、年間協定に反対する職場の動きがあるなかで、全金支部の五万円要求が、労働者の気持に浸透することなによりも恐れていることを示したものです。

民社党は「抑圧と搾取の自由」の擁護者

冒頭述べた一〇月一日の衆院予算委員会での塚本発言は、北辰電機の暴力支配を擁護する発言とともに、おこがましくも、組合運動について、次のように発言しているのは見のがすことはできません。

「その企業の実態に応じて、理想的ないわゆる要求どおりの賃上げ、あるいは一時金をとることができなくなっても、やはり将来に期待をのこして、そうして企業と共に歩くという組合運動が、正しいやり方だと指導いたしております」

「景気の悪い時にはお互いに我慢して、企業の発展を労働組合もねがうというのは、正しい労働組合運動です」

ところが、北辰電機で五年前の昭和四七年三月、全金支部が「分裂」させられ、そのごは暴

力になる専制支配が職場で横行し、労働者は要求を抑えられてきた結果、どうなったかは、次の数字によっても明らかです。

◎売上げ（比較上、半期分とした）

昭和四七年九月期 八二億円

四九年九月期 一四三億円

五一年三月期 一三六億円

（人員は、二二〇〇人～二二〇〇人で大きな変動はない。）

昭和四七年以降、子会社として、新潟北辰、岩手北辰、三重北辰などが全額出資（推定一社三〇〇〇万円くらい）で新たに設立され、新工場、子会社用地に、鹿島、千葉、富山などで四万六〇〇〇平方メートルを取得したといわれている。

一方、賃上げは、主要産業平均賃上げ（東証、大証の二八〇社）比較では、四七年を一〇〇とした場合、五一年は九二と大幅に落ち込んでいます。全金支部が統一していた四三年は一〇二、四四年は一〇と平均より高水準にありました。

労働災害は、会社発表だけでも、昭和四七年五二件、四八年六二件、四九年七二件と増加の一途をたどっています。

この数字だけをみてもわかるとおり、民社党塚本議員の発言は、国会の場を利用して労働者

の切実で正当な賃上げ要求などを抑えようとするものであり、まさに、民社党の「自由と民主主義の擁護者」どころか、「抑圧と搾取の自由」の擁護者にほかならないことを示しているものであります。

民社党の塚本書記長は、発言のなかであからさまな労資一体の労組論を展開して三木首相の「賛意」と「敬意」をうけましたが、どのようにつくろって見たところで、民社党の反労働者的な暴力容認、人権じゅうりんの体質をかくすことはできません。

当面する総選挙において、こうした民社党の反労働者的体質を暴露し、その策動を打ち破ることは、金権、戦犯、売国の自民党政治にかわって、国政の革新を求める労働者階級にとって、歴史的任務といえるものです。

シナリオ

岡本武彦の作品を語る

半澤直樹とシナリオ作家への交渉

半澤直樹

生活に根ざしたシナリオへの姿勢

岡安さんの作品を読んで

片桐直樹

岡安さんがシナリオをお書きになっていたことは、仲間の人々でさえ知らなかったそうですが、「何故シナリオを学ぶか」という文章ではっきりと、

「人々はよりよき生活と幸福を求め、努力している。それは政治的・経済的解決だけでは果されるものではない。正しい文化が育てられ、持たなければ根本的解決にはならない。そのため私は学ぶ・生活している人々の真実の姿から、それを求めたい」

と述べておられます。これは映画を創り、脚本を書くことを仕事としている私たち映画作家が、現実をどう捉え、観る人々に映像で伝えられるか、という点での一番の基本になることがらです。

これらのシナリオを書かれた時代（一九五〇年代後半）は、映画の全盛時代で、新しい映像（TV）時代の幕明けともいえる時代でした。労働運動もレッドパージ後の混乱から立ち直り

三池闘争や六十年安保闘争に向けて前進を始めた時代でした。

そうした中で、真の文化を創り出すのは、時代の担い手である労働者である、ということをも岡安さんは感じておられたに違いありません。

「生活している人々の真実の姿から」

という言葉通り、岡安さんの書かれたシナリオは、どの場面もあの当時の労働者の生活がヴィビッドに、しかも正確に描かれています。

「走れタクシー」は駐留軍の撤退で職を失った五人の労働者が、退職金を共同出資してタクシー会社の共同経営に乗り出し、過重労働と資本の攻勢の前に次々と仲間が死に、遂には最後の一人までが衝突事故で亡くなり、その会社は乗っとられてしまう。という誠に惨酷な物語ですが、登場する人物はいずれも悩みや弱さを抱きながらも、ささやかな幸せのために努力しているが、そんなことにはお構いなく、潰されて行く状況が職場を中心に描かれています。

このシナリオを読んだ時、私は鮮やかに「東京争議団物語」の映画づくりのことを思い出しました。今から十七年前のことです。これは後に「ドレイ工場」となって日本で初めて闘う労働者を描いた映画として成功しました。

「安さん頑張れ」

岡安さんは生前、恐らくこの物語の主人公のように、一寸ばかりオシャレで、人の面倒見の

よい、頼まれるとイヤとはいえない、人であったのではないだろうか、と思います。このシナリオのごく一部しか掲載されないことは残念ですが、このごく一部を読んでいただくだけでも労働者の持つ連帯の意識と、思いやりの素晴らしさが、心を打ちます。「あの頃はのんびりしてたな……」と感じられるかも知れませんが、仕事のテンポや社会生活のスピードは変わっても、人の心の本質的なものは変わっていない、いや変えてはいけません、と思います。

岡安さんは恐らく、主人公の性格通り、これらのシナリオを書いた後、組合活動の方が忙しくなり、再びお書きになることはなかったようですが、第二、第三の岡安さんが出て来られることを祈ってやみません。

（片桐さんは映画監督。青銅プロ所属。代表作「トンニャット・ベトナム」、「がんばれ！日本ファイル」、「自衛隊」などの他に記録映画多数）

シナリオ

安さん頑張れ！（一部）

1 工場地帯

所々にある煙突から煙が出ている。

2 東海電機——組立工場

高さ五米もある変圧器の上で、鼻眼鏡の安太郎が蝶ネクタイに葉巻を着て、ドライバーを持って働いている。

左胸に「松浦」と書かれた丸い名札がある。みんなの胸にもそれぞれ。

ベルが鳴る。仲間の北川が、急いで下りてくる。安太郎も続いで。

天井から吊されたクレーンで、重い変圧器が、持ち上げられ、次の工程に流されて行く。

安太郎らの作業場には別の変圧器が、流れてくる。

拡声器から「唯今給料を渡しますから、各課長の所までお出で下さい」とアナンス。

列をなして、一人一人前田課長から、給料袋を受取っている。

3 課長室

安太郎もその中に混っている。

次第に安太郎に番が近づいてくる。

前田「松浦君」

安太郎「は、はい」

両手で受取る。

前田「(薄笑い)だいぶ重そうだね」

安太鉄「それほどでも、ないですよ」

課長室から出て来た安太郎。

大きく息をつき、袋をみて、ニッコリとする。

廊下を歩きながら、紙幣を数える。

夢中になり過ぎて、柱に体当り。

「痛え！」とたん、手から紙幣が、パラつき、銅貨が廊下をころがっていく。

それをいまいましげに、見つめる安太郎。

金を拾い集め、銅貨を追っていく。

銅貨はころがって、階下に落ちる。

それを追って、手摺から下を見る。

銅貨は、丁度その時、折れ階段を下り切った紳士のソフト帽の縁に落ちる。

紳士は、ソフトに手をやり、首を傾げるが、そのまま歩き出す。

急いで、階段を下りてくる安太郎。

紳士、そこにある乗用車に乗り込む。

スタート。

安太郎「待ってくれー」と手を上げるが無駄。

スピードを出す乗用車。

ポカンと口を開けたままの安太郎。

「東海電機 K・K」とある。

正門から少し離れた塀の所に、一人の中年女が、煙草を喫しながら、立っている。

腕時計を気にしながら、正門の方を、時々みている。

門を挟んだ両側の塀の所にも、同じような女が、二、三人立っている。

サイレンが響く。

やがて、職工、女事務員らが、出てくる。

次第に、その数が増える。

職工の一人が、女を見附けて、近寄っていく。

職工「よお！ マダムちゃねいか、

「どこの彼氏を待っているんだい」

マダム「アーラ、ターさん、しばらくね、それが、彼氏じゃないのよ、お金取れなくて困っているのよ」

職工「なんでえ、借金取りか」

袂から、手帳を取り出し、捲っていたが、

マダム「お蔭さま、ターさんはないのね」

職工「借金か？ 決まったらな、成績優秀さ、こわい、こわい、あ

ばよ」

マダム「また近いうちにね」

門の近くにある狭い場所に、続いて職工、事務員がくる。

安太郎が人を押しわけるようにして来て打刻する。

「どうも」。前にいる人が、そのカードを持っていく。

安太郎が左の手を見ると、自分のカードがある。

カードを打刻しようとする、もう後の人のが、入っている。

「あ」と、相手を見上げるが、大男なので、黙って打刻してやる。

次々に出てくる、一人一人をよく気をつけているマダム。

9 門内

安太郎が、友人と門に向かう。

10 門外

安太郎らが、出てくる。

その友人と、マダムの視線が合う。

「あら」とマダム。

友人「いけねえ！」慌てて、安太郎の腕を掴み、門のかけに引張り込む。

11 門内

友人「(手を合せ)頼む、一生のお願いだ、この通り」

安太郎「ま、ま、待てよ、何だよ」

友人「今のマダム追払ってくれ、(飲む真似をして)借金があるんだ、頼む」

安太郎「借金? 苦手だよ」

友人「頼む、なんとか頼む」

友人そのまま、建物の中に走り去る。物につまづき、よろめく。

12 門外

安太郎が、知らぬ振して、マダムのそばを通り抜けようとするが、

マダム「アーさん、何処でせうか」

安太郎「アーさん? アーさんて?」

マダム「浅野さんです」

友人（浅野）が、建物から忍び出て、二人の方を見やり、塀に近寄るのが見える。

安太郎「あゝ、アーさんね、（とぼけて）今日休みですよ」

マダム「だって、先っきあなたと一緒にいたでせう」

友人が塀に手を掛け、乗り越そうと、飛び上るが、届かない。

安太郎「（すっかりしよげて）でも……いないんです」

マダム「（媚るように）ねえ、お願い、呼んできて下さいな、（困

った風に）三月も戦けないで、仕入れも出来ないんです」

安太郎「でも、やっぱりいないんです」

マダム「（キーンとなって）冗談もいい加減になすって、あんたは先

つきから、休みだとか、いないとか云っていますが、妾は、こ

の目で、ちゃんと見たんですからね」

安太郎「……」

マダム「そうですか、そちらがそうなら、こちらも……」

と、その場に踞みこむ。

足台を持って、友人が建物からくる。

足台を置き、二人の方をみる。

14 門外

踞みこんでいるマダム。

退社する人々が、声を掛けたりして、通る。

安太郎「マダム、頼む、立つてくれ」

マダム「立ちません！」

安太郎「こんな所で、（頭をかき）……体裁悪いよ」

マダム「いえ、立ちません、アーさんを出す迄は……」

安太郎「（友人の方をチラと見る）よわっちゃうな」

15 塀の所

友人が、塀に手を掛け、上ろうとしている。

そこえ、守衛が走って来て、足を引張る。

守衛「下ろ！」

友人「マ、マダムが……」

16 門外

安太郎「幾らあるんだい？」

マダム「……………」

安太郎「浅野の借金、幾らだい」

マダム「……………」

安太郎「少し位なら立替るよ」

スーと立ち上って、

マダム「（急ににこにこ）立替えて下さるの、わるいわね、恩にき

るわ」

袂から手帳を取り出し、探していたが、「八千三百円」

安太郎「え?! 飲みやがったな、……(給料袋をあけて首をかきげ
ていたが) マダム一応二千円だけ……」

マダム「たった二千円」

安太郎「まあ、今日の所は、これで」

と給料袋から札を出す。

友人が、トラックに乗って通り抜ける。

安太郎が、とぼとぼ来る。

洋品店から、北川と道子が朗かに笑顔で出てくる。

「よう」「あら」とバツタリ出会う。

北川「これ似合いますか(と締めているネクタイを見せる) 買って
くれたんです」

安太郎「(ひがんだように大げさに) あゝ大似合だよ、ねえお嬢さ
ん、(道子がちらと北川を見る) ご馳走さま、こちらは附くてな
いよ」と後を振かえる。先っきのマダムがそこに。

木造建の古い建物。工場と対照的。

奥さん連が、赤ん坊を抱いたり、持ち出してきた椅子に腰掛

け、話したり、窓から首を出したりして、夫の帰りをそれぞれ待っている。

チンドンヤが、流行歌を奏ながら通りかかると、子供達も大声で、ミネソタの卵売り、をうたいながら、あとを追って出ていく。

八百屋が、大きなリヤカーに野菜、果物を山と積んでくる。

「毎度あり、荷はこつてりありやす」と八百屋の兄チャン。

リングを拭きながら調子はずれの声で、リング可愛いや、どうたい出す。

奥さん連が、リヤカーを取り囲み、買物を探す。

安太郎の妻の高子も、野菜をひっくり返している。

大きな目をしたター坊がきて、「まだ？ お父ちゃん」

高子「何しているだろうね、給料日だっというのに」

「帰ったよ」と、そこへ顔を出す安太郎。

六畳の部屋に、ガラクタだが手入れの行届いた家具類が、場所狭しと両壁に並んでいる。

テーブルを囲んでいる安太郎、高子、正二、ター坊の親子四人。

子供らは飯を食べ、安太郎はお銚子をつけている。大分まわつ

たらしくいい気持である。

安太郎「なあ、カアさん、給料取りはいいもんだな、二五日がくれば、ちゃんと金が、ころがつてくるだからな……（テーブルの隅に乗られた給料袋をみる）正二も給料取りになるんだな、チンドンヤのあとばかり追いまわさないで……」

正二、親父の顔をみていたが、ポケットから一枚の紙を取り出す。

安太郎が受取り、拡げる。酒、焼酎の大安売り^ウの広告。

安太郎「（苦笑して）最低だな、母親の教育が悪いよ」

高子「でも、お酒の広告じゃない……好きなくせに……ねえ正二……」

正二「うん」

戸をノックする音。

「松浦さん、洗濯機があきましたよ」

高子「はーい。どうも。（安太郎に）あんたすまないけど、洗ってきて……」

安太郎「（不気嫌）……」

高子「わたし、片附物もしなくちゃ」と押入れから洗濯物を出す。

次々に現われる洗濯物。

むっりしている安太郎。

正二「洗ってきてやんなよ、お父ちゃん」

高子「ねえ……」とウンイク。

にやとする安太郎。

正二もター坊に真似してウンイク。

正二「手伝うよ」と洗濯物を抱える。

正二「（高子に）小遣い高いよ」

と云って、安太郎に続いて、部屋を出ていく。

此處の如く、種々の被服の著り、顔の着せられたりして、さぞとやうな式様で、田舎の
村々を廻り廻りして居られた。

此の如く種々の被服の著り、顔の着せられたりして、さぞとやうな式様で、田舎の
村々を廻り廻りして居られた。

此の如く種々の被服の著り、顔の着せられたりして、さぞとやうな式様で、田舎の
村々を廻り廻りして居られた。

此の如く種々の被服の著り、顔の着せられたりして、さぞとやうな式様で、田舎の
村々を廻り廻りして居られた。

遺族の回想

此の如く種々の被服の著り、顔の着せられたりして、さぞとやうな式様で、田舎の
村々を廻り廻りして居られた。

岡 友 清 七

夫、廻麻の感の出

夫、政和の思い出

岡安靖子

あの二月の寒い朝から、もう一年たってしまいました。そして、政和とめぐり合った三十年目の五月が訪ずれてきました。

あの時、政和を送って、川崎の駅前で別れたきり、二度とあの声を聞くことも、会うこともできなくなるなんて……思ってもみませんでした。

あの前の晩、何時ものように、蒲田の東急ブラザの七階の本屋さんで待合せて、一緒に夕食をすませ……そう……あの晩、

「焼肉が喰べたいな」と、肉は身体に悪いからと、ずーと喰べなかったあの人が、ぽつんとそんなことを。

そして疲れたからと、お風呂にも入らず、二階への階段を、一段一段、ゆっくりと上っていった後姿が目に見えます。

あの日の朝、組合事務所へ寄り、鍵の合せ方がわからなくて、とうとう中へ入れず、困った

顔をして、名残り惜しそうに、二度、三度、振り返り、やっとあきらめて川崎へ向ったあの朝、蒲田までが、川崎までになり「箱根まで行ってくれないかなあ……」といただいたのは、多摩川大橋の上。

今も、あの橋を渡るとき、政和の声が聞こえてくるような気がして、耳をすまします。

箱根まで送って行けばよかった、そうしたら、ひょっとしたら、少しでも疲れをいやすことができたかも……同じことを何時も思いながら……。

十八の時、始めて政和と出会った朝のことを、今もはっきり憶えています。私が入社して、一カ月たった五月の中ば頃、自分の職場へ向うため通りかかった映写機レンズ工場の、何時もは閉ざされていたドアが、大きく開き、箒と、チリ取りを持って、掃除をしていたあの人、少してれて、「お早ようございます」と声をかけてきたあの人、その日が、政和の初出勤の日で入社したら、誰よりも早く出勤し、掃除をすること、人に会ったら、必ず挨拶をすること、真面目で、仕事のできる労働者になること、人に信頼される共産党員になるために、これだけは最低守らなければならないこととして、心に決めたこと等、あとで聞いたことでした。その時は、彼がレッドパーシ後、初めて、共産党員として入ってきた人とは、勿論知る由もありませんでした。

その頃の彼は、何か影のある、暗い孤独な、淋しそうな、そんな感じのする人でした。

丁度それは、小山台高校夜間部の学園民主化、学費値上げ反対闘争の中で、一人かけ、二人かけて、たった一人孤立し、政和一人だけとうとう無期停学処分を受けるといふ、一人だけの闘いを余儀なくされていた頃で、生活は苦しく、たとえわずかな学費の値上げではあっても政和にとっては、身を切られるような思いだったでしょう。その闘いにも破れ、燃えるような怒りの中で、十八歳になるのを待ちかね、民青から、日本共産党へ入党、一年のブランクのうち小山台高校から、大森高校へ、北辰電機へ入社後も、二年夜学へ通いながら高校を卒業したものの、北辰電機は、入社時の学歴しかみとめないため、終生、中学出の待遇しか受けられませんでした。

やせた身体に、夏は、ヨレヨレのワイシャツに、ダブダブのズボン、冬は、つんつるてんのキチキチのオーバーを着ていた彼、毎日毎日一つまみの福神漬だけがおかずのお弁当。

私は、彼の暗い顔が気になって、おかしなことをいっては、笑わせたものです。でも最初の頃は、苦笑い、やっと少し明るい笑顔を見せてくれたのは、知り合ってくださいぶたってからでした。

入社して一年は、お互に臨時工だった為、警戒心の強かった彼は、社内での活動には、ことのほか気を使い、そんなことには無頓着、呑気な私は、彼からよく連絡係を頼まれました。入社後すぐ、コーラス部や演劇部に入り、組合へもよく出入りしたので、彼からよく注意された

ものです。レッドパージで追われた人を訪ねる時など、眼鏡をかけたたり、帽子をま深にかぶって、一見変装したような様子をしたりして、出かけたものです。この間彼は目黒の居住で活動し、南部文化集団に所属していました。

やっと一年たち、正社員になり、組合へも加入、サークル活動にも参加するようになった彼は、文芸サークルの集まりにも、気難しい顔をして、だまって来ては、だまってすーっと居なくなり、岡安という名前が仲々憶えられなくて困ったものです。

初めて出席した組合大会、古い十一棟の二階のこわれかけた組合事務所、そこで、どんな討議があったか、彼がどんな話をしたか、その内容は忘れましたが、静かだった会場が政和の話でわき、「止めろ！」とやじるもの「お前共産党か」という人、「こんな話聞くの久しぶりだ、やらせろ」「うるさい」「だまれ、だまれ」等々、ともかく大変な騒ぎで、その中で、自分のいいたいことを一生懸命話し続ける、十九歳の、自分と同じ年の青年の紅潮した顔を、その熱気を、半ば呆れ、半ば心配しながら見守ったものでした。

そんな事があったある日、人事課長から、突然「岡安を知っているか」と聞かれ、思わず「知りません」と答え、「どんな人ですか」と、頓馬な質問をして、あとで皆んなに笑われたのを憶えています。

誰一人知る人も居ない会社の中での仲間作りは、一人から、二人、二人から、三人と広げて

行くのに、長い時間と、根気と、熱意が必要だったでしょう。まして、入社間もない十九歳の子供のような彼にとって、相手は年上の経験も、学歴もある先輩です。政和の話に耳を傾けてくれるようになるまでには、大変な努力がいったことだろうと、言葉使い一つにも気を使い、馬鹿にされても、笑われても、喰いさがって行く、彼の姿には頭の下る想いがしました。

そんな彼が、私の家でよく会議をしたことから、いつの間にか、母や妹とも親しくなり、風邪を引いて熱があるとかおなかがすいたとかいっては、家へきて、寝ていたり、御飯を喰べていたりして、遅く帰った私をよく驚かしたものです。

私達の廻りには、いつもいろいろな仲間達がいました。未来を夢み、歌を唄い、演劇を語り、文学を論じ、時にはけんかをしたり、夜中の街を、夢中でしゃべり歩いたり、もし、あきらきら輝くような目をした、素晴らしい仲間達がいなかったら、私達の恋も生れてはいなかったでしょう。私達の恋を育てたのは、まぎれもなく、あの仲間達だと思っています。

文芸サークルでは、彼は原稿を持ってくるだけ、あとの編集や、お金の心配やら、ガリ切りや製本は、いつも私達の仕事で「あいつは何だ」「生意気だ」等ブウブウいいながら夜遅くまでワイワイいい合ったものです。あの頃から、彼は、こまかいことは苦手だったようです。

映画監督になるのが夢だった彼と、映画が好きで好きでたまらない私とのデートは、いつも映画館、それも安い映画館をさがし歩いて、朝から夜まで、四本の映画を見て、ふらふらにな

ったことも。「無防備都市」を見て、感激して眠れなかったと話していた彼、喰べるものを減らしても映画を見て歩いた頃、「居酒屋」「ヘッドライト」「太陽のない街」「モダンタイムス」「蟹工船」「真昼の決闘」「にこりえ」「肉体の悪魔」「近松物語」「米」等々、今もプログラムを出すと、その一つ一つが思い出されます。

そんな私達を結婚に結びつけたのは、彼からの「手術するんだ、誰も附添の人がいないし、頼むお金もないから」と、そういつてかかって来た電話でした。そういう彼をほっとくわけにもいかず、病院のベッドの下に布団を敷き、寝もやらす看病したのを……。手術後ガスが仲々でず、苦しがる彼が心配でたまらず、やっと「でた」という彼の大きな声に、思わず泣き笑いました日、頭痛がいつまでも取れず「頭がおかしくなる」と騒ぐ彼の頭を冷しつづけた、遠い昔のそれでいて昨日のように思われる日。

そして、風呂敷包いっぱいの本と、山のような洗濯物を抱えた彼との結婚生活は、鶯ノ木の六畳一間のアパートから始まり、半年位で、六畳と三畳の小さな一軒家を借金して買い、川崎の木月へ、そこで政和の弟のまだ高校生だった光生ちゃんを引取り、三人の生活へ。

そして、長女が生れると、弟は浅草の家へ帰り、私は職場を去り、その年の春、政和はどうしても大学へ行くのだと予備校へ通い始め、日大芸術学部目指して、猛勉強。私は、子守りと内職に明け暮れ、質屋に通い、電気や、ガスの集金人が来ると居留守を使うような生活が続

き、ダンスの中は、ついにカラッポ。そんなことは気にもとめず、「映画が見たい、お金が欲しい」そんなことを思いながら書いたシナリオが「宝くじと小僧さん」という貧しい小僧さん達が、お金を出し合って宝くじを買ってどうしたかという話等、切実なものばかり。そんな彼の書くシナリオを読んで、話し合うのが唯一の楽しみでした。

しかし六〇年安保闘争がまき起こる中、彼は、予備校へも通っていられず、大学入学も、シナリオの勉強もあきらめ、党活動と、組合運動へ本腰を入れて取り組み始めました。

もう一度の引越しをはさんで、今の上池台へ引越して来たのはその後二年半あまりすぎ었습니다。古いボロ家でしたが、やっと親子四人、水入らずで暮せるようになった喜びは、たとえようもありませんでした。

それから、政和は、ほとんど家に夜遅く寝に帰って来るだけ、夫婦らしい語らいもないままにすぎた行きました。すぎて行ったというより、お互いに一生懸命生きてきて、ある日ふと気がついたら、少々くたびれて来た男と女になっていた。そんな感じですよ。

自尊心の強い人で、人に頭をさげることのきらいな人でした。いい格好をするのが好きで、何かというと、格好悪いから嫌だといえます。人ずきあいには下手で、娘にも嫌われていたようです。

淋しがりで、私がいつもそばにいないと気嫌が悪く、私が彼より遅く帰った時怒って、とう

とう一週間以上も口を聞いてくれませんでした。選挙の時、遅く帰ってしめだされ、子供達にこっそり家に入れてもらったこともありました。怒りだすと、理屈もなにもあったものではなく、私はただ嵐のすぎ去るのをじっと待ったのです。

こんな時、彼はボンボンいいたいことをいい、私は、悲しくなって、涙が先にたち、話そうにも言葉にはならず、しゃくりあげるばかり、やっと涙もおさまって話したそうとする頃には、怒るだけ怒った彼は、布団をかぶって寝てしまい、一人芝居のすれちがいのけんかは、私の泣き寝いりに終るのでした。

たまに早く帰った時など、ガス一つ自分でつけられない彼は、椅子に坐って、お箸で茶わんをたたき、「腹へった、飯よこせ」と大きな声でよく騒いだものです。お風呂場から裸で「おい！ パンツ！」とどなりながらでてきて、娘達が逃げだしたりしました。どこへでかけていても「今帰った、めしだ、すぐ帰ってこい」そんな電話がよくかかってきて、あわてて帰ったものです。

喰べることが好きで、おかずが少ないと淋しがり、量よりも、少しづつでも種類の多いのを喜び、お味噌汁と漬物が好きで、ぬか漬けは新漬けが好き、コーヒーはブラック、それも濃いのを。みかんを喰べるのがへたで、お魚は、身をほぐしてあげるか、お刺身でない喰べませんでした。

面倒臭がりやで、専門書以外の本は、自分で選ばず、小説を選ぶのも私の仕事、推理小説など二人で犯人の当っこをして楽しんだものです。

そして映画も、年二回いつも親子四人で行った「男はつらいよ」。「寅さんあなたに似ている」そういうと、「うそいえ」と怒った彼、「Mrレディ、Mrマダム」を見てお腹をかかえて笑った彼。

「久し振りで笑ったよ」

そう云って嬉んでいたのに、帰りには

「あんなくだらない映画に、よくこんなに人が入るもんだ」と、憎まれ口。「本当に素直じゃないんだから、人が少しでも気ばらしになればとさそったのに」と私の心のうち。

そんな彼と、最後に見た映画が「ノーマレイ」、意外と保守的で浪花節的な処があり、メロドラマが好きでした。

テレビは、NHKの大河ドラマは必ず見ている、子供達の好きな歌番組になると二階へ行っ
てしまいます。

イヴ・モンタンとチャップリン、木の実ナナ、太地喜和子、池内淳子が好きでした。やさしい人で、親や兄弟想いで人が困っていると聞けば、自分の家を買っても都合をつけ、何か問題が起こればすぐ飛んで行きます。九州へ母と旅行に行った時も、これでやっと親孝行ができた

と喜んでいました。家を建てた時も、「両親を引取るんだ」といつ見えてもいいように部屋を作ったものです。

娘の結婚式の日、大きな声で、まるで子供が手ばなしで泣くように、おいおい泣いた彼、本当に心悲しそうに、お腹の底から絞り出すような声をあげて泣いた彼、あんな政和を初めて見ました。

あの日から、あの人は急に年を取り、やさしくなりました。

給料日、楽しいはずのその日も、彼にとって分裂以来、一番嫌な日に変わりました。だから私は勢一杯ご馳走を作って、彼を待ちます。出迎えて頬を寄せると、冬はひんやりと冷たく、夏は汗のしずくが頬を伝います。

「御苦労様」と云うと「はい、下宿代、今月もよろしくお願いします。もっとあげられるといいんだけど」と、半ばてれ、半ば申し訳けなさそうに、おどけて渡してくれました。

神経痛の足をかばうように、少しビッコを引き、右肩を落して歩く後姿、角を曲る処でいつも振返って、手を振ってでかけて行きました。夜迎えに行くと、いつも車道に身を乗りだすようにして、嬉しそうに大きく手をふります。私が「つかれてるからいい」というのに「大変だから」と「赤旗」日曜版の配達を助けてくれ、ビラまきも一緒にやってくれたこともありました。また孫の千鶴をたいへん可愛がっていました。

秋の日光の紅葉がどうしても見たいと、急にいいだし、塩原から日塩もみじラインを通り五十里湖へ、五十里湖から川俣湖を通り、川俣温泉へ、川辺の野天風呂を喜んで、二度も、三度も入り、翌朝、紅葉に染った山王峠を目指し、でこぼこの悪路の山王林道をごとごと揺られて、光徳牧場へ、そこでジャガイモを、おいしい、おいしいといっていくつも喰べ、日光市内の車の渋滞にも、いつもならばぶつぶつ文句を云って、車を降り歩きだしたりするのに、文句もいわず、唯「きれいだ」と満足気に景色に見とれていた姿が、目に浮びます。このドライブが二人だけの最後の旅行になってしまいました。なくなる四カ月前のことです。

彼の自慢は、いつも全金北辰の仲間のこと、それは聞いている私までが楽しくなるような、丁度親が子供の自慢話をするような調子で話すのです。それだけに、彼が竹内さんのことを一言も云わないだけにどんなに心配し、自分を責めていたことかと思うと、たまらない想いがします。

家ではお酒も煙草ものまず、夏の暑い時だけビールを、本当においしそうに飲んだものです。「俺の裸舞りは、うまいんだぞ、お前にも一度見せてやらなきゃ、でも高いぞ」「それじゃ貯金しておかなくちゃ」と私。「……やっばり、でも、女房には見せられないなあ……」と彼。酔うといつも踊ったという裸踊りも、とうとう見ずに終わりました。

夏頃から、夜になると目が痛いといい出し、矢口の渡の眼科で、「これ以上無理をすると、

死んでしまいますよ」と注意された日、一日でも、二日でもいいから会社を休むようすすめても「俺がいて、目を光らせていなくては、何をするかわからないから」と闘う姿勢をやめようとはしませんでした。心配する私に「大丈夫だよ、風邪引く位で、病気なんかしたことないじゃないか、それに、これは俺の生甲斐なんだから」と、何としてでも和解まで闘い続けなければ、和解さえできたら、あの人の心の中では、それから先の仕事への夢が、大きくふくらんでいたに違いありません。「この闘いを、いつかきつと小説に書く」といつていたのに。

今、あの人の気持を思うと、さぞ口惜しいだろう、もっと生きて闘いたかっただろう、どうして自分をもっと大事にしてくれなかったのかと、胸が一杯になり、理不尽に彼を死へ追いやった者への怒りで、身体が熱くなり、やがてその怒りは、どうして政和を助けられなかったのか、もっと政和にしてあげることにはなかったのか、と私自身への怒りとなってはね返ってきます。

思いだすままに、とりとめもないことを綴って参りました。思いではつきなく、思うことの半分も満足にお伝えできないような気持ですが、お許しいただきたいと存じます。政和の思い出話を書いて下さい、と頼まれてから、気にかかりながら筆が進まず、他のことも手につかないまま、時だけがいたずらに過ぎて行くばかりで、皆様に御迷惑をおかけしたことをお詫び申しあげます。

永年つれ添ったとはいえ、一人の人間のすべてを理解することは、仲々できるものではありません。人民解放という唯一つの道を目指して、ある時はずっこけたり、また、がむしゃらに突き進んだり、曲りくねりながら歩いて来た四十六歳の生涯の二十八年を共に歩み、彼の闘いの少しでも支えになればと願って生きてきた私にとって、ああもしてやりたかった、こうもしてやりたかったと、悔いばかりが残る日々ですが、大勢の皆様の暖い心に接し、本当に彼は幸せな人だったと、心も落着き、皆様に心からお礼を申し上げる心のゆとりをやっと取り戻すことができました。

全金北辰電機支部の皆様、永い間本当に有難うございました。政和がこれまで、曲りなりにも委員長として何とかやってこれたのも、皆様のお陰だと心から思っております。今は亡き政和に代り、心からお礼申し上げます。また、過ぐる日、政和と共にお仲人をさせて頂きました松木さん御夫妻を始め、山崎さん、北島さん御夫妻の他皆様も末永くお幸せにお過ごし下さいますよう、お祈り致しております。

永い活動の中で、政和が出合ったすべての人々に、彼に生甲斐を与えて下さったすべての人々に、心から感謝をこめて、私もまた、政和のあとを、皆様と一緒に歩み続けることをお伝えして、筆を置かせて頂きます。

ありがとうございました。

岡安靖子

雑草の記

岡 安 謙 一（実兄）

低くたれこめた暗雲の夕暮の中、多くの幼い学童達をのせた、うすぼけた木造の客車を十数両引きながら、東北の空に向け今、上野駅を学童疎開列車が発発する。

昭和十八年初冬、政が田原国民学校三、四年の頃であった。戦争もたけなわ、そろそろ日本もじりじりと負け戦さの兆が現われてきた頃であったと思う。幼い都会の小学生達の中には、まだあどけなさも残る低学年の子供達も多く含まれていた。

一家離散と言う今の時代では想像もつかない事柄が戦争遂行、滅私奉公というまちがった大義名分のもとに平気で行われた暗く悲しい時代であった。

小学校へ行ってなかった政の妹三代子は、その後母の故郷であった信州の寒村の親戚に預けられた。まだ妹は五・六歳の頃であった。今の時代では、幼稚園に入る年頃だったろう。まだまだ親元から離せない亦、離れられない頃である。

不安と淋しさの入り交った幼い小さな顔が、どの車窓からもいくつもいくつも折り重なって

のぞいていた。母親と手をとり合って泣いている姿が、物悲しい中でも、政はしっかりと口びるをかみしめ、お袋に「母さん大丈夫だよ、僕は平気だ、皆んな親達と別れて行くんだ、僕一人じゃないよ」と肩を張って、母に心配かけまいと幼な心にもしっかりと言い切った。「政和、体だけは気をつけて元気でね」私の母は、兄弟全ての子供達に平等で、やさしい母である。私が物心つく頃から分けへだてのない優しさのこもった芯の強い、明治の女であった。そんな母に、故人になった頑固な父も惚れていたのかも知れない。

政を乗せた疎開列車は、一路みちのくの作並へと向った。白く長く尾を引いた一条の煙と共に政の車窓の影も消えていた。

それから幾年月が流れたろうか、昭和二十年三月九日、魔の東京大空襲の夜がやってきた。

そのごは、三月十日の大空襲が一家をくるわせ、転々と引越しをし、怒りのもってゆく場になくなった父が私に理由もなくなぐりつけるとか、栄養不良で寝たきりになってしまふなど、たいへんな時代となった。このあたりの困苦はことばにつくしがたいが、空襲の悲惨とともに多くの人も経験されたことと思うし、また記録されているので省略したい。

終戦の日、私は不思議に涙さえでなかった。むしろ「これで政にあえる、きっと逢える、今度こそあいつとは離れないぞ」そんな嬉しさの方がいっぱいであった。

白日夢とでもいうか、政のひきしまった笑みをうかべたあの童顔が私の前にはつきりと映った。「マー坊早くとんで帰ってこい」

私は、東北の空に向って大きく心の中で叫んだ。やがて政は、母に連れられなつかしい家族皆んなのもとへ帰ってきた。「やあ、マーちゃんお帰り」と私がいった。「謙ちゃん」といったきり政は、あとの言葉をつぐんだ。万感胸に迫るものがあつたのだらう、どんなにか長く淋しくつらかつたらう。彼は父母や私達とは本当に長く生活していなかつたのである。昔の丸顔は失せていた。身体もやせている。食物もなかつたという。体は発疹で、帰った晩から「お母さん体がカユイ」といって苦しんだ。一番政を心配していた父も母も余りの体の変わり様に驚いていた。母は心配になり近所の人に聞いて「湯花」要するに硫黄のことである。それが皮膚病に良く効くというので早速、二里、三里の山路を歩きながら採りに行つた。あれ程ひどかつた政の発疹もだんだん良くなり、母のおかげで体も元氣に戻り始めた様である。

本当に御苦労さん、つらかつたらうなと思ひながら、私は政に学童疎開に行つた作並のことを色々たずねたが、政はあまり多くを語らなかつた。幼な心にも、あまりにもつらい悲しいことが多かつたのであらう。私は彼の心情を察してか、政には作並での事をそれからしばらく聞く事はしなかつた。ただ一言「戦争はもういやだ」と言つたことが私の脳裏にいつまでも残つた。

食糧は戦後最もひどかったのは、終戦の翌年であった。その頃私は、県立の長野工業学校の電氣科に通っていた。政と私の弁当はいつもサツマイモが多かった。田舎なので都会の連中と違って農家の子供が多い。奴等は、いつも「銀しゃりだ」。今で言う真白い米飯のことである。

学校で何か問題が起きると、たいがい「あいづら疎開っ子がやっただ」と言っていて、いつも私たちがいじめられてしまった。政はその点えらかった。正々堂々と先生に向って真疑を正したのである。

政の小学校六年のクラスで、ある時筆入れか、鉛筆がなくなったことがある。「疎開っ子」の二、三人が田舎の馬鹿共にくたがわれたのである。政は素ばだかになり、「さあ、オレ達をうたがうならパンツの中に手を入れてでも探してみろ」と大みえをきったそうである。さすが女の先生もたまりかね、一物を出しかねない見幕に驚いたのか「さあ皆さん、疎開した人達も、あなた達も皆んな同じ仲間ですよ、人を信ずることが大切ですよ」と言っていて何んとか大騒動が一件落着いたとか、まさに人に知られざる政の一面りやくじょと言う所である。

その後政は、クラスでも人望を一身に集めボスの存在を確保したとか、私が政にそのことについて、私の友人の弟が政と同じクラスにいたので聞いたぞと聞いて聞いたが、ただ笑っていて何も答えなかった。本当に小さい時から無駄口のない、口数の少ない男である。逆に私は少

々無駄口が多くて良く父親に叱られたものである。

私は子供の頃から小鳥や生き物が大好きで浅草の生家が焼ける前は、三階の上、つまり屋上に伝書鳩を政と飼っていたことがあった。政がまだ学童疎開に行く前であったと思う。二人で四羽つまり、夫々二羽づつ持って隅田公園を通り過ぎ、言問橋の「言問だんご」のあった店の附近からとばしたことがあったのである。その時、政の一羽が隅田川を通り越して南へ向かわなくてはならないのに、西に向ってとんでいってしまった。「あいつは迷い子だ、いや迷い鳥になっちゃうぞ」と言ったところ、政は、「いや謙ちゃん、ちゃんと帰るよ、ちょっと寄り道するだけさ！」とさりげなくいった。政と私は、お互い「謙ちゃん」「マーちゃん」と小さな頃から呼びあっていた。それは大人になっても変わらなかった。二人で家へ帰ったところ、屋上で鳩が群をなしてさわいでいるので、何かかと思ひ、かけ上って見たところ、どうだろう、私の二羽の鳩と政の一羽の鳩が鳩舎の外で、クッククックと鳴いているのに、鳩舎の中は数十羽の鳩で身動きのできない位鳩だらけである。丁度ラッシュアワーの国電並なのである。

どう言う事かと調べてみたところ、政の一羽が観音様に寄り道して境内に居た土鳩（ふつうの寺や神社に居る鳩のこと）を引連れてきてしまったのである。いかにも政の鳩らしいと子供心にも政の性格が鳩にも移った様にも思えた。

さて田舎の生活は、当時大変なものであった。父が床についているので、母は一家の生活を

支えなくてはならない。農家の田植えや草取り、暑い真夏の中での重労働、加えて夜は夜で私も手伝いながらのリングゴの袋張り、子供達の衣類、下着のつくろいと当時の母は一日二、三時間間の睡眠しかとれなかつたのである。よく倒れなかつたと今更乍ら不思議である。今の若い母親達にはまずできないことである。

或る日、政と私は、円城寺の山門を出たところで、大きな真白なにぎり飯を持った村の子供達に出逢つたのである。彼達は、私達に対しこれ見よがしに、見せびらかしながら、手につつ握り、大きな口を開けてはほほばり、中には、ぼろぼろ落しているものもいるのである。私と政は、生つばをこくりと鳴らしながら一心に相手の口元ばかりみつめていた。その内一人が、いきなり私の方へ、むすびの食べ残しをほいっとほうり投げてよこした。真白いむすびは私の前の方でころころところがった。「やい疎開っ子、腹がへってるんだらう、へっているならひろって食えや！」と言つた。犬や猫ではあるまいし「このやろう」と私は思い弟の手前もあつたのだらう、兄貴として許せない気持が走り、村の馬鹿共に一矢むくいんものときおい込んでたところ、政に「謙ちゃん止めろよ」と言われ氣勢がくじけてしまったのである。

あの時の政の顔は、けわしかった。相手をがっりとらみつけ、にぎりこぶしは石のように握りしめられていたのである。

そこへ丁度、前の家のおばあちゃんがでてきて、私と政を手招きした。おばあちゃんの家の裏

木戸から土間に入ると、二人に大きな真白いにぎり飯を一つづつ呉れたのである。二人でお礼をいいながらあちゃんの家を出たところで、私は、腹がへって腹の虫がぐうぐう言っていたので口を開いてすぐばくつこうとした時政は「謙ちゃん、一つづつ食べたなら三代と光生ののがないから、二人にあげて、僕等はがまんしようよ」と言った。

私は、はっと思った、「そうだ俺達にはまだ、下に二人の弟妹がいたんだ」と政に言われなければ俺は俺の口に入れてしまっていたのだ。この時政の弟妹想いの気持ちに、ほろっとして涙ぐんでしまった。

いずれにしろ、この頃の毎日は食物のことばかりしか子供心になかった様に思える。「カボチャのたね」「フスマのセンベイ」「竿のつる」畠の中に生えているアカザという雑草のつるをゆでて食べたことも年中である。まったくもってこうなると人間ではない、動物以下の食べ物である。

大きなナベにジャガイモ、カボチャが煮込んである。シャモジで底をかきまぜて上の方へ押しあげると同時に飯つぶの浮いてくるそれをさっとすくうのである。まことに神業と言うべきか、こうしないと飯にありつけない。漫画ではない当時は本当のことであつたのである。

政は頭も良かったし実行力も大いであつた男である。小学校、たしか川中島小学校といったと思う小学校を卒業すると、当時でも、北信では長野中（今の県立北高のこと）と並ぶ秀才校

であつた屋代中へと進んだ、（屋代中とは、今の県立屋代東高校のこと）屋代中一年の後半頃であつたらうか、或る日突然、東京へ行くと言ひだし、母はびっくりして政にその理由を詰問した。

彼は、すでに前から独り自分自身の将来のこと、家族のこと、生活のこと等々、全てのことについて熟慮の末、決めたのだという。子供の頃から意志が強く、一度自分で決めたことや、約束したことは、絶対に守り抜く彼の気持から父母は、一言もそれについて口ははさまなかつた。

そんな意志の強かつた政のことについて母が驚いた一例がある。或る時、それも初冬の一だつたらう。信濃路の初冬と言っても東京などの都会では想像もつかない厳冬である。信州の真冬と言えば、当時の建物の中は、前の晩に風呂から上り室内に濡れたタオルを干して置くと翌朝バリバリと音のするほど凍りついてしまうのである。

それほど、初冬といえども寒さの厳しい季節なので素足ではとても過せるものではない、それを敢えて過ごそう、過して見せると言ったのである。母はいくら政が意志が強く意地張りでもそのうち音を上げるだろうとたかをくくっていた。だが驚いた事にとりとうその冬は学校でも、どこへでも素足で押し通してしまつたのである。これには、さすが頑固親父もかぶとをぬいでしまつた。

この前後の事件から親父は政の言うことについては将来に亘って一切口出しはしなくなってしまうのである。あれ程、口うるさい親父も政には一目も二目も置いていた。

そうかと言って政は余計なことは、父親や母にも言わなかった。むしろ親としての父や母の立場を理解していたのだと思う。

私の仲の良かった好きな政は雑草の如く大地に小さな足を踏みしめ強く正しく生きぬいた。

大都會の東京へ出た彼の将来の生きざまは学童疎開、そして厳冬の信濃の山深く雪の降りしきる大地によりはぐくまれて行ったのである。政よ!!

俺達は雑草さ、金もない地位もない、はでな花も咲かせない、こんな草でも生きています。踏まれても、けられても、きっと春がくれば芽を出してのびて行く。

筆を走らせながら私は、とめどなく流れる涙を押えることができない。さようなら政、こんなに早く世を去ってしまったことは今の今でも信じられない。お前を支えた仲間達、お前の母や知人たち皆んなお前の偉大な業績と栄光をたたえることだろう。

さようなら、本当に今度こそさようなら。

帰らぬ政和さようなら

岡 安 たきせ（実母）

昭和九年三月、雪が降り積った寒い日に生まれ風邪一つ引かず母乳が少く、米の粉を湯でかいて牛乳の変わりに飲ませました。すくすくと育ち元気の良い子でした。三歳四歳位になるうちに世の中は変化して来て、お父さんは上海に行く事に成り私は長男六歳、次男の政和四歳、三男が二歳、長女はお腹の中九ヶ月、それでも子供の為と思えばボタン付の内職を続けてやってはおりましたが、どうにもならずどんぞこに落ち入った。小さい子供には本当に苦労をかけた。兄弟は実に仲よくけんか一つせず母を困らせるような事はなく、二歳の三男の面倒もよく見て呉れました。兄弟の毎日の小使いは、おやつの変わり二銭づつときめてあり、三度の食事さえ満足に食べさせる事できない時もありました。

小さいのに良く聞き分けて我まんして呉れました。お腹すいたと泣き出しもせず兄弟は何時
も謙ちゃん、政ちゃんとさげびながら遊び廻っていました。

お父さんも上海から無事帰宅一同大喜びでした。そして、兄弟を柔道に入門、その時の喜び

柔道着をかたに掛けニコニコと出掛ける姿、今でもはっきりと母は目に浮びます。親子一緒に楽しく暮されたのもつかの間、この可愛い手足笑顔で飛び廻り、お母さん、お母さんと呼んで呉れたわね。

昭和二十年終戦に成って川中島に帰って来た時はカイカイと云う皮ふ病にかかっておりシラミなどもいました。毎日毎日なやまされていたのですね。もちろん政和だけではありません。皆そのようでした。可愛そうに身体を見た時は驚き胸一ばいでこみ上げてきました、からだ全体かきこわし、あざときずだらけ、政ちゃんには驚きの顔は見せませんでした、一番にカイカイのを治して上げようと思ひ、あつち、こっち聞いた所ユバナが良いとのこと、上山田温泉が近いユバナを買って来て毎日何回も入るよう政ちゃんも一日ましかゆくなくなるので喜んで入湯しましたのですっかりきれいに成り、屋代中学に通学出来る事に成りました。其の当時はタビなども売ってはおりません。みんな手製です。母も形紙を取り寒くならぬうち皆んなのタビと思ひ縫ひ初めたところ政和が見て、「お母さんほくはいらないよ、タビはかずにこの冬通すのだ」と言いましたが、私は冗談に聞いておったところが言い通しました。大雪が降り続きある所に又降り重り積って積って腰までも付くような畑道を素足でげたばき、其の時私は「政ちゃん、お母さんの云う事を聞いてちょうだい風邪でも引いて身体をこわすと困るし、人には親が笑われるから」と頼んでも、とうとう自分のいう事はやり通しました。

屋代中学に通って居る時、母も川中島駅前にめん類工場があり、そこで働いて夕方帰ると政ちゃんも突然、「お母さん、ぼく東京へ行くよ。田舎の学校では勉強が出来ないから東京の学校に行くのだ」、洗足のお叔母さんの所へ荷物、自分の物は全部作並から持って来たコリに入れて送ってしまいました。

洗足のお叔母さんと云うのは私の妹の所です、私は驚きの余り気をうしなわんばかり真青に成って暫くぼう然として仕舞ました。子供も心配そうにして居りますので気を取りもどし食事の仕度にかかりますと政ちゃんは、「明日行くからキップ買って下さい」と云いました。また私は、心細いやら悲しいやら、なさけないやらどうしたら良いのか、胸一ぱいこみ上げるばかり。だがもうやすわけは無い、この子が覚悟きめた事だ、荷物はもう出したのだ、清く返事して上げよう、「キップ買って上げますよ、かあさんと一緒に出掛よう」と云うと、政ちゃんはホートした様子、笑顔で食事すませ、早く床に付きました。私は悲しくて悲しくて一睡も出来ませんでした。

朝になり、時間で一緒に家を出て川中島駅に向い畑道を歩きながら、「政ちゃん御免ね、お母さんも政ちゃんと一緒に東京まで行きたいけど、子供は小さいし、焼後の何も無い所に行っても困るから、お父さんと相談して出来るだけ早く浅草のお家を建てるからそれまで我まんしてね」。私は泣けて涙の止めど無く政は齒をくいしばってじーっと我まんし、うんうんとう

なづいてくれました。

もう出発の時間、急いでキップ買い政ちゃんに渡す時の心苦しき、おさえ切れぬ程でした。政ちゃんも一寸淋し気な顔でした。

汽車は東京へと進み、私は工場に帰りましたが、仕事も手に付かず唯々泣けて泣けて一日中泣通し、他の人から心配して聞かれ、共に泣いてしまいました。

上京してから、又政和は大変の苦しみ、働き乍ら勉強、困る事など決して人には云わず親にも心配かけさせませんでした。苦勞して卒業後、北辰電機にお世話になったので御座居ます。

何年かの後、浅草の家も建ち、政ちゃんも家から北辰電機に通って居りました。

結婚式の時も靖子と政和で全部用意し、両家には何んの心配も掛けず二人で全部揃えました。とにかく政ちゃんは几帳面で思った事は必ずやり通す、右にも書きました通り、小さい時から人をたよらず、自分の事は自分でやる、心強い子であった。親切で親孝行、あっちこちと旅行に連れて行って貰いました。

政ちゃんに別れた前の年は、三月頃は、石垣いちごに、九月は九州方面に秋は柿がりとあらゆる所にお休みは連れて歩いて呉れました。

お別れする一週間前の土曜日にも来て、母のこれからの行く道の事、大変心配して呉れましたね、有難う、有難う……。

又来ますよとあっさり帰り、次の土曜日、夕方突然見えて、一寸気がついたら田原町だった、家はすぐだと思い、ジャー一寸寄って行こうかとニコニコしながらお店に入り、丁度私も入口に居ったので、あら政ちゃん……と嬉しかった。政和は、あー、つかれたとためいきをつきながら腰掛けて、「お母さん明日旅行だね、気を付けていていらっしやい」。私は、有難う、今日二月七日で、最後の日だった。

お父さんのお命日、仏様に上げたのですと桜飴を一つ食べて、「これはあまいなー」とジュースパイ飲んで「じゃ帰る」と元気で帰りました。

八日曜日に箱根に行くのも何とも云いませんでした。私は、八日鬼怒川温泉、九日夜明方電話。長女から「政和兄ちゃんが……」と聞き、その場で腰が抜け、友達にかかえいれられて、直ぐ仕度し、電車の中、浅草の家まで泣き続け、長女と抱き合って、「政ちゃんはどうさだ、元気なんだ」と泣きさけびましたが本当でした。

帰らぬ政和君さようなら。

すてきな夫婦・三枚目の父

三 枝 光 恵（長女）

私の中の父の思い出といったら、一番に浮んでくるのは、母がいない時の、どうにも落ち着かない父の姿です。母も勤めていましたので、夜遅くなることもありました。そんな時、何度も何度も時計を見ては、「遅い、遅い」「まだ帰って来ないのか」なんてブツブツはじまるのです。そんな時、私たちはと言うと、毎度のことなので「そのうち帰ってくるよ」なんて素知らぬ顔でテレビを見ているのです。

「御飯はできてるから食べてね」と言っって、父一人を食堂に残します。一人でお茶を入れて御飯を食べている横顔は不満だらけという感じ。でも、ここで、私たちがゴマをすってお茶を入れたところで、父の機嫌は母が帰ってくるまで直らないとわかっているのです。だから私達は知らん顔をしています。そして、母が帰って来るととたんに家の中は明るくなるのです。

父の顔に笑いが戻ってきます。母の笑い声は世界一です。やっぱり父には、私達より母が一番だったなって思います。

父には可愛いところがありました。私達姉妹にとっては迷惑な話だったのですが、朝、たまに駅まで一緒になることがあったんです。そんな時、家を出る時からニコニコして「光恵、一緒に行くよ」なんて言うのです。別に、しみじみ話しながら歩くのではないのです。なんせ父は歩くのがとても早かったので、私は小走りについて行きました。駅に着くとホームは反対側なので、そこで私は一息つけます。

どちらかの電車がくると、父はニコニコしながら手を振るんです。私達、それがとっても耻かしくてほんの少し手を上げて答えるのです。それでも父はうれしそうでした。

父は若く見えたので、あんまり親子という感じはなかったんです。恥かしいのには、それもあったのです。

「結婚したいんです」。私が父に言った時、父は私の話を黙って聞き、終わると「一日考えさせる。明日返事をする」と言って自分の部屋に入ってしまいました。私なりに一生懸命考えて出した結論に、翌日OKが出ました。うれしかったです。

普段から自分たちで考え行動すること、何でも頭ごなしにおこったりせず、いつも黙って見ていてくれました。式の当日、式もそろそろ終わり、記念品の贈呈の時、父の何ともいえない泣き声を聞いたのです。回りの人がびっくりするほどの泣き声でした。本人の私より泣き虫でした。「心配ばかりさせてごめんなさい。幸せになります」。心の中でそうさげびました。父

の涙を見たのは、今度が二度目でした。祖父が亡くなった時、はじめて父の目に光るものを見ました。

父と母のようないつも笑いのたえない、いつまでも若く明るい仲の良い夫婦になるのが、私の夢でした。本当にすてきな夫婦でした。私に子供（千鶴）が生まれて、千鶴が一つになった時、あんなに子供が嫌いだった父が、千鶴と二人で洗足池に散歩に連れて行ってくれたのです。

母と顔を見合せ、「お父さんも年だね」なんて……。亡くなるほんの一カ月前のことでした。

「ハトポップ」の歌を一生けん命父は、千鶴のために歌ってくれました。うまくなかったけど私は今でも「ハトポップ」の歌を聞くと涙が出てきます。やさしいおじいちゃんでした。

振り返ってみると私は父にぶたれたことが一度もありませんでした。私とけんかをするといつも黙って自分の部屋に入ってしまった父、気持ちをこらえていたんだなって思います。きっとやさしかったのですね。

うちでは三対一で負けていた父、外ではわりと活躍していたのだから、亡くなってから改めて感じました。多くの人の為になったのですね。私は言っていました。「いつもこんなに遅くまでお金にならないことばっかりして」。そう言うと、父は「お父さんが行かなくちゃ、だ

めなんだよ」なんて笑って答えていました。忙しい人生だったですね。でも私は思います。母とめぐり会い結婚したこと、父にとって、一番幸せなことだったんじゃないのかと。短い人生それなりに生きたのですね。幸せだったのですよね。

亡くなってからも、組合の人達をはじめ、多数の人々に惜しまれて、父を少し見直ししました。家の中では三枚目だった父も、外ではちょっと二枚目ぶっていたのですね。

私の中の思い出は、もっとたくさんありますが、ほんの少しここに書かせていただいたこと、本当にありがとうございます。できることなら、どうか皆さん、父を忘れないで下さい。

岡安さんの恋文

靖子様、二、三日会わないと一年も経ったような気がします。この手紙が着く時には靖子さんが二の宮に立ってしまった後かも知れませぬね。

私が東京を出る時にはあんなに晴れていた空も高崎に来る頃からは小雨が降り始め、軽井沢の高原を通りすぎるころは雨が土砂降りとなり、列車の窓にも吹き込んできます。浅間の嶺での赤い屋根が白樺の林に囲まれ雨にぬれる様子は軽井沢ならではの感じですよ。全く真夏の八月とは思われぬ情緒とはこの事を指すのでしょうか。昨夜は二年ぶり位で一夜を明しましたが、当地長野の朝夕の気候は下着一枚では寒気を憶える程で秋の頃を思わせます。果樹園の朝はまた格別ですね。こんな朝を靖子さんにも味ってもらえたらと思います。名も知らぬ鳥々が柿の木、裏の杉の木などで朝を破るのも、はち切れそうな小川の水も、東京では見られません。この二の宮の様子もまた一風変わった感じがすることと存じます。

東向きになった家の前からは志賀高原の山々が見られ、今朝は曇って見られませんが家の裏からは北アルプスの山々が果樹園の木に見られます。雀などのさえずりを聞くと私の気持までのんびりとしてしまいます。毎夜会議会議に追われている私など全て廃人のようです。こんな所で読書でも何の心配もなく出来たらと思ひ、靖子さんが近くに居てくれたらとも考えます。余り靖子さんのこと思ひ出すのはやめましょう。中島さんにもわるいからね。

清水さんから手紙いただきましたか。本当にもう一度は顔を見たかった。残念でしたね。と

りとめもなく書きました。悪しからず。あまり書くと会って話しの種が無くなるといけませんからね。火曜日の夜には伺います。その時まで元気でね。

靖子様

政和

一九五三年八月十四日

◎

靖ちゃんおめでとう、三月十九日、今日は君の誕生二十年の記念すべきですね。重ねて靖ちゃんおめでとう。誕生二十年にあたり心からの挨拶を送ります。今日までの二十年の歴史は、現在の君を築き上げるにあたり、数多くの経験を与えてくれました。

◎

今日の君は労働者階級の一員として、ますます労働者としての自覚を深め人類解放のため進んでいます。私の特に尊敬している点は君が君の歴史を通じ人間性に対する問題を真剣に身を持って考えているということです。私は君を知れば知る程、君の人間性に対する思考の深さには胸を打たれるばかりです。

私は君からこの問題について非常に学び取る所があり、私の共産主義活動を嘗てない以上に豊富にしていた事をお知らせする必要があります。

今日、これから、君が自から二十年の歴史を基礎に、共産主義者としての人間性を確立する

為に力強く闘い前進されるよう私は希望します。これは、君の全生活を根本的に決定するから
です。

これには、自分自身の内的問題、家庭的条件、その他多くの大きな、困難が横たわっていま
す。但し、例え、時間はかかろうと、これらの困難を乗り越えて目指す最高峰の人間性としての
共産主義者となるよう私は切に希望します。

靖ちゃんおめでとう、私達の幸福のため共に協力し進みませう。

靖ちゃん、生誕おめでとう!!

政和

靖子様

一九五四年三月十九日

◎

◎

靖子様、手紙ありがとうございます。私の身体のことこれ程まで思ってくれているとは……

靖ちゃんの言われる様に、私の身体は自分一個のものではないんですね。全てのプロレタリ
アートのものですね。そして最も大切なことは、靖ちゃんのものだったのでですね。よく解りま
した。約束します。

——ただ会いたかった、あんなに楽しみにしていた靖ちゃんの顔を見るとつい——これは

私のいいわけ、月に一度位いは靖ちゃんに誘われる映画もいいですね、腰が重い時が折々あるかも知れませんが、引張って行ってください。

和家君のことですが、贈り物、それ自体を形式的に考えることは誤りです。なぜ靖ちゃん贈り物をするのか、分析してみた結果はどお。一般的意味での好意としてのものだったら喜んで受けとることが正しいでせう、靖ちゃんが人々から好意的に見られることは靖ちゃん以上に私としてはうれしいことです。問題なのはその好意的なものがそれ以上のものであるかどうかと言います。その危険性にさえ絶えず注意しているならば、いいのではないでせうか、もし、私がすばらしい美人に贈り物をされたら、靖ちゃんはどうか考え、どうします。私の考えと同じですって、そうでせう、これがお互に愛し合い信頼していればこそこうした態度が取れるのです。

私が余計な心配をしなかつて、私はそんな形式主義者でも、観念論者でもありません、少なくとも弁証法的唯物論者ですよ、それは、気になりますけどね、そう気にばかりしていたら、頭がハゲますからね……

靖ちゃんが誤った行為をすれば絶えず批判することは靖ちゃんとの約束です。批判される数は少ない方がうれしい、そうなつてください。

私の近況をと言はれてもどう答えたらいいのかわかりません。

理論と実践との統一のために行動しているのが現在の自分です。具体的にですって、もうだめ眠くなったよ、今お袋が風邪にと卵酒を作ってくれています。それを飲んで今夜は終り、そそう夢の中で靖ちゃんに会えるんだっけ、今夜はまだ終らず……疲労が回復したらまた手紙を書きます。もう大分いいのですが。今度は逢うのはいつ。おやすみ靖ちゃん

許嫁の政和

私のすばらしいお嫁さん

靖子様

一九五四年十月四日

◎

◎

靖ちゃん、身体の具合はどう、帰り組合で見た靖ちゃんの顔、元気そうだったけれど……。靖ちゃんに対する批判書く約束でしたが、私自身もう一度考えたいと思ひ書かないでしまいました。批判である以上正しいものでありたいと思うからです。

今日昼休み靖ちゃんと話しているなかで、家庭的な悩みがあること、私もそのことを今考えています。具体的な様子がわからないので何とも言えないのですが、靖ちゃんにいつまでもこういうことは確信していただきたい。それは、私達二人が結ばれ進んでいる道は、革命の道であり、正しいものであるということ、一時的な困難、他人からの誤解は、私達二人のなにもにも負けない固い愛情によってかならず解決されること、このことだけは如何なる苦難があ

うともわすれてはならないものです。

私自身、革命活動を進めていく上に何度か家庭的な悩みにつきあたりました。私一人いた時は、一人涙を浮かべたものです。但し、その涙を乗り越えて現在進んでいます。理論を身につけた私ももう涙を浮かべることはありません。それに好きな靖ちゃんと一緒にいるんだものね。

私と靖ちゃんに対するお父さんの見方も大きな問題かも知れませんが。残念なことですね。但し、それだけを考える必要はありません。敗退的な気持でいるとかえって誤った考えを持つものです。両親にも、私と靖ちゃんの愛情の強さについてかはわかってくれる事があります。私にはそれ丈の自信があります。またゆっくり靖ちゃんとこのことは話し合ひませうね。短気を起して家庭をこわすことは絶対にしないでください（これは心配するだけ無駄かな）。

資本論の研究は今、第三篇の絶対的剰余価値の所に進んでいます。今月中に第一部完了予定でしたが、十一月中旬になってしまいました。本年中には全三部を完成させたいと思います。一週に三十時間も勉強出来ないのが残念でたまりません。一日を二十七時間制にしたいものですね。そうすればもう少し勉強出来るのですが……。

今度の旅行また別々ですね。一人でも靖ちゃんと一緒にいることと思ひ楽しく行って来ます。靖ちゃんもそうしてくださいね。

十一月三日は二の宮ですね。今朝新橋で時間表を見て来ました。八時三十五分発京都行に乗

りませう。楽しみにしています。ではしばらく顔を見られないけれど……
おやすみの接吻を送ります。

最愛の靖子様

一九五四年十月十五日

君の政和

会葬者、御香典名簿

告別式参列者（通夜含む）

青木幸、青木佐市、青木友尉、青木千恵子、青木宏（全学研労組）、青木弘子、青柳礼二、青山純男、赤塚正和、秋山吉夫、秋山卓代、阿比留静夫、阿部憲助、阿部長次郎、安部勝明、阿部芳男、荒井三郎（全金インダメタル）、荒井新二（東京合同法律事務所）、荒井淑子、安西稔、飯村澁一、五十嵐ひろ子、池田剛（全金福成社）、池山鉄夫、生熊茂実（全金大田地域）、伊沢次丸、石井賢三、石井広、石井禮二（全金大谷重工業）、石川清、石川進、石川武男、石川久照、石川勇三、石島卓爾、石田登志子、磯部照男、板倉勝宣（全金大東工業所）、市川平八（品川労協）、市来八郎（五反田法律事務所）伊藤茂雄、伊藤茂、伊藤豊、伊藤龍英、稻垣精一、井鍋きよ子、井之川巨、色部祐（榎本利子さん守る会）、碓井昭夫、内田光一、内村克雄、内山利晃、宇野和夫、江口正次郎、榎本卓二、榎本利子、榎本正雄（元全金渡辺製鋼）、榎本政幸、江端俊一、遠藤日出男、遠藤恭子（小学館臨労争議団）、遠藤総司、大久保雅裕、大久保龍子、大河内史、大河内勝、小木和男（東京法律事務所）、大島清伸、大角繁夫、大隅ミサエ、大谷仁三（全金東京計器）、大田労災職業病患者会、大竹晃（全金北部地協）、大竹昇、小縣親由、岡崎洋子（大田病院労組）、岡崎巖、岡崎利郎（榎本利子さん守る会）、岡田俊明（全国税労組大田連絡会）、岡野恵美子、岡安英一、岡安謙一、岡安セツ子、岡安朋子、岡安靖夫、小川務、沖電気争議団、沖田真咲、奥島悠一、尾崎陸、織田純忠、小沢信男（全国一般中須労組）、小田不茂、小田急電鉄不当差別をなくす会、小幡三二、恩田忠男、小野実、勝力男、化学一般エセス製薬、柿島一夫、加瀬正孝（大田病院労組）、柏木鏡、片桐公男（石幡都労委提訴団）、加藤勇、加藤賛吉、加藤進平、加藤進、勝又重、金田江美子、狩野康巳、上条洋一（全国金屬）、唐沢公平（全金トールハツ志村）、金田昭作（全金宇野沢組鉄工）、蒲生原典明（全金大東工業所）、河相辰夫、河上増雄、川井敏正（全金

東京、川太啓司、川又溥、川又里子、神林万治、神辺英一、菊川和男、菊地義弘(吉野石膏労組)、北島武、北島婦美、木田輝久(国労蒲電分会)、木村靖男、工藤典男、工藤省司、工藤隆一、久保光孝(全金東京)、熊谷ハル、黒江浩二郎(全金目黒地域)、黒川光一郎、黒木定規、黒沼良光(日本共産党大田後援会)、小池清雄、小池万里子、香田一栄、小島規紀太(全金東和タイプ)、小菅滋、古怒田幸子、古怒田春吉、小沼正三(全金品川精器)、後藤耕三、後藤福一郎、後藤忠弘、後藤実、小嶋三男、小林和男(全金日特金屬)、小林雅之(全金カコ)、小町行三、小松明治(日本共産党大田地区委員)、児安義雄(職自連石川島連絡会)、近藤幸吉(全金宇野沢組鉄工)、斉藤さくみ、斉藤信也(全金ニッター)、斉藤光男、佐伯信夫(全金東京)、坂上雄三(全金島田理化)、榊利夫、坂本亮治、佐川信昭、桜井皓一、佐々木茂雄、佐々木重治(全国一般ロードスター工業)、佐藤勝利、佐藤憲七、佐藤菜穂子、佐藤雅子、佐藤節子、佐藤秀之、佐藤誠、佐藤正明、里口勤、里口富美子、佐渡静雄、沢口静夫、沢山伸也、芝信用金庫従組、三條義篤、私教連高千穂学園分会、重松牧郎(全金長谷川齒車)、紫田篤、渋谷要、清水貞雄、清水史郎、清水賢雄、鳩田一夫、鳩田隆英、下山房雄、下山紀美子、島崎孝司(東洋酸素労組川崎)、白島よしつぐ、城田辰男(日本共産党大田地区委員会)、新垣善夫(全印連東京地連)、新庄修、新日本婦人の会大田支部、末次勝頼、菅野忠雄(細川労組)、菅野正好、杉田代志治、杉本安次、杉山光男(日本共産党台東区議会議員)、鈴木光一、鈴木中庸、鈴木幸夫、鈴木諒、鈴木茂(中須労組)、鈴木誠一、鈴木虎治郎、鈴木義行、鈴木英夫、鈴木清、関直美、関口光彦、全金浅羽、全金東鋼業、全金インダメタル、全金荏原、全金大谷重工業、全金大田地域下丸子地区協、全金カコ、全金京浜電測器、全金桂川精螺、全金光陽社、全金斉藤鉄工、全金東京秀工舎、全金鈴木シャッター、全金高砂鉄工志村、全金日東電機、全金日本起重機、全金日本教具、全金日本ロール、全金南部、全金プリンス、全金報国チエン、全金前中製作、全金明工社、全金横河電機、全国一般理化電機工業労組、全

石油東亜石油川崎製油所労組、高木晃（東京計器）高木督夫、高木美代子、高橋健治（全金宇野沢鉄工）高橋貞夫、高橋恒雄、高橋融（東京法律事務所）高橋元弘、高田光男、高橋信之、田上三郎（富士電機争議団）、高森敏次、田口計介、田口章夫（化学一般岩城製薬支部）、竹内節子、竹内千代子、竹内久夫（東京統一労組懇）、竹中茂、竹村執（炭研精工労組）、立花宏平、谷筋善一、玉木建三、田村登、千代田争議団、賃金昇格差別撤廃共闘会議、塚田久、塚本昌世、対馬金蔵、対馬幸光、角田京子、寺島富士子、土田高義（全金品川）、寺田新平、寺田来美（全金東洋電子）、天広信頼、渡壁昭夫、戸田隆、戸田仲子、東京南部生協労組、東京ワイヤー労組、トーカーオフセット印刷（株）、友部敏夫、豊島小夜子、豊島宏（全金ジェコー）、鳥海孝、鳥海克己、内藤功、内藤実（全商業品川）、永井武、永盛敦郎（東京法律事務所）、流矢重之（南部組合づくり共同センター）、中里忠仁（全金中央副委員長）、中丈之助、長沢熊平（雪ヶ谷民商）、中島三郎、中城達雄、中小路教広、中出匡彦（国民救済会大田支部）、永松政美、中村項、中村順子、中村二朗、中山森夫（沖電気争議団）、中山恵子、中山義則、生井字平、並木慶太郎、成沢良三（港信用金庫雪ヶ谷支店）、縄誠三、難波範子、南部時男、新地淳一、二本留治、西弘則、西マサ子、西海照夫、西川久仁夫、西島清一郎（山武）、西野文朗（品川争議団共闘会議）、西村祐、西村登子、新田善丸、日本航空労働組合、日本ゼオン争議団、二本柳勝彦、日本共産党日本起重機支部、日本共産党長谷川歯車支部、楡井泰子、丹羽正明、野上敏和、野田節子、野本春吉、芳賀民重、大下信昭、橋立里治（全信労芝徒組）、橋本明（全金NCR）、長谷川重雄、羽島みよ子、浜田尚、早川勝輔、原津治（全労災東京支部）、原田泰雄、半沢日出五（星光電気株）、半田敬史郎、馬場猛、疋田斉、肥後勝盛、菱健蔵、日岡笑子、日向昭次、平賀健一郎、広瀬孝（全金品川地域）、福井光三、福田陽子、福本均、福山康明（AGS労組）、藤芳満男（全金東京）、船尾敏、古川禮三、平和島労組、北辰計装榎本支援共闘会議、星晃、星野久男、細谷一寿（全金平和タイプ）、

細野敏男（同盟北辰電機労組）、ホテルニュージャパン労組、堀川重晴、本多良男、前間淳一（全金NCR）、増田節子、町田光正（前全金日本理化）、松中芳雄（全金シエコー）、松崎喬（小池自治会）、松原忠雄、松原弘和（日本酸素京製）、松本勇（芝信徒組）、松本一夫（宇野沢鉄工）、松尾洋（全金日本電子）、松本俊次（蒲田民商）、松本彦栄、松村久治郎（松下電工株）、丸茂勇夫、丸山英夫、三浦やす子、水原英雄（安保破棄東京実行委員会）、水沢稔、三ツ橋信重、港区争議団共闘、淡谷進、峯田政美、宮尾みつ子、宮川泰彦（東京南部法律事務所）、宮田秀己、宮沢重治、村上賢一（全金日本アイビーエム）、村上太一、村松茂、望月富治、森紀一（全金島田理化）、森下信夫（割烹駒がた）、森野徳雄、森本一雄（東京地評）、守屋昭泰、矢ヶ崎武人（全金リオン）、矢口政武、矢口文子、矢崎義一、安井宏昌、安池是布（東京憲法会議）、安田十二郎、矢萩慶一、柳田尚孝、柳沢弘（全金大田地域）、梁田政方（日本共産党東京都委員会）、山井昭三郎、山下正久、山崎喬、山崎良一、山崎桂佑、山城隆一（全金品川地域）、山田徳郎（参議院議員宮本顕治秘書）、山田弘、山本昌平、山本正也（全金インダメタル）、山本朗、山森美意子（保育所労組）、柚木満丸（南部生協理事長）、由比英二（北辰電機製作所）、雪谷民主商工会、横田定雄、横山貞広、吉川正一（全金NCR）、吉田明、吉田信也、芳本勲、芳本喜久代、依田英昭（全商業日本メーラー分會）、米松忠、米原昶、若生文男（全金荏原）、和久信子、渡辺一樹、渡辺清次郎（東京争議団共闘）、渡辺征四郎、渡辺育雄、渡辺七朗、渡辺吉克、渡辺文夫（大田病院労組）

合同葬会葬者（敬称略・アイウエ順）

青木弘子、赤羽勲（全金富士エレベーター）、赤倉卓（私教連高千穂学園）、秋山吉夫、浅田洋治（全造船石川島）、阿部芳男、安部静子、阿部長次郎（全金東京）、阿部昌子、荒井淑子（全国労災病

院東京支部)、荒井三郎(全金イソダメタル)、新井進(キャノン)、飯田吉利、五十嵐ひろ子、池山鉄夫(日本共産党大田地区委)、生徳茂美(全金大田地域)、井沢健治(全金松尾橋梁)、石川久照(港区労協)、石黒雅己(全金深尾精機)、磯崎董(全金浦田鑄造)、糸賀正(全金東京航空計器)、石川毅芳(化学一般エスエス製薬)、石川武男(全金前田鉄工)、石井福松、石崎正治(中須)、石島卓爾(大田区労協)、石井賢二(日本共産党大田区議)、石川均(全金大森クローム)、石坂正義(東京医労連)、伊藤孝夫(全金昭和重機)、市来八郎(五反田法律事務所)、市川勇(全金シェルポリーング)、市川平八(品川労協)、鶴浦武久(都高教組大田班)、植村富枝(全金春日)、柄沢義男(全金日東機械)、内池潤(全金桂川)、内田光一(全金東京)、内村克雄(大田区労協)、橋本利子(北辰計装)、橋本卓二(橋本守る会)、遠藤泰三(全動労)、遠藤修(東京12チャンネル争議団)、遠藤総司、大河内勝、大河内史、大沢敏三、近江晏蔵、大友猛彦(全金横河電機)、大島さく子(東京医療労組下谷病院分会)、大泉正則、小懸親由、大庭繁(機関紙協会都本部)、大田繁夫(大田労災職業病患者会)、大久保雅裕、大平保雄(全金島崎製作所)、太田知量(建設一般全日自労東京)、岡安たきせ、岡安靖子、岡安由美、岡安三代子、岡崎巖(全金理研計器)、岡田好子、岡部幸美(全金日本鉄塔)、岡安謙一、岡松利治(労働者教育協会)、小川務(前全金日本理化)、小川正明(東伸製鋼小川君の不当解雇を撤回させる会)、小川朋伯(全金三興製鋼)、小木和男(東京法律事務所)、小沢信男(中須製作)、小田島靖夫(雪印食品争議団)、小野正己(全金日東ハンドル)、小野実(日本共産党)、鏡憲雄(全金日本度量衡器)、加藤進平、加藤和子、勝力男(東京地評)、金子輝人(沖電気争議団)、鴨原三夫(日本電機労組)、川田久(全金東邦製作)、川又溥、川井敏正、河相辰夫、川村忠司(日航労組)、河相とし、菊島圭子(保育所労組南部支部)、菊地耕作(浜田精機連合会)、菊地紘(城北法律事務所)、菊地義弘(全国一般吉野石膏)、北本(全金日本鉄塔支部)、北村晴夫(沖電気

争議団)、木下幸治(東水労南一支部)、木村靖男、草野三夫(三多摩争議団)、日下雅文、工藤典男(全金日本教具)、久米嘉宏(日本共産党東京都委員会)、黒木定規、黒河内隆(全金日本起重機)、黒川光一郎、栗原恭子、小泉覚(出版労連C&S日本支社労組)、小池清雄(紳利夫事務所)、小池和正(全金渡辺製鋼)、小島清(全金報国チェン)、小藤田英雄(全金大亜真空)、後藤弘太郎、後藤雄一郎(学校現業)、小沼正三(全金品川精機)、小林雅之(東京争議団共闘)、小林明(全金島田理化)、小林和男(全金日特金屬)、小峯光男(全国一般全学研労組)、小山(全金日本鉄塔)、金野昭夫(合化労連岩城製薬労組)、斉藤勲(精立工業労組)、斉藤方春(石幡都労委提訴団)、佐伯信夫(全金東京)、三枝恵美、佐川弘正(合化労連東洋酸素川崎)、坂本孝二(全金桜井鉄工)、坂巻フミエ(全商業日本メール・オーダー分会)、向坂弘時(日立武蔵争議団)、佐々木茂雄、佐藤誠、佐藤智(全金三興製鋼)、佐藤泰(全金荏原製作)、佐藤勝利、佐藤清志(全金ペトリ)、里口勤(全農林都本部)、里口富美子、沢田儀雄(日本共産党東京都委員会)、三條義篤、志賀穂子、重松牧郎(全金長谷川歯車、渋谷要(日本共産党大田区議)、島田一夫(全造船三菱)、島田(全金金石舎)、清水てる子、清水貞雄、清水静(全印総連細川労組)、下山捷雄、下山紀美子、下村三郎(全金理学電機)、白川英紀(全金プリンス)、城谷護(京浜協同劇団)、城田辰男(日本共産党大田地区委員会)、新垣善夫(全印総連細川労組)、菅原勝夫(全金中興社)、菅野章(全造船三菱重工支部)、菅野忠雄、杉本安次(全金東京)、杉田祥澄(横河電機)、杉本卓士(民青中央音楽隊)、杉浦正男、杉江登志雄(全印総連細川労組)、鈴木諒(日本共産党東京計器支部)、鈴木勝彦(日産厚木争議団)、鈴木昭(全金日本鉄塔)、鈴木武志(全金松田製線)、鈴木千里(日刊ゲンダイ労組)、鈴木晶一(池上自動車教習所労組)、鈴木靖雄(東京電力差別撤廃原告団)、砂岡隆一(全金電設機器)、関口清(山武)、関根寛(目黒労協)、関根金次郎(全金モタインショーワ)、添谷良夫(全金東京製線)、園加代子(大田病院選挙弾圧事件被

告)、楚山利雄(全済生会労組中央病院支部)、高山勘治(全国金属)、高橋孝(沖電気争議団)、高石近夫(全金日本起重機)、高橋(全金藤沢製作)、高橋正信(全金昭和重機)、高橋勲(全金日本教具)、高橋恒雄、高橋光雄(全金日本熱管工業)、田口絹子(全金斉藤鉄工)、田口計介、滝沢貴明(日本共産党世田谷地区委員会)、滝沢達也(日本演奏家協会)、竹中テル子、田中悌介、田中直人(全金ペトリ)、立花宏平(全金東鋼業)、田村登(統一労組懇大田連絡会)、田母神顕信(全国一般東京)、千葉邦彦(全金日本ロール)、茶谷茂(日本共産党東京二区後援会)、丁弘之(日本共産党東京都委員会)、対馬金蔵(全金日本機械)、対馬忠光(全金諸橋工業)、土屋満(全金小坂)、寺原浩二(全金国安特殊)、天広信頼、土井清(日本航空労組)、戸田隆、友部敏夫(全金管沼)、豊島小夜子、内藤実(全商業品川分会)、那須文夫(全金高砂鉄工大島)、那須英雄(全金丸石)、中丈之助(全金東京)、中里忠仁(全国金属)、中島三郎、中島隆成(運輸一般内宮運輸分会)、永井たま(スモン東京原告団)、流矢重之(南部組合づくり共同センター)、永松政美、永松佳子、永瀬登(大日本印刷争議団)、利雄(全金前中製作)、中山義則、中山武則(ワシントン靴店労組)、中本ミヨ(全金プリンス)、永盛敦郎(東京法律事務所)、中村順子、中村功(全金日本荷役)、中村項、中村幸三(全金小坂)、成田穰(けいわん学級)、新納邦広(全造船佐伯分会)、西田実(化学一般杏林製薬支部)、西野文朗(全金カコ)、西村祐、西村登子、西村直樹(全金東京)、二瓶英夫(東京電力差別撤廃原告団)、野上敏和、野崎幹夫(全金超音波)、野田稲夫(トローホー印刷)、萩島アサ子(保育所労組南部支部)、橋村良夫(全金シチズン時計)、橋本明(全金NCR)、八田修一(全金オリシン電気)、馬場清(大田患者会)、早川寛(全造船日本鋼管鶴見造船分会)、原田泰雄(日本光学労組)、原田治夫(日本共産党東京都委員会)、半沢日出王(星光電気)、半沢房子(星光電気)、半田敬史鉄、栗田稔、日暮正治(学校現業労組)、日向昭次、日橋政美(全金リオン)、平野よし子(大田立看板事件被告)、広瀬孝(全

金品川地域)、広野一夫(全金日本熱管)、深川浩一(全金月島機械)、福田信一、福田篤序(全国一般大東通信機労組)、福田陽子(大田患者会)、藤野昭夫(全金大東工業)、福田義之(東京南部法律事務所)、藤本利子(日演協バイオリン支部)、藤田豊作、藤原孝治、藤沢丈司(全金前田鉄工)、船尾徹(東京南部法律事務所)、古家久光(全金精工舎)、古川信(全金石井鉄工)、堀川重晴(全金NCR)、細谷一耕(全金大田地域)、前間淳一(全金NCR)、間島房雄(全金蒲田鑄造)、増田節子、増田全七(全金大田地域)、舛谷光昭(全金東京秀工舎)、町田和正(全金日本アイビエム)、松本勝美(国労蒲田電車区分会)、松本一夫(全金字野沢)、松本彦栄、松村四郎(明治大学)、松本利夫(全金明工社)、松本満寿男(全金光陽社)、松本幸子、松沢松司(全金東和タイプ)、丸井宏之(全金海上電機)、丸茂勇夫(日本共産党大田区議)、丸山英夫、三浦時生、三浦やす子、三ツ橋信重、蓑輪敏明(全金島崎製作)、美原清(大田区職労)、富田秀巳(大田争議団)、宮城高安(全金春日)、宮崎幸二(運輸一般安藤運輸)、宮田久雄(全済生会労組中央病院支部)、宮崎多喜、村石政弘(東京電力差別撤廃訴訟原告団)、村上賢一(全金日本アイビエム)、村上太一(大正製薬村を守る会)、村野守義(日本国民救援会大田支部)、目時鑑(全金伊藤放射線)、森茂(全金日本教具)、森川善弘(東京私教連)、森田伸夫(自交総連東京地連)、森戸義孝(全金南千住)、矢口政武、安井宏昌(全金渡辺製鋼)、谷田部四郎(全金日東電機)、柳角造(全金日本教具)、山口悦司(全金渡辺製鋼)、山本辰夫(日本フィル労組)、山本征郎(日本電機労組)、山城隆一(全金品川地域)、山田情二(横河電機)、山下隆三(全金前田鉄工)、矢崎義一、山下太吉(全日赤大森病院労組)、山崎喬、山崎洋子、山崎良一、横山定雄、横山昌弘(全べんてる労組)、横山朋子、吉川正一、吉田資治、吉田信也、吉田進(全金大東工業)、吉田久恵、芳本勲、渡辺文夫(大田病院労組)、渡辺寿夫(全金大谷重工業)、渡辺晴夫(都高教大田班)、渡辺一樹(全金八重洲無縁)、渡辺清次郎(東京争議団共闘会議)、渡辺

博(三井製糖更科さんを守る会)、全金浜田精機支部、日立中研草野守る会、日機装争議団、光洋電子木村君の不当解雇を撤回させる会、全国一般ロードスター工業分会、東京三多摩金属武藤プレス分会

偲ぶ会出席者

青木弘子、青山純男、秋山吉夫(昭電労組)、浅香徹(全金桂川)、朝倉秀夫(全金報国チエン)、荒井三郎(全金インダメタル)、池田智康(全金昭和重機)、池山鉄夫、石井弘(大田区職労)、石井博栄(全金宇野沢)、石山芳一(全金渡辺製鋼)、石島卓爾(大田区労協)、板倉勝宣(全金大東工業)、伊藤民男(東京ワイヤー労組)、稲富政徳(全金春日)、内田光一(全金東京)、内田宣長(全金日本ロール)、内村克雄(国労蒲田電車区分会)、榎本利子、大内昭三(化学一般各務クリスタル)大島文雄(日航労組)、小懸親由、小沢信男(中須製作)、小野寺(労金労組蒲田)、鍛治利秀(尾崎法律事務所)、勝力男(東京地評)、加藤賛吉、金子悦子(大田病院労組)、川又溥、金田一健一(全金日東機)、工藤典男(全金日本教具)、久保光孝(全金東京)、黒江浩二郎(全金目黒地域)、小池清雄、香田一栄(全金大田地域)、小菅滋、児安義雄(石川島都労委支援する会)、小東徹広(日本酸素労組)、酒井則明(全金東京計器)、榊利夫、更科健三(三井製糖更科守る会)、重松牧郎(全金長谷川歯車)、東海林忠義(全金大森クローム)、白鳥義次、鈴木孝司(全金プリンス)、鈴木中庸、高橋勲(全金日本教具)、高橋融(東京法律事務所)、田口章夫(化学一般岩城製薬支部)、田村登、対馬忠光(全金諸橋工業)、土田尚義(全金品川地域)、寺田東美(全金東洋電子)、中嶋富雄(全金石井鉄工)、中出匡彦(救援会大田支部)、永盛敦郎(東京法律事務所)、生井宇平(南部地協)、西村なおき(全金東京)、西村拓輝(全学研労組)、橋立里治(全信労芝徒組)、平野武男(立看板事件元被告)、星野久男、細谷一寿(全金大田地域)、堀川重晴(全金NCR)、本多良男(法律会計労組蒲田)

分会)、本間和作(全金齊藤鉄工)、前間淳一(全金NCR)、間島房雄(全金蒲田鑄造)、松尾洋(全金日本電子)、南陳栄(メールオーダー)、美原清(大田区職労)、宮川泰彦(東京南部法律事務所)、村上賢一(全金日本アイビーエム)、森野徳雄(全金東京)、森本一雄(東京地評)、八代栄三(全金中央)、安井宏男(全金渡辺精鋼)、山崎邦雄(全金石井鉄工)、山森美意子(東京都保育所労組)、矢部(ロードスター分会)、吉田明、渡辺秀三(全金大田地域)、渡辺直昭(全金三興製鋼)

弔電

青木サイチ、浅倉タカオ、阿部カツアキ、池上自動車教習所労働組合、上田ナカコ、内宮運輸機工労働組合望月フサオ、愛媛振動病訴訟原告団農村労新居浜分会、大田病院園加代子、岡山大学医学部青山、春日正一、金井マサジ、蒲田民商工会青木エイジ、川保昌三、小島成一法律事務所、国公労連、栄茂、佐久間功、山水労働組合川村テルヒコ、参議院議員上田耕一郎、自由法曹団、新神戸電気株式会社樹脂営業部一同、関口ミチコ、仙台清水先生を守る会、全印総連細川労組支部、全学研労働組合、全金東鋼業、全金板橋地域、全金大田地域セガ分会、全金オリジン電気、全金オリンパス光学、全金海上電機、全金神奈川地本旭ダイヤモンド、全金コピア、全金シチズン五計連合会橋村良夫、全金杉本伸線、全金ゼノア、全金月島機械、全金トーキョー、全金東京航空計器、全金東京西部地区協議会、全金日本鉄塔、全金ペトリ、全金丸石、全金諸橋工業、全金横河電機、全金理学電気支部、全造船機械労働組合石川島分会、サエキ分会、全日自労建設一般、中央法規出版斎藤タカシ君を守る会、都職労遠藤ユキオ、東京学習会議、東京十二チャンネル争議団、東京電力人権侵害賃金差別徹廃訴訟原告団、東京中村大島カッヒロ、同盟北辰弁護士田中ヤウラ、西山礼子、西村直樹、日本共産党赤旗編集局長榊利夫、日体荏原高校教職員組合、日本共産党幹部会委員長宮本顕治、日本共産党世田谷地区委員会滝沢キミアキ、日

本共産党東京都委員長諏訪茂、畑田重夫、畠山勝、百日草須藤洋二、婦団連立松タカコ、弁護士上案貞夫、弁護士高橋融、北辰電機社長清水正博、北辰電機山田弘、全金松尾橋梁、松下電工(株)東京加工品渡辺エイジ、三井信託銀行人事部長谷内ヒロフミ、三井信託銀行取締役山路岩男、港争議団会議、宮沢シゲシ、宮沢清子、柳、山田剛、吉田資治、代々木綜合法律事務所、労働者教育協会、ロードスター工業分会

生花・花輪

大田区労働組合協議会、沖電気争議団、加藤進平、割烹(駒がた)、五反田法律事務所、斉藤きくみ、斉藤光男、三福商事不動産(柏倉鉄)、鈴木義行、星光電気株式会社(半沢日出王)、全金多摩川ブロック、全金東京地方本部、全金南部地区協議会、全金北辰電機支部、東京争議団共闘会議、東京南部法律事務所、東京法律事務所、日本共産党東京都委員会、日本共産党大田区議団、日本共産党大田区役所支部、日本共産党大田地区委員会、北辰電機製作所、宮崎多喜、安田十二郎、子供一同、兄弟一同、岡安謙一

全金関係

全金東京本部、全金足立ブロック会議、全金新井鉄工、全金石井鉄工所、全金イソダメタル、全金宇野沢鉄工、全金NCR、全金荏原製作、全金荏原鋳造、全金オリシン電気、全金大田地域、全金伊藤放射線、全金大森クローズ、全金春日、全金桂川精螺、全金国安特殊、全金糍谷地域、全金シェルボリーング分会、全金昭和重機分会、全金セガ、深尾精機、全金ミヤマ電器、全金メトロニクス、全金東京レジン、全金八重洲無線。

全金海上電機、全金カコ、全金金石舎、全金糍谷ブロック会議、全金光陽社、全金小坂研究所、全金

GKS、全金菅沼、全金サクシヨン、全金斎藤鉄工、全金桜井鉄工、全金三興製鋼、全金品川精器、全金品川地域、全金シチズン時計連合会、全金島崎製作、全金島田理化、全金住友重機械、全金精工舎、全金大亜真空、全金大東工業、全金大東工業所、全金高砂鉄工大島、全金宝示戸鉄工、全金中興社、全金超音波、全金月島機械、全金電設機器、全金東京航空計器、全金東京製線、全金東鋼業、全金東邦製作、全金南部、全金日東ハンドル、全金日特金屬、全金日東機械、全金日東電機、全金日本アイビーエム、全金日本カニゼン、全金日本起重機、全金日本教具、全金日本鉄塔、全金日本鉄塔砂町、全金日本荷役、全金日本熱管、全金日本度量衡、全金日本ロール、全金長谷川歯車、全金浜田精機、全金ヒロセ電機、全金富士エレベーター、全金富士ホーニング、全金藤沢製作、全金プリンス、全金ベトリ、全金北辰電機、全金報国チェン、全金前田鉄工、全金前中製作、全金松尾橋梁、全金丸石、全金南千住、全金明工社、全金モタイシヨロワ、全金諸橋工業、全金理学電機、全金リオン、全金リオン電子、全金渡辺製鋼

争議団関係

大田病院選挙弾圧事件園加代子さん守る会、大田争議団共闘、光洋電子木村君の不当解雇を撤回させる会、酒本けい子守る会、三多摩争議団共闘会議、C&S日本支社支部、下谷病院分会、品川争議団共闘会議、昭和重機労働組合、全日本造船機械労働組合三菱重工支部、全べんてる労組、スタンダード・ウァキニウム石油労組川崎分会、スモン東京原告団、大正製薬・村上君を守る会、大日本印刷争議団を支援する会、東京電力差別撤廃原告団、東伸製鋼小川君の不当解雇を撤回させる会、東洋酸素労働組合川崎支部、東京12チャンネル争議団、東京争議団共闘会議、東京争議団共闘会議東部争議団共闘会議、日機装争議団、日刊ゲンダイ労組、日産厚木争議団、日本鋼管鶴見造船分会、日本ワイルハーモニー交響楽団労働組合、日本メール・オーダー分会、日立中研草野守る会、日立武蔵争議団、三井製糖更科守

る会、雪印食品争議団、吉野石膏労組、ワシントン靴店労組、

団体

安藤運輸分会、池上自動車教習所労働組合、内宮運輸機工分会、運輸一般神田支部、エスエス製菓分会、大田区労働組合協議会、大田区職員労働組合、大田病院労働組合、大田労災職業病患者会、大森日赤病院労組、蒲田鑄造所労組、機関紙協会都本部、杏林製菓労組、京浜協同劇団、建設一般全日自労東京都本部、小島成一法律事務所、五反田法律事務所、自交総連東京地連、品川地区労働組合協議会、芝信用全庫従業員組合、職場の自由と民主主義を守る山武連絡会、精立工業労働組合、全国一般東京地方本部、全国一般大東通信機労組、全国一般ナカス労働組合、全国鉄動力車労働組合連合会、全造船機械石川島分会、全造船機械佐伯分会、全済生会労働組合中央病院支部、全商業東京都支部品川分会、統一労組懇大田連絡会、東京医労連、東京学校教員現業労組、東京私立学校教職員連合、東京地評、東京南都法律事務所、東京法律事務所、東京都保育所労組南部支部、都高教大田班、東水労南一支部、蒲田支部、雪ヶ谷支部、トーホーオフセット印刷、南部労働組合づくり共同センター、日本共産党東京都委員友人一同、日本共産党大田地区委員会、日本共産党東京計器支部、日本共産党山成ハネウエル支部、日本航空労働組合、日本電機労働組合、松田製線労働組合、港区労働組合協議会、武蔵プレス分会、目黒地区労働組合協議会、ゆたか病院労働組合、労働者教育協会、ロードスター工業分会、

個人

青木弘子、秋山吉夫、安部静子、阿部芳男、新井進、赤木耕造、池山鉄夫、石崎、遠藤総司、岡良一、小懸親由、岡田好子、小川務、亀井静夫、菊地紘、日下、栗原、黒河内隆、後藤弘太郎、佐々木茂

雄、白石勝之、関根、杉田祥浩、杉本、高橋栄子、滝沢貴明、高山勘治、田中悌介、寺岡武志、寺田、永沢玲子、中原勇、成田穰、西村、仁藤峻一、野一色靖夫、橋本利正、原田泰雄、藤沢大司、古川寿英子、本田利夫、松村、宮田久雄、森田、柳角造、山崎良一、山下隆三、山田清二、横山明子、吉田資治、渡辺一樹

告別式香典

個人

青木幸、青木佐市、青木千恵子、青木友尉、青木弘子、青柳礼二、青山純男、秋山吉夫、秋山、厚木、阿比留静夫、安部勝明、阿部憲助、阿部芳男、新地淳一、新地ツトム、安西稔、飯村堤一、五十嵐ひろ子、池山鉄夫、石井明、石井賢二、石井弘、石井茂、石川映、石川久照、石川武男、石川禮二、石川進、石垣敏雄、石田、板倉勝宣、市川平八、泉靖海、泉龍二、石島卓爾、伊藤茂雄、伊藤茂、伊藤龍映、伊藤豊、伊沢、磯辺、井鍋、井之川巨、岩田穎治、碓井昭夫、内田光一、内村克雄、宇野和夫、榎本利子、榎本正雄、江端俊一、遠藤総司、遠藤日出男、円道幸男、大河内勝、大坂隆三、大島清伸、大島、大竹昇、大隅ミサエ、大角繁夫、岡野恵美子、小川、小懸親由、岡西靖夫、奥島悠一、尾崎陸、小沢信男、小田木茂、織田純忠、小野格士、小野実、小嶋三男、小幡三三、思田忠男、柿島一夫、勝又重、加藤勇、加藤賛吉、加藤進平、上条洋一、神辺英一、神林、金田江美子、唐沢公平、河相辰夫、河上増雄、川上、川太啓司、川又博、川又薄、菊川和男、北島武、木村靖男、工藤省司、工藤典男、工藤隆一、熊谷、久保光孝、黒川光一郎、黒木定規、小池一明、小池清雄、香田一栄、小嶋温、小島、後藤耕三、後藤忠弘、後藤弥一郎、古怒田磯古、古怒田幸子、小菅滋、小松明治、小町行三、近藤幸吉、齊

藤きくみ、斉藤正人、斉藤光雄、榊利夫、佐川信昭、桜井皓一、佐々木茂雄、佐藤勝利、佐藤久美子、
佐藤憲七、佐藤静雄、佐藤秀之、佐藤節子、佐藤誠、佐藤、佐藤、里口勤、沢口静夫、沢山伸也、三修
義篤、下山捷雄、下山房雄、渋川、渋谷要、嶋田隆英、清水貞雄、清水春枝、清水賢雄、白鳥よしつ
ぐ、城田辰男、新庄修、末次、菅野正好、杉田、杉山光男、鈴木清、鈴木英夫、鈴木誠一、鈴木中庸、
鈴木虎治郎、鈴木光一、鈴木義行、鈴木諒、鈴木、鈴木与平、関、関口、関口光彦、関口清、高木督
夫、高木晃、高木、高田、高橋健治、高橋信三、高橋恒雄、高橋元弘、田上三郎、高森敏次、田口計
介、竹内、竹中茂、立花宏平、田辺欣一、谷筋善一、田村登、玉木、茶谷、丁弘之、塚本澄雄、塚田大
願、塚田、塚本昌世、塚本澄雄、対馬幸光、土田尚義、角田、寺島、寺田新平、天広信頼、戸田隆、豊
島小夜子、島海孝、島海克己、内藤実、内藤、永井武、中川邦雄、中小路、中城達雄、中里忠仁、中島
三郎、中丈之助、中針昌代、中山義則、中村項、中村順子、中村二郎、永松政美、生井宇平、並木慶太
郎、成沢良三、縄誠三、南部時男、難波範子、二木留治、西、西海、西川久仁夫、西島清一郎、西弘
則、西村裕、新田善丸、二本柳勝彦、楡井泰子、丹羽、野上敏和、野口勝弘、野田節子、野本春吉、橋
本明、羽島、畠山勝、長谷川重雄、浜田尚、早川勝輔、馬塚、林、原田豊士、原田義之助、半田敬史
郎、日岡、引間哲也、肥後勝盛、日向昭次、平賀健一郎、平野武男、平野よし子、広木俊嗣、広木瑞
夫、広瀬孝、福井光三、福田陽子、福葉、古橋、星晃、星野久男、星野、堀川重晴、本多良男、増田節
子、松原忠雄、町田、松本勇、松本一夫、松本彦栄、丸茂勇夫、丸山英夫、三浦時生、三浦やす子、水
沢稔、水沢康子、三枝克己、三枝重六、三ッ橋信重、水上、峯田政美、宮田秀己、宮沢重治、宮川、村
上太一、村松、望月富治、元松、森下信夫、森野徳雄、守屋照泰、矢田政武、矢崎義一、安井彦昌、安
池是布、安田十二郎、安田東洋男、柳田、梁田政方、矢萩慶一、山崎桂佑、山崎喬、山崎良一、山下正
久、山城隆一、山田弘、山口、山森美意子、山本昌平、山本朗、山井昭三郎、柚木満丸、横堀、横山貞

広、吉川正一、吉田明、吉田信也、芳木勲、米原昶、寄国、和久信子、渡辺昭夫、渡辺育雄、渡辺英二、渡辺七朗、渡辺征四郎、渡辺吉克、和田

全金

アイビーエム、東鋼業、浅羽、イダメタル、宇野沢、NCR、大田地域、同下丸子地区協議会、東和タイプ、大泉製作所、大谷重工業、カコ、春日、桂川精螺、京浜電測器、光陽社、斉藤鉄工、ジェコー、島田理化、菅沼、鈴木シャッター、大東工業所、高砂鉄工志村、中興社、月島機械、東京地本書記局一同、東京西部地協、東京、東部地協、東京・南部地協、同多摩ブロック、東京計器、東京秀工舎、東洋電子、ニッタン、日東電機、日特金属、日本機械工業、日本起重機、日本教具、日本電子、旧日本理化、日本ロール、長谷川歯車、品川精器、福成社、プリンス、報国チェン、北辰電機、前中製作、明工社、目黒地域、八重洲無線、横河電機、理研計器、岡崎敏・組合員一同、

他団体

安保破棄東京実行委員会、石川島藩磨都労委提訴団、内為会、AGS労組、江口酒店、榎木利子さん守る会、荏原病院有志一同、大田区労協、大田争議団共闘、大田労災職業病患者会、沖電気争議団、小田急電鉄不当差別をなくす会、化学一般岩崎製薬支部、化学一般東京支部・エスエス製薬分会、蒲田民主商工会、小池自治会、国民救済会大田支部、国労蒲田電車区分会、五反田法律事務所、三洋会、私教連・高千穂学園分会、芝信用金庫従業員組合、職場の自由と民主主義を守る中央連絡会議、職場の自由と民主主義を確立する石川島連絡会議、新日本婦人の会大田支部、新日本婦人の会小池班、スイス航空争議団、全印総連東京地連・細川労組、全学研労働組合、全金同盟・北辰電機労働組合、全国一般・中須

労組、全国一般・理化電機工業支部、全国税労組大田連絡会、全商業・日本メールオーダー分会、全信労芝信用金庫従業員組合、全石油・東亜石油川崎製油所労組、全労災東京労災病院支部、大正製菓村上君を守る会、炭研精工労組、中央区争議団共闘会議、千代田争議団、賃金昇格差別撤廃共闘会議、統一労組懇太田連絡会、東京医労連、大田病院労組、東京合同法律事務所、東京地方争議団共闘会議、東京地方労組評議会、東京統一労組懇、東京南部生協労働組合、東京南部ブロック共闘会議、東京南部法律事務所、東京法律事務所、東京労働金庫蒲田支店、東京ワイヤー労組、東洋酸素労組川崎支部、トーホーオフセット印刷、南部組合づくり共同センター、日本光学労働組合、日本航空労働組合、日本ゼオン争議団、品川争議団共闘会議、平和島競艇労働組合、(株)北辰電機製作所、北辰計装榎本不当解雇撤回共闘支援共闘会議、星光電気株式会社、ホテルニョージャパン労働組合、マイルド、港争議団共闘会議、雪ヶ谷民主商工会、預金会

日本共産党

東京都委員会、大田地区委員会、全金中央支部、全金東京グループ、仲池上支部、下丸子支部、日本起重機支部、日本共産党長谷川歯車支部、日本共産党三菱下丸子支部、日本共産党東京二区後援会、日本共産党大田後援会、日本共産党佐々木茂雄後援会三役一同、日本民主青年同盟大田北地区委員会

追悼・岡安政和

発行日 1982年6月24日

発行 「追悼・岡安政和」編集委員会

〒146 大田区下丸子2-16-10

全金北辰電機支部内

TEL. 03 (757) 1053